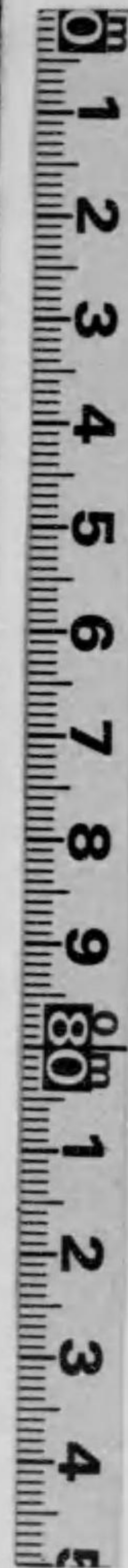


始



南洋一巡

朝倉政次郎

南洋一巡は旅行中親友及吾家に送りたる通信集なり草卒の行文にかゝり意味も文章も體をなさず然し空しく層籠に投ずるも變なものさる人の無理な勤めに委せて雜誌に載せる事にした勤めた人は雜誌の紙塞ぎの意味である事は明白である文章は其儘一言一句も訂正せぬ事にした(三月)

第一信

拜啓九時五十分臺北發十一時頃基隆著郵船會社の船田君小川君に送られて船(北都丸)に乗る中村長扇の兩技手松倉小池伊藤藤柳田の諸氏船内迄来る續て郵船支店長の高柳君も態々船まで見送らる南洋「ジャバ」行貨物茶干噸程を積まるなかなかたいたしたもの覺ゆ午後一時解纜初めて南洋視察の途に上る貨物船なれば船内は如何と思ひしに最上等の室にてサルンに接し中々便利なり船長は森田幾藏君と申して熟練なる人の由相客南洋スラバヤ在住の池田君あり農商務省練習生にして同地高橋商會と申す店に居り四箇年間も同地に住する人食事の外は仕事もなければ毎日南洋の談にのみ耽り且南洋専門の船としてジャバに關する種々なる參考書も有之筆記抜き書きなどにて日を送り申候

南洋一巡

十四日夕方は臺灣島を見放し十五日は終日島影を見ざれども夕方に至り支那内地の燈臺を見十六日朝は香港より約九十哩東の燈臺を見る今朝八時は香港迄あと八十哩なれば十七日著の豫定も十六日夕方香港著かと一同相悦び居候

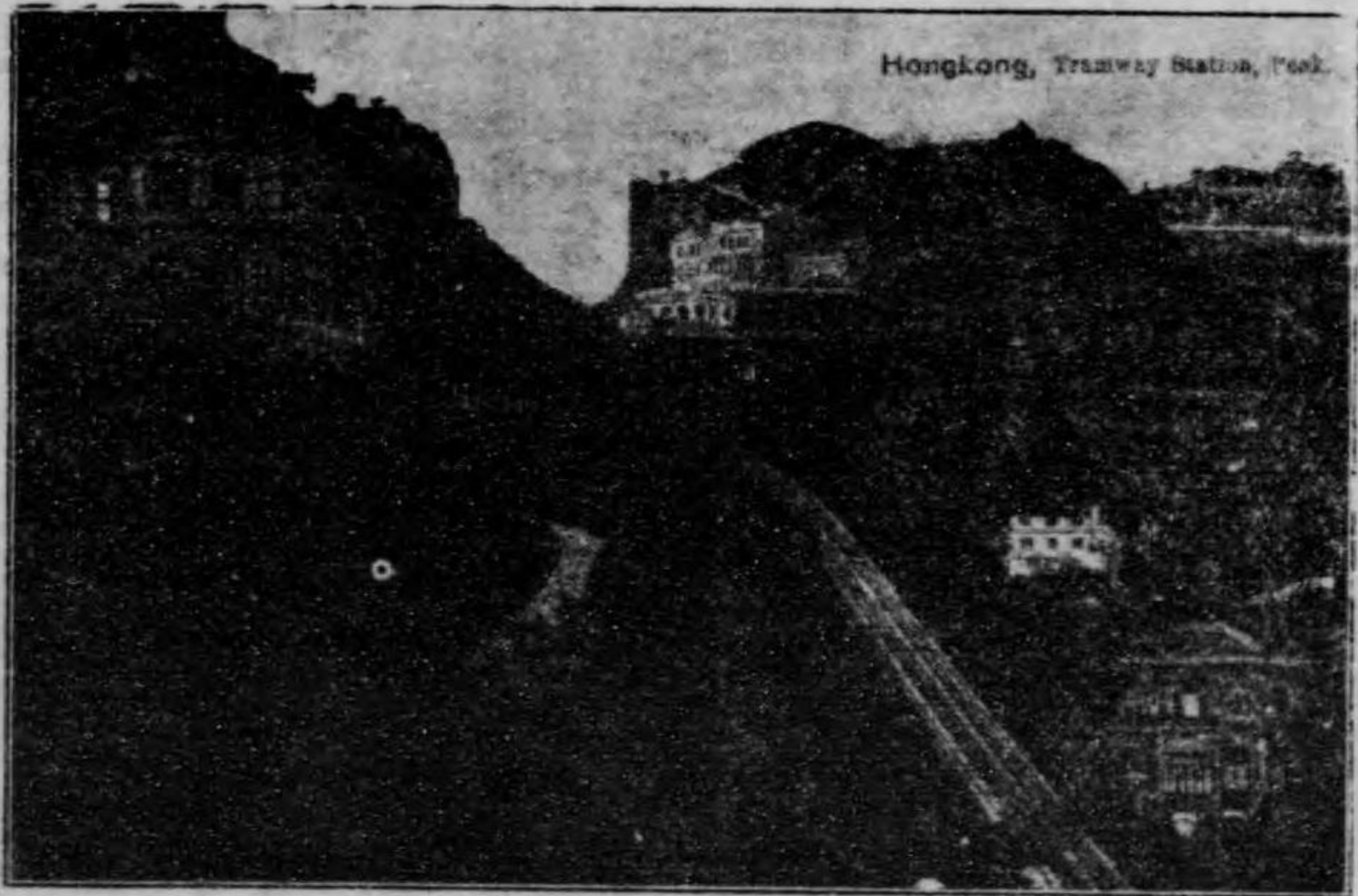
船客の池田氏と申す人は内地より娶たる年若き新妻を携帶せられジャバに向ふ人年配は三十四五妻君は東京人にして二十歳位と覺え候他に一人の女客あり年頃は矢張二十位にして初めて單身内地よりジャバに向ふ人尤も先方に良人もある由然し交通機關の發達とは申せ今更ながら其便利なること又向上心の盛んなるには小生訝なからず感じ入候

ジャバと申す處は古代はジャカタラと申したる處にて中古和蘭貿易とはジャバの主府マタビヤとの交通貿易にて其時代なら大したものに御座候如斯勇氣ある婦女子ありてこそ日本男子の南洋發展も日に月に進歩する事と存候一等客は此四人丈けにて船長初め高等職員はテーブルを圍んで談笑食事し何の氣苦勞もなく丸でファミリーの如く嬉々然と消光御心配御無用に御座候あとは香港著の

上又々可申達候

第二信

非常に怪しいと思ひし北都丸は益々順風に黒煙を飛ばしつゝ速力益々比較的早く十六日正午には残り三十哩餘にて香港著の豫定となり人々皆大いに悦び晝食後余は上陸の準備に掛り雙眼鏡にて附近の沿岸山脈を望観しつゝ一時半には香港の山が見え三時に香港港外に一時碇泊したこれは戦時なる故に海軍より點檢に來りしものなりと二十分程過ぎて更に動き出した港内沿岸より僅か距れて竹竿の先きに赤旗を附けたる旗點在す聞けば水雷を布設せる防禦區域なりと次第に進みて東入口鯉門水道に近づくに従ひ左の Cape of Collison から右の Devil's peak などには幾多砲門増設せられ大きな砲三四門は急造にて丸で割出しのものも見ゆる其周圍には幾多の Camp が建てられ毛むくじやらの印度兵が三々伍々警戒して居り岸に近き砲臺附近は鐵條網が敷かれてある等一見軍國の多事か想はれる更に進みて東入口の兩岸尤も接近せる所謂鯉門水道は非常に迫りて右岸には山下に門を鑿



ち夫れより直接に水雷を發射する事が出来る此れは今回軍事の爲めの新設でなく平素の防禦設備なりと何んだか知らんか此等船が

イの説明など聞きつゝ船が次第に港内に入れば丁度其直前に敵の分捕商船六七千噸から一萬噸位のもの七艘入口の正面に向て排列されて居る其'Devil's Peak'より下部は赤く塗られてあるが丸で赤復を出してへたバツテ居る様な恰好で入口より来る各船にバツテでもして居る様にも見え又は砲發射の試験の好材料となる様にも見ゆる次第に進みて大湖船渠を左に見かオラン船渠を右に見所謂帆船林立の間を縫ふて北都丸は Wan chai 波止場の前に投錨した然しこれは棧橋でも岩壁でもなく岸より五六十丁も距れて居る處である海より見た香港は山脚の海に接する處は四層五層の家屋灰色となりて建ち列ひ少しく高き處は全部綠樹の正面にホテル別荘住宅の宏壯たるものが點々散在して自聖赤彩實に萬綠叢中紅千點の觀あり晝は左程にも見えぬが若し其夜夜間電燈を點するに至れば其美觀や言語に絶するものあらん人曰く香港の景は海より見たる夜景にありと上陸を急ぎ船付きの

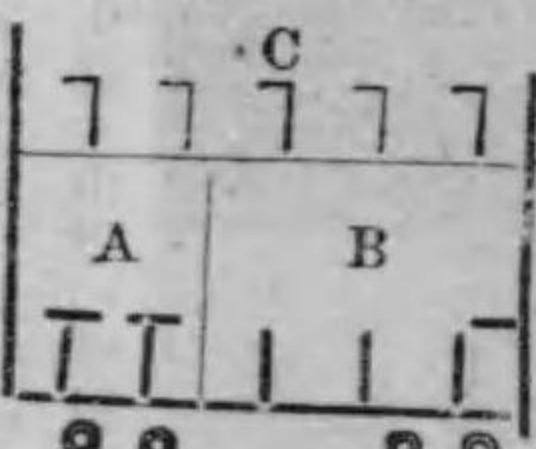
棧橋に乗り船のボーイを伴ひて上陸波止場に至る三井が北島から誰か來て居るかと思ひしが誰も來て居らぬ少々驚誤付たボーイは走りて日本人の洋服屋の住所を聞きに行つた勿論住所が分つて居るが英文で書てあるから苦力に分る筈はない十五分程待つて居たら分つたと來たが幸ひ東京ホテルのボーイが居つたから萬事を頼んで人車に乗つた北島に持つて行ふとした日本酒は波止場の番人がいけぬと云ふ他の醬油の瓶を開けて香を嗅かせて通した成程自由港なれど酒丈は税を取るものである其れで酒は後で船から届ける事とした序に船が停ると一時に本人や支那人は重に煙草に小雜貨を持つて販賣に來た煙草が安直なると小銀貨の必要の關係から煙草一袋買入兩換した煙草は兩口の可なり呑めるものなるが一袋八錢だと言ふ兼て船内で交換した一圓銀貨を出したら九十五錢返した一圓銀貨は今日此處では小銀貨一圓三錢の割合なりと斯様にては兩換は旅行中の一苦勞ならん貨幣の世界統一は不可能ならずして必要な事業の一たる事エスマランド語の世界言語統一と同様ならん漸く東京ホテルのボーイに送られてホテルならぬ北島醫學士宅に入つた兄は幸ひ在宅であつたが少々面喰つた實に北都丸は十七日入港の豫定が一日早く十六日の午後四時に入港したのである郵船で無線電信でもあつたら此様な間違が起らぬのであらう久潤の挨拶もすみ手土産物を渡し鳥の鋤焼でウキスキーを傾け心陶然として身もゆるり夜九時半頃より市内散歩と出掛けた香港の日本城子軍街は二箇所あるさうである一は北島醫院の近所と一は市の東端 Wan chai との二箇所で前者は貴族院と稱し後者は衆議院と稱し此日見たのは衆議院の方である建物は悉く四層

建の峨々たる建物である隣接衆議院の餘地もなければ庭もない丸で煉瓦造のマツチ箱を縦に排列した様である艇子軍は店の兩側に腰掛を列べ其前に小机を置き女軍の様子は異様奇觀メキシコ派の洋裝へ同色のホンネットを付けた者尤も多く丸で此間臺北で見た浦路や孔雀の様なものである而して多くは腰掛の前の小テーブルでトランプを玩んで居る是れは何の家でも同様であるどういふ譯だらうか分らぬ

香港は朝食は八時で晝食は一時夕食は七時である役所は十時九時より開ける訪問は十一時位との事宵張の朝ね坊には持つてこいであるが正反對の余には朝早くバチバチ空腹を抱て早く食事が來ればよい此手紙も朝の間三十分程に書き終つた

第三信

朝九時で朝食 Breakfast は纏て十時から始ると退屈凌ぎに七時半頃より電車に乗りて市中散策否車上見物と出掛けた市の中央邊より東の端まで乗つた單樣架空式にして線路は複線にして軌間は三呎六吋線路は勿論道路全體はコンクリートを張つた中々清潔に掃除して塵一本も見當らぬ而して又車體は内地に於けるものと全然異なり室内はAとBとに分たれ更に屋根の上にも乗ることが出来る而して各室共机掛ありAとCとは上等にしてBは下等なり蓋し初めはA及びCは歐人用としBは支那人用とせしならん今は支那人でも上等賃金を拂へばAにもCにも乗ることが出来る下等は一區五錢にし



て上等は倍で十銭なり車掌運轉手共支那人にして制服等もあり
嚴重ならざる如く兩者共支那人の平服の如きものあり一區と言つ
ても五丁六丁のものにあらず香港全體
を二區に分つ一區の長さは一哩以上も
あらんか(此は後で調べる)然も平地に
於ける大都會の地勢と異り非常に窮屈
なる山脚に沿ふたる市街なるを以て電
車は海岸に沿ふて一直線になり乗換も
なければ交又もない

内地の電車の如くつり革につかまつた
り車體外までぶら下りて定員外二倍も
乗せるなどは丸で違ふ乗客の少きた
めならんか市内交通機關として此電車
の外に人力車と(Motor 即ち轎(カゴ))
とあり人力車は内地のものより少く異
り車輪は徑小にして車軸及車輪共餘程
大きく勿論ゴム輪を使用し車徑小なる
が故に乘る處は内地のものより少く
低く一見中々丈夫に見ゆ乗心地も悪く
ない車體の色は大部分赤色とす車数は
中々多い轎は多くは屋根なく臺灣のも
のと變りなくまして臺灣のものより屋
根を取除きたるものと見れば差支ない此が又市内非常に多し二人
で乗る時は轎夫は態と一列にならずして二例に接して相互に談話



を交はしつゝ行けるなどは中々乙に出来て居る轎の多くは車道よ
り直ぐ山道の嶮難なる道路となり力車が通ぜざる故で而して又
人力車の通ぜざる山地にも商人街非常
に多きのみならず住宅ホテル別宅等非
常に多い
朝食を九時にすまし十時半頃より三井
に至り林支店長に面會す種々なる話し
の末今日佛國郵船出帆すると云ふ實は
北都丸で行けば新嘉坡にて二日間きり
なくシヨホール彼南は見る事が出来ぬ
十八日出帆の八坂で行けば直行である
から西貢が見られぬ外遊の機を逸した
余は成可く多く見様と思ひ實は郵船會
社がトーマスクックに行き沿岸線航海
船あるかと訊して見んと思ふて居つた
又ハイカラなる純外國船にも一度は乗
つて見様と思ふて居つた然し林君の話
では正午十二時出帆であると言ふ今十
時半だからそれは間に合はぬ尙會社
に訊せば後一時半だと云ふ則ち夫に取
極め十二時十分頃萬事の用事をすまし
三井のボートに送られて本船に乗つた
北島兄及通譯と共に船中まで送られた
以上十七日午前十時半船中にて僕は西洋人の男と女飲物男と男

はトランプ遊びに餘念なきを見音楽室で書く

第四信

三井の小蒸汽で送られて乗船し掛け梯子の所で佛語で「ル、ブルミ
エ」(Le premier 一等か)と聞た「ワイ、モツシュエ」(Oui monsieur
左様です)と答て部屋に導かれたのは少なからず懐しかった部屋
は百十一番である朝食を終つたかと矢張佛語で問ふ「バ、アンコー
ル」(Pas encore 未だ)と言ふたら食堂に行けと言ふ見送りの兄を
返してカールソンに導かれて食堂に入つた中々大したものので四人坐
りの table が左右に二十で八十人中央十人座席のものが八箇都
合百六十の座席があり室の中央には配膳 table が四箇程ある中々
大なるものである食堂に因みたる此佛蘭西船の食事を記して見よう
普通吾々の考ふる食事は晝と夜との二つである朝は單にパンとカ
フツエー位のもので晝は八時より九時迄の間に自由に取る事が
出来る晝食は午前十一時より初まり本式の料理である料理は非常
に分量多く鹽から過ぎる傾きありて量も鐵道ホテルで取るものよ
りは中々に多量である机の前に Vintre table 即ちテーブル付き
のブドウ酒無料にて隨意に取る事が出来る
カールソンが少しも英語が解せないのには困つた變な顔し又何か言
ふと英語を解するスチワードが来る其れが又馬鹿に早くて聞取れ
ぬが先無事で過ぎてやれやれと思ふた夜食は午後六時半より初ま
り余の席は四人座席のものにて次の机には西洋人の夫婦者が居つ
た晝は一人であつたが次の朝から支那人のハイカラな洋服の三十
位の年配の先生が来たあゝ東洋人種として選席されたのかと思ふ
た話は中々達者な英語で新嘉坡まで行くと云ふ無理もない話して

後で名刺を交換したら James L. G. See, St. Stephen's College,
Hongkong と来た達者も無理がない一等には日本人一人でふくれ
た腹を思ひ切つて談話で減らす方法がない時々船の士官など極め
て流調ならぬ英語で話しかるが英人に話すよりも互に外國語であ
るから鈍つて話しがし易い二日目よりは二等運轉手などと話合ひ
顔見合せて目禮する様になつた軸の三等客を甲板の上より覗き見
ると三十位の單衣に細帯の婦人が居つた勿論娘子軍でなく人の妻
君らしい二階と下と話して日本人が澤山居るか聞たら只二人居
るのみと言ふ更に話を続けようと思ふたがこちらで思ふ程に先き
は何んとも思はぬらしく話を續けよせぬから止めた

下の甲板には甲板旅客の支那人が二三十人居つた内主人妻君と子
供四五人寄り合一つの飯椀で二三人互につまき合つて食ふて居る
炊事も自身でやるので至極安價に旅行が出来然し或者は各自銘
々に自分で藤の寢椅子を持つて居るから座が中々に都合がよい如
斯く安價に旅行が出来るから今日南洋の支那人が百萬以上だと云
ふのも無理がない日本でもどしどし保護金でも興へて南洋移民
を多くしたら善からう保護金も要らぬがどしどし自由に移住が出
来る様に官邊でも便宜を計つたら善からう軍隊許り勝つのも悪く
はないが外交はより以上に勝つて貰ひたい
今日は十八日であるが天氣は中々好い然し次第に赤道に近く晝頃
よりは白衣に衣更した人も多くなつた余も今晚あたりは衣更の時
だらう

第五信

十八日午十二時アトランチック船中にて

先便には船の食事は二食と書たが正式にテーブルに就くのが二度と Early break fast は夏期は六時半より九時まで冬期は七時半より九時迄の間に随時食堂内で一箇所に陳列して有るのを取ることが出る是れは茶とパンとビスケットと卵料理だけだ又朝の十一時と夕の六時半との中間午後四時に茶と菓子がある

船にも慣れ又ホッ／＼話相手も出来た僕の食堂の食卓相手は先きにも述べたが段々話すれば清國人否中華國民でなく混血兒で支那語は少しも知らんと言つて自慢して居る香港の學校で探礦冶金の學科を修めて居るのださうだスマトラホルネオの礦業を練習勞々見に行くと云ふ食堂には常に余より少しく後れて来る食事は常に余の取りしものと言ふ彼少しも佛語を知らず僕の少しく讀める(但話セマシ)のを頼りとして居るのであらう然し國言葉だけ英語はうまいもんだ十八日晝より白衣に更衣した夕方の食事の折に雨が有た冷氣一番テーパーの葡萄酒も少しく餘計に要つた勇氣も激しく床に入りてうつら／＼として眠りに入つた

十九日食事前にセントルマンらしき一洋人と話したたら Mr. P. H. D. とてヒリッピン林業局の監督にて臺灣の金子氏は淀(軍艦)で同島巡視中世話した人なさうだ親切に旅行の事など話してくれた余は臺灣の地圖と案内記などを送つた其の妻君は中々美人であるが突然木下君を知つて居るかと言ひ出した其を緒として種々話した木下君とは東京横濱の知己で妻君が二年前に死んだのも話した先生等は横濱で結婚して今度各地を巡視の上米國に出張するのである世の中は日に益々狭いものとなる今日は晝よりホツホツ島影を見る頭部は縁に所々御影石の崩れたのや波に洗はれてゐる奇岩

怪石やらが前面の特に黒き海水と相對照して中々見るも旅情を樂ましむ

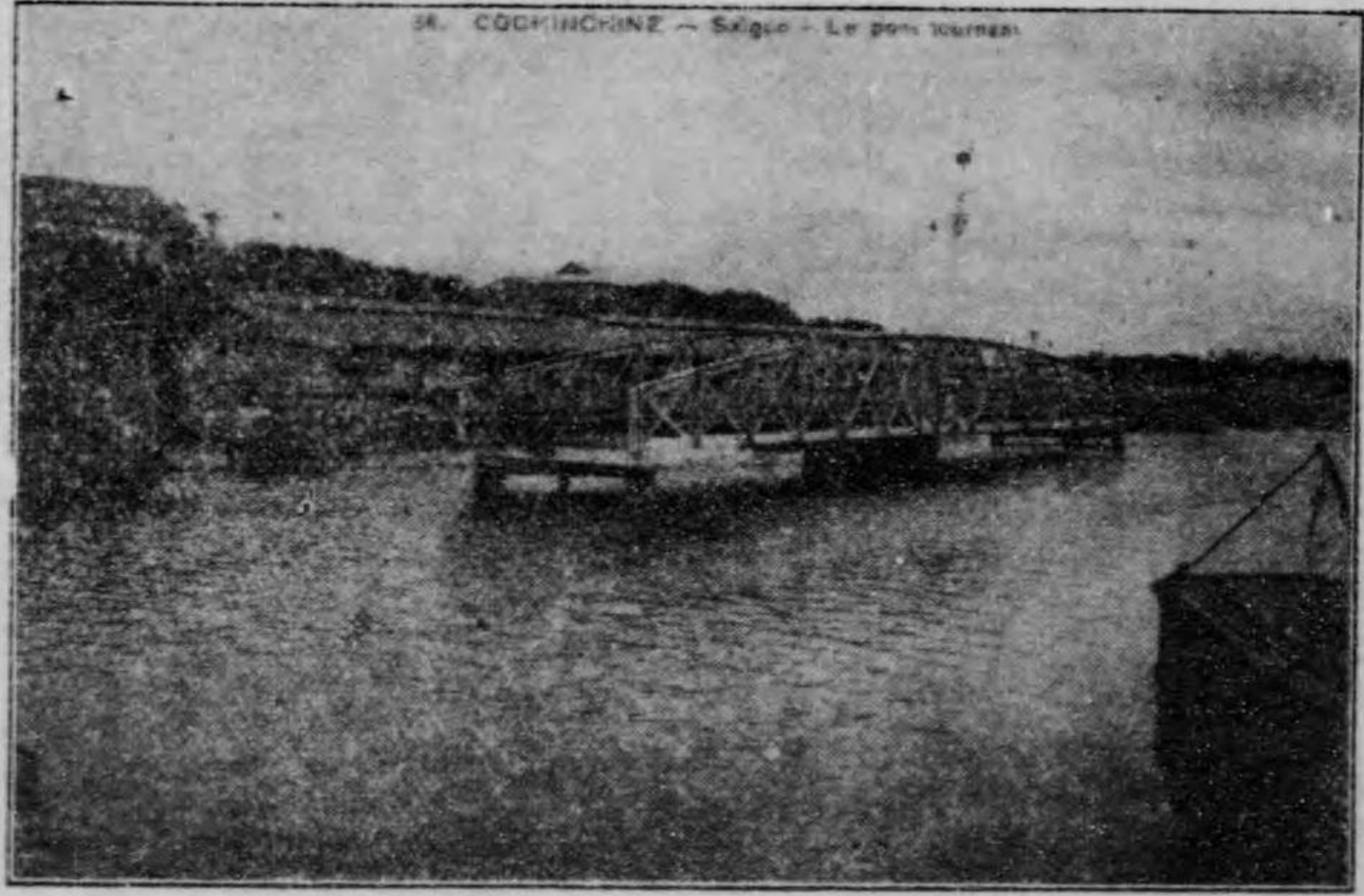
後四時頃雨があつた熱帯地方の雨(驟雨)ほど奇異なるはなし眼界二十度位は黒雲漲り豆粒大の雨あるが其の眼界以外青空だけそつとして居る其驟雨は三十分位で止み其間と其後の心持の好き事實際出會した人でなければ知る事が出来ぬ

六時頃暗くなりしが三日か二日の望月が黒い海上に躍り出た嗚呼何んと云ふ美觀であらう暫く手摺に倚つて眺めた阿部の仲麻呂が留學の歸途風で流され逆戻りし三笠の山と詠んだも何んでも今余が通過する支那大陸の土地である名残り惜しくも六時半の食事べルに促されてルサンに入つた食事中も臺灣では此月を如何に見るたらうなどと想を走らせ食事を済して甲板に上れば望月益々細く殆んど水際に接し須臾にして海中に没した又明晩の月を樂まん暑氣甚しくキャビンに歸り上衣を脱し電扇にて冷氣を取りとろとろせし後更に十時半に起きこれを筆にした今丁度十一時なり明日は西貢着の豫定なり

アトランチック船内にて
第六信

二十日朝ドナイ河の入口なるサンカンタンと云ふ海岸の一村落に著いた綠なす樹木の間赤瓦白壁の家が五六見ゆ何んでも兵隊の居る所なさうだ燈臺は小山の上に立何んだが水雷艇の様なもの四隻程居つた水先案内を待ち漸く午前十一時頃に船が動き出してドナイ河を溯る此ドナイ河は不思議な河で年中赤土水となり河幅は漸く三百尺も有らうか水深比較的深く一萬噸の船でも樂に上り得

ると云ふますれば二十七八尺以上三十尺もあらう兩岸一望平野にして只高さ五六尺の色も鮮かなる綠樹で一而蔽はれ一見其際涯が分らない河の入口まで船より左側には浮見室的燈臺は四五丁置に建てられ其の後は繪にある天の橋立の様な細長き綠の林が續いてゐる實に景色の好き所であるが其海邊を過ぎてドナイ河に入れば迂餘曲折うねり／＼して次第に進行し其間白帆を孕せた漁舟や手摺で押す小舟などが往來し約一時間も過ぎたと思ふ頃に約十丁程の水田を見た其處には椰子の葉で葺た内地の田舎にある様な細民の小舎が見え附近にある熱帶植物の椰子や棕櫚の葉の様なものが無かつたら内地の田舎と變らない一時間半も過ぎたと思ふ頃から水田一面に多く椰子小舎次第に増加し教會堂の建物も見えた二時間も過ぎれば高い Chateau の二つ併列した尖塔が見ゆるこれが又船からは左に見え右となり果して川の何れの側にあるのか分明せぬ様に河は曲折して居る漸く二時半に西貢税關波止場の前に横着けとなつた此橋は基隆や打狗の様な大仕掛の岩壁やピアーでなく只木杭の上に板を併べたに過ぎない極め



て簡單なるものである斯く輕便なるは全く河自身の賜である然し日本人なれば淡水河に護岸をする様に石材やコンクリートなどを勿體らしく使用するで有るまいか此の附近はこの棧橋のみならず其附近にも七八千噸の船も泊つて居たが皆一様である荷役は船が直接陸に卸すのも他の一方からは矢張タンベで持つて来る然し大貨物を卸すには陸上クレーンの設備も他の箇所にある行く途中に五六千噸の獨乙の商船が下部を赤色に塗つてしよんぼり河岸に著いて居た其有様は哀はれにも見ゆる

初めて香港の三井で南君や井上君から紹介状を買つて来た時余より電報でも打とうかと言ふたら何に船が直ぐ陸に横着になり其れから斯様／＼行けば日本領事館の事務室である間違ふ事はない十分位で行ける所であると地圖を書いてくれた余も亦餘りに迷惑を掛るのも嫌だし斯くすれば其の旅行が出来ると思ひ言はゞ無断で入西する事にした然し上陸して如何かと心配した船が立派な妻君らしいので大に心強かつた尙よく見れば日本人らしき

西貢ニ於ケル轉回橋

男が其他に二三人居るやれやれと嬉しく感じたり然し一般に南支那の支那人の顔は日本人に著しく似て居る特に鬚髮洋服とては丸一寸區別が附難い陸に上つたら早速婦人の御方に言葉を掛て事情を御話ししようと思ふ内に日本人と見た先生三人船上り名刺を出された心嬉しく互に話し合ひ俤に乗りて日本名譽領事の佛人リサージュ (L. J. S. J.) 氏の事務室に案内され續いて成島書記生にも面會種々なる調査に一方ならぬ世話を受けた然し鐵道に關する調査材料は全くない是等は悉く首府河内に有るので此處では何んにも分らない二三の参考書を見それより蒸汽市街鐵道に乗り (Chlor) の市に行かうと言ふ其時は夕五時である市の場末の停留場に行つた九尺二間の古ぼけた煉瓦造の家だが丸で二世紀前の建物で其後少しも修繕も加へない様な工合只壁に沼ふて腰掛が有のみブラットホームも何もない其内に列車がガラッ〜とベルを鳴らしつゝ到着した乗車してから切符を買ふた機關車は十四五噸のもので軌間は一般に一米突燃料は主として木材にて赤味を帯びた外見龍眼肉の様な堅實なる木で有る是れに煉炭



(地産) 米頁西(ナ名有)街ノロヤシ

を混用する客車は四車終りに無蓋車一輛を連結して居る切符は一、二、三等であるが金さへ出せば支那人でも安南人でも何の等級も乗れる何等制限的規則がない然し歐洲人及日本人の外は二、三等が多い一見すれば線路は緑色の broken stone を充分に用ひたる所あり又は臺灣の製糖會社の蒸汽鐵道の様に丸で草根で固つて居る所もある枕木は重に木である鋼製のものも一部あつた列車は市街道路の上を走り二十分にして Chlor 市に著た Chlor は重に支那人の住する米の一大集散地であるが終端停留場は道路の一方にあり loop 線となり機關車は其處で附換をなす停留場の前には中々大屋高層の有る商賈地で線路と家との距離は僅か四五間のみ其處でガラッ〜と木材燃料の煙を出しつつ運轉附換をなすあまりに體裁と規則とのみに捕はれざる此式も一觀する價值あると思はる勿論所にも依りけりである Chlor の市街を一見した成島君の話に依れば市中商品の大部は日本より來るので直接内地人の手で物産多しと但し内地に居る支那人より來るもので直接内地人の手で輸入し販賣は出來ぬと残念極まる此線は會社の私線であるが歸路

は西貢より Chlor を經て Myze に至る線の一部なる官線に乗換へ歸西した大體前者と變らない翌日領事館に至り二階の窓より見ればシャンチンクであらうか汽關車を中央に置き兩方に車輛六七輛を續けてガラッ〜と運轉して居つた七時半よりリサージュ先生の晩饗に招待を受けて成島書記生夫妻と共に名譽領事の宅に御馳走になつた名譽領事は佛人二十有餘年西貢に住し鉅萬の富を作り人格崇高誠に敬服す可く日本人の爲めには非常に盡力せられ相當權利に付て佛人に對しても一歩も負けず時々總督に直接談判をなしても日本人の權利を尊重する誠に西貢在住者のみならずコーチ支那の日本人に對して意を強ふするに足る食卓中誠に愛嬌あるリサージュ夫人の談話と成島夫人の嘲罵の如き話とにチャームされ時の移るを知らず特に皿は悉く日本國旗を記しあるのである外務省より送られた物かと聞たら成島はなに先生自身で作られたもの外務省は冷淡で年二百圓しか呉れぬと言つて居た馳走果ては庭園コンゴ一樹の下に藤椅子を排べ主客四人主人の自からなせる著音



西貢公立劇場

機曲の日本曲にて故郷の事を偲ばしめ終つて玉突場に行き英國球を二三回やり時も遅くなりたればとて十一時頃領事の室を退き俤にて成島氏に送られ日本人俱樂部樓上に至り日記をまとめ一時半頃に床に入る右二十一日朝ドナイ河を下りて海に出てから朝十一時記す

第七信

昨夜の話により今二十一日はリサージュ氏の厚意に依り Brian Hoar と云ふ所まで自動車走らしゴム林を見旁々鐵道及道路を視察しやうと朝六時に起き船に戻り衣服を更へ日本人俱樂部に歸る八時頃成島君令閣自動車にて來られ共に乗りて領事館前に至り在在の日本人森元藏氏と都合四人風を切て市中を乘廻し公園に至り動物園を見それより郊外に至る道路は赤土にて恰も桃園附近のものゝ如く盡く石を入れて築造せるを以て平坦砥の如く加ふるに山岳丘陵等の有るなく單に平野の間を走るを以て乗心地のよき事誠に上乘たり而して道路の兩側には殆ど悉く竝木ありて自

議論は後にし而して道路は鐵道線に沿ふて以て一方其構造を見るを得可く一擧何得かに當るこれ誠にリサージ成島氏の厚意に依るゴム林迄約二十キルメートル十時過ぎ著し林内に自働車を入れ椰子葉葺の小舎に著いた主人は佛人にて今歸國中妻君は五十恰好の日本人で有つた新鮮なるレモンの汁を容れたる茶やビスケットの御馳走になりゴム液の絞り工合粗製ゴムの作工合などを見た勿論小規模のものにて土人の小供二三人之に従事して居つた植付後五年位になるさうである其隣りの日本人經營のゴム林に行つた一人の日本人と二三の土人とあり之も個人經營のものにて植後三年五千本あり次第に擴張中なりと附近の土地は盡く平野にして雜草灌木繁茂し往々雲突く大樹其の間にあり此一週間は虎の聲を聞くと嗚呼恐堪動動實に感ずるに堪へたり此林も今は九分通出來た其成功を祈る切なり十時半頃此處を辭して同道をひた走りに走り十二時に成島氏の私宅に著晝は同氏の宅にて楽しくも鮮魚の刺味に蝦の天ぷら羅米の飯冷風微に來る「ペランダ」の上で御馳走になり外國語を使つて此方の言ふ事が分るか先方の言



西貢入口支那舟

ふことが別らぬかと氣苦勞する事もなく自由自在に淡じ合ひ樂しき食卓を名殘惜しくも二時半此處を辭して市中を乗り廻し動物園を見蛇やクロコイルなどの番人が種々と使ひ別けをなして見せ内處でそつと公然と請求する銀貨を支拂ふ象に銅貨を投ずれば直ちにバナナに變する番人に投ずれば直ちにバナナに變するなど鐵柵を圍らした小池の内の大鰐を竿に突き出した土人に銀貨を與ふるなど種々見物して暫らくは小供心になり四時半俱樂部に歸り五時領事館に至り兩氏に挨拶し徒歩船に歸つた。今日は亦船内は大騒ぎである五六の士官は戰爭の爲め本國に行くのである成島夫妻は七時半頃舟にて見送られ紫色の洋服に鼠色の帽子白羽二重の被布を肩より掛けて見送りに來られた非常な美人で丸で人形の様な恰好である衆目皆之れに集るとはこれであらう。本國歸りの士官連を送る連中は非常に多く船に沿ふた棧橋道路は馬車自働車で一ぱいである其の困難言ふ可からず植民地は常に何處でも本國に比し殺風景なものであるが船の發着の見送り出迎ひなどは年中行事の一つであらう乗船士官も見送

り連中も夫婦者非常に多く契煙室の周圍綺羅を飾りし佛國人で一ぱい其處も此處も物蔭では互に別を惜しむ喋々嗚々が盛んである或先生などは二三の安南女と泣聲で話し居つた十一時より十二時にかけてマルセーユの國歌や萬歳の聲なども度々聞いた午前一時より一時半にかけて大槓は散じた萬歳で思ひ出すが何んでも青島陷落の時に西貢在留の日本人は或軍艦の乗組員の一部と佛國軍隊の一部と合して提灯行列を行行盛んに萬歳を唱へた之が著しく好感情を惹起し小供でも萬歳を喚び且つ今日迄は佛國人の方より握手を求めなかつたのが頻りに先方より握手を求められたりとなつたとの成島氏の話であつた更に同氏は此機會を利用して日本貨物輸入の一大障害たる關稅の値下げをしようと云ふて居られた誠に千古得難き好機なり成功あらん事を祈る

二十三日午前七時半記す

第八信

西貢の鐵道

十一月二十一日には當港名譽領事佛人サージ氏の厚意に由り同氏の自働車にて成山書記生夫妻と同市より約二十キル離れたる Bien Hoa にある邦人や佛人經營のゴム林一見と出掛け候道路は非常に行届きたるものにして赤色恰も桃園附近の地質の如く路面は盡くアローケン、ストーンにて衝き固め道路の兩側には見るも涼しげなる竝木を處狭き迄に植点ドライブには實に最上等加之車上より鐵路の視察も出來一擧兩得とは此事に候

停車場は各驛共至極粗末なるものにて材料こそ木材煉瓦混用なれども丸で建換前の基隆臺北間の建物に類似し貨物庫殆んどなく

(最も水運便なれば大貨物は多く Green に由るならん) ホーム等もなきあり或は高さ僅々九呎位のものあり一定せず何事も規則づくめの内地などは大に其趣きを異にしシゲナルは極めて簡單なデスク、シゲナルを用ひメートル、ホストは百米突毎に

上圖の如きものを建て黒色にて文字は白千米突毎にそれより大なるものを建て込み地勢一般に平坦なる爲にヤレベル、ホストは見當らず軌間は佛領印度支那を通じて一米突軌條の一米突重量二〇一七キログラムのものを使用し一寸見た所では機關車は26至40噸位のものにてテンダー附とし燃料は海防地方より來る練炭を補助として多は木材を使用すこれは西貢市街蒸氣鐵道も同様とす就中予等の奇異に感ずるは通過せし所丈にて七八百尺の橋梁五六箇所有りしも盡く鐵道車馬道歩道兼用にして只歩道は間々橋の兩側に添加せしものもあり故にトラツスト、ブリツジにしてガードがなく且船の通行上其内一箇は廻轉橋となれり枕木は橋梁幅一面に張り込み橋梁前後には番人を置きて列車の安全を保つ

車馬道と鐵道との交叉を示すは踏切より約百米突位先きにイナメル製の淺黄地に白く踏切の文字を示しその下部に梯子形に如き記號を附す

電柱は總てアングル、アイヤン(Angle Iron)又は古軌條を用ひ基礎は位のコンクリートにして中央に穴を穿ちこれに鐵柱を補込む

枕木は軌條三〇に付き九丁の割合にて中々丈夫らしく枕木位のものなり日割多きものと見え多くはH字形の鐵を木口に使

込む

枕木は軌條三〇に付き九丁の割合にて中々丈夫らしく枕木位のものなり日割多きものと見え多くはH字形の鐵を木口に使

込む

枕木は軌條三〇に付き九丁の割合にて中々丈夫らしく枕木位のものなり日割多きものと見え多くはH字形の鐵を木口に使

込む

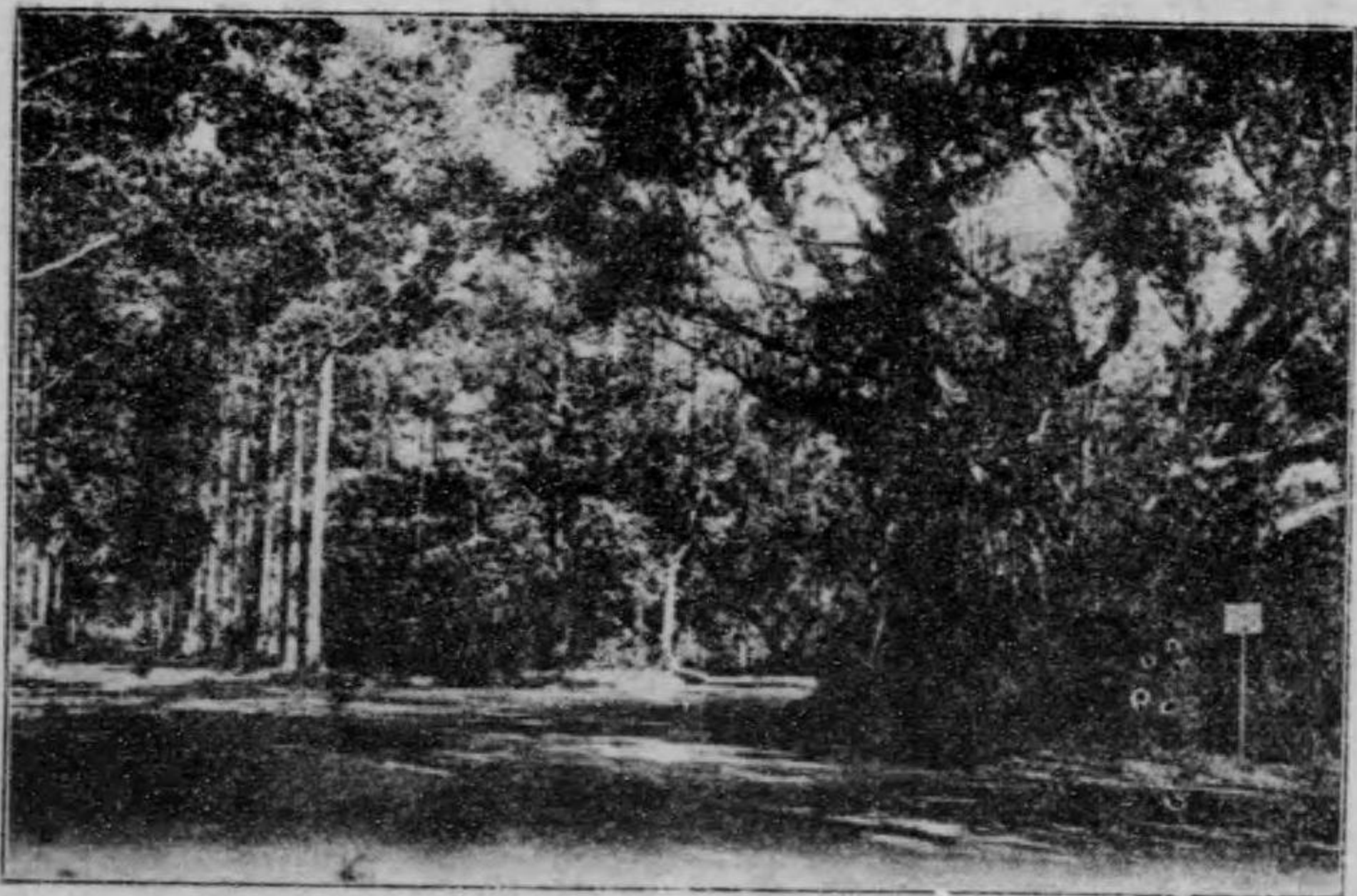
用せり

右は一寸見た丈の事に一般の事は歸部の上。翌日領事館樓上にあらしにヒーパーがラ／＼といふ音 聞き窓より眺むれば中央に機關車を置き前後に五六輛の貨車を連結しジャンチンガをなすつゝあるを見一寸面白く感じ候

十一月二十五日記す

第九信

アトランチック號の船中にての雜事 一等客は日本人では余一人である肥満した大尉があつた北京より引上つて祖國の軍務に従事す可く行くのであるベンチに腰掛他の佛蘭西人と話して居つたが小兒の寫眞を出して見せて居つた機を見て話に割區々小兒の寫眞を譽めてやつたアー、ユー、ジャボネー(Care you Japanese)と来た勿論日本人と答へた所が南方支那人の顔は日本人に酷似して居るので失禮した之は北京の山本と云ふ寫眞屋で撮影したので非常に上手であると云ふ早速青島陥落の事を言ひ盛んに譽め出し果は和蘭の中立は怪しいとか關領印度がドウとか日本がドウとか言ひ出した余は力めて戰爭談を避けるマレーユ



洋人は悉くソファアを船まで持つて来る事が知れた何んだ馬鹿馬鹿しい乗船早々便所に行つた中々美麗である華美を誇ふ佛船はさす

を歌ひ出した少し續けてやつたら大喜び其後は時々話合となつた年頃二十四五と三十位に見ゆる二人の女同士の佛人が居る二人共に帽子のリボンから衣服は勿論靴から靴下まで黒色づくめの洋装である朝や夕方など二人は大に淋しげにベンチに腰かけてひそ／＼話して居る又時には編物などして居る察する處其君が戦死でもしたのであらう三月月はドス黒き海上に一條の銀波を流動せしめて居る無心の船は空しく煙を吐て走る吳越同船見る人に依て感想を異にするは勿論だが嗚呼此二人は何んと見るであらう序に西貢市中を散歩して見ると時々腕に黒の表章を附けた人が可なり多く見らるゝ故郷にある親戚に戦死者があるであらう

西貢

土甲板の上には藤製のソファアが幾箇もある中には随分立派なものも見ゆる臺灣航路の積りで無遠慮に腰を下して悠々とねそべり返つて居つた毛唐先生之は余のだから別のを使へと云ふ見れば成程一々正札附の個人所有である西

毎日十二時に正午のドンンの代りにボーと汽笛を鳴らす臺灣航路の何も無いのに比すれば餘程宜しい

十一月二十三日午後一時誌

第十信

佛郵船アトランチック號雜事の補

アー、ユー、アトランチックは夏は七時より九時迄勝手にとる品物は茶カフィーとパン、ビスケットの二三種シヤム及各種の卵料理である之が初まる頃則ち七時の食堂は仲々奇觀を呈する老年の陸軍佐官らしき者は夫婦者で子供連れながら緩子の支那服ですました顔商人らしき男は帽子附のタナル製のねまきを著し居る又或者はシヤットズボン下を著込んだ上に眞圓形付大襟の日本單衣を用ひて居る此種の日本單衣を著た先生外に未だ二三人有つた婦人は白晒のナイト、クロスもあつたがメリンスの大襟の日本單衣で前幅の裾が廣く胸の襟は吾々のと同一ひもは同じ地にて後ろに付てある一寸赤兒のねまきの様なものが一番多い特は振つて居るのが米人バーバー氏にして氏は米澤か八王子の茶の立縮に後は三葉の徑二寸五分の白の浮紋胸には洋文字にて丸形に組合せたる徑五寸位の大紋を同く白にて浮出したるものを著角帯をぐる／＼と巻き婦人は又とんでもないもの黒朱子の上に金にて龍を高く浮かせて縫ひたる極めて派手なものを著赤色のしごきにて脇にて結び残りなだらりと下げ例の如く銀製の袋を持つて出て来る其異様は一寸想像が付かね新港著の日は朝早き故殆んど同時に食堂に落ちつた此等各種の寄合であるから丸で田舎芝居の臺合の壁屋とでも評しよう則甲は舞臺が終て休憩乙は衣裳を著けて此れから出掛けようとする處

が違つたものと思ひ二日程は何の事も無く過ぎた或朝行つたら掃除のケルン此處はいかぬ他に有ると云つて案内したが初めのよりは少しく劣つて居る後に札を見れば初めにはDinner「ダメ」と書いてある成程女用にて男にはダメで有つたのか今人の古言思ひ當つた然し導かれた便所は「ハイレン」とも「ヘイレン」ともなく普通一般の WC.であつた 食堂の「葡萄酒」皆さうであるかは勿論解らんが一般に佛蘭西料理は鹽から過ぎるされば普通食堂にある様に「ソース」酢も備付けて居らぬ「バター」も命じなければ持て来ぬ又無くとも宜い料理を食つ後は水が何か飲まなければいかぬ葡萄酒は常に備付てあつて自由に飲めるがアルコール分は非常に少ない水を容れて一皿すんだ後に呑めば非常に美味い斯ふ言ふと余などの如き上戸は幾本も片付るだらうと想像するだらうが精々多くて一瓶の三分一だらう余の隣の食卓は五十恰好の夫婦と十五六の女(未婚)が居つた注意して居つたら矢張少しは飲む様子である佛料理の Vin (葡萄酒)は赤色付た水だと思へば大差なからう 香港を出帆して最う一週間であるボツ／＼話合も出来た戦争のお蔭で船の士官は勿論客なども時々は先方から話し掛ける者も出て来た先に書いた北京より本國に向ふ士官の如きは肩章が斯々のものであれば普通士官學校卒業生だが己れのは斯々の模様で高等なる學校卒業の參謀官で有るなどと言ふ様になつた 余の隣の支那人夫婦の「キャビン」だか夜中にツツと御入來の方がある之は不思議と見れば隣の妻君が先方も驚いて急に歸つた此方から一二度は室を間違へて小言など言はるゝ積りであつたが却つて別讓の御入來などは南洋に來て數段男振を上げたと思ふ船では

西洋婦人は酒と煙草は品格に害ありとて自分等はやらぬのみならず婦人の前には男子の喫煙を禁じて居るとは何のうその皮夜食も過ぎ十時半頃より上甲板に出て見れば二人連の者はベンチの上に嘔々と寄り添ひヒームもすれば車子の前のコップも口にすまきヤビンに於けるヒームは時々見受けるそのくせ列車内あたりでヒームでもすれば面を外向けるなど勝手過ぎて寧ろつら悪くなる

二十七日朝彼南者の前一寸暇あれば第十一信

二十二日の午前四時に西貢港を離れ朝ドナイ河の入口に來り其れより終日島影を見ず二十三日の午後四時頃に島を見た夫より次第に新嘉坡港に近づき夜十二時頃港外に假泊す夜半起きて甲板より見ればサーチライトは約一分毎に廻轉して海上の何物かを照し市街の燈火は平地なる關係にや神戸や長崎のそれよりも壯大ならず況んや香港に及ばざること遠し朝更に船を進めて港内に入る露四方をこめて微かに船體を見る事を得るが勇壯なる軍艦三四隻あるを見た後にて聞けば伊吹、常盤、筑摩、矢矧、八雲の連れなりと



View Looking Down Singapore River.

第十二信

二十四日新嘉坡到者の晩は俤を走らして各所を一見した此處の俤

景ノ河 - ホガソシ

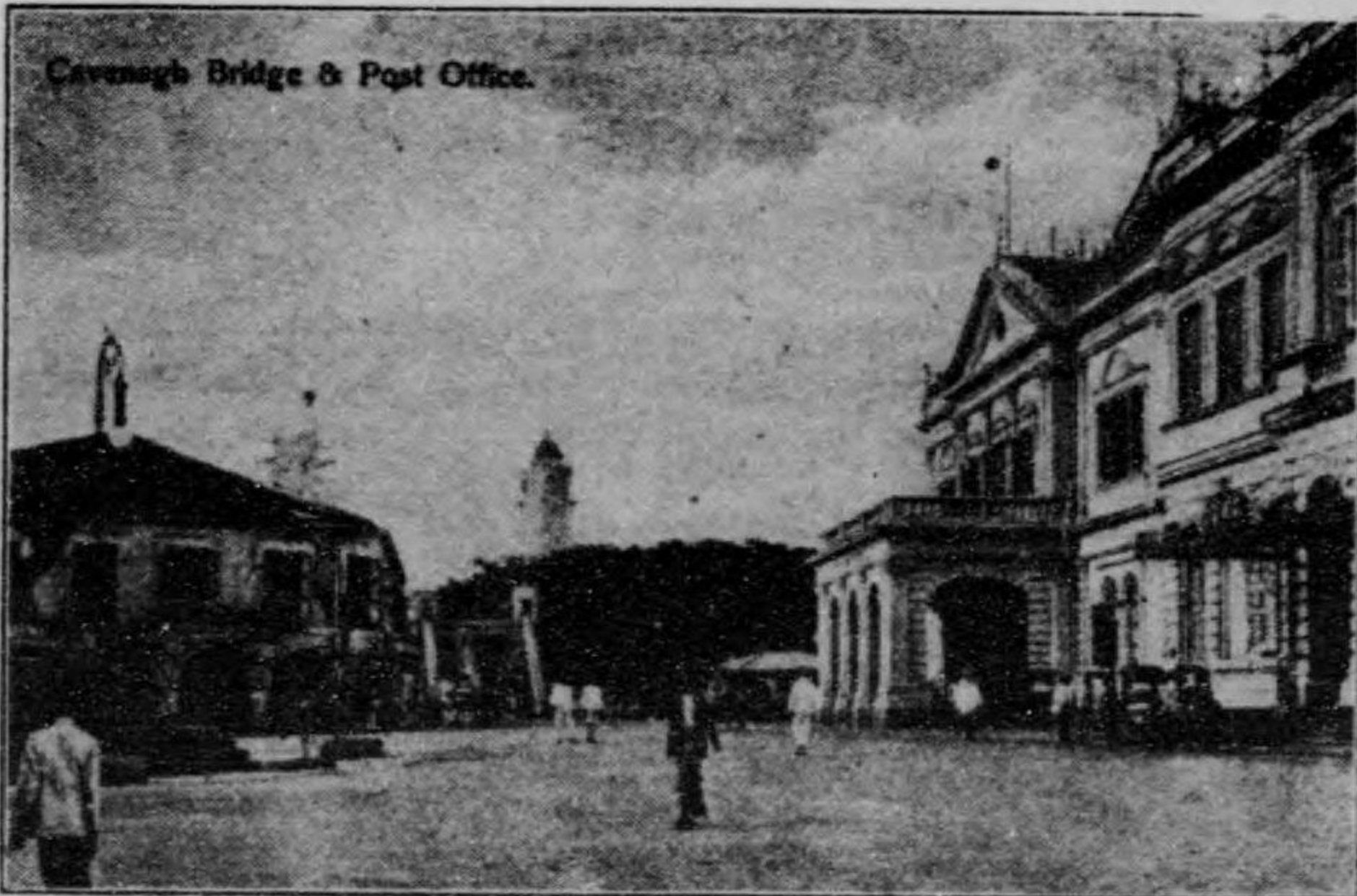
朝六時半に棧橋に横著にしたが宿引らしき者が見えない三等に居つた女客は何んでも此邊の様子を知つて居るだらうと思ひ聞て見れば宿引は馬來人にて日本語を能くすとそれに荷物一切を託し下船したが三井から鹽田君が迎ひに來て呉れた二人乗の俤に相乗して三井の社宅に行き水浴をなし單衣に著更へ味噌汁鹽雞野菜の新漬物にて食事を濟した其快味は長く忘るゝことが出来ない三井の店に行き支店長に話し合ひ旅館に引返し其れより旅行免狀の事に就き領事館に行き藤井領事不在鹽田書記生に面會要點を話し夫より市中を一巡ジョン、クットル、カンパニーと云ふ三越的のアドバイザーメント、ストアに行き約十五圓の買物をした西貢にて佛商店より買物した時とは全然異り町噂誠に心地好い三井で百五十圓受取り三五公司に行き木村氏不在星崎氏に就きゴムの話やら地方の事情を聞き二十五日後三時發にて彼南に行く事に決した新嘉坡の市街の様子は後で書く

は又香港や西貢のそれとは異り二人乗割合に多く首面は黒地に花鳥の模様などあり中央に五六寸の淺黄地に白く番號と「S」と「S」などと等級を畫す「S」は「S」輪にて「S」

は然らざるもの二人乗の俤に一人乗つても二人乗つても賃金は變らない初來の者などには案内人と合乗などは實に妙である此時も宿屋の案内と合乗にて市中を見た支那人の勢力の大なるには驚いた娘子軍の變裝を格子の外から眺め歸宿食事を取る基隆を出てから初めて日本酒を味つた中々美味い

夜は活動寫眞を見る子供だましのであるが中々大入らしい内地では二三度臺灣では宴會の餘興などに時々見興行物として臺灣では一度も覗きたる事なしされば現今の有様のはよくは分らぬが中々巧者に出來て居る然し幕間の活辯なる者はない只矢張活動のヒルムで説明を出すのみである淺草式のものに比すれば物足らぬ氣がするのであらうが吾等の如きヒアリングの分らぬものには辭で反つて面白

二十五日朝領事館に用事あり行かうとしたが十時からでないといふ可だと言ふ余は朝起きの方である九時十時となると中々待遠い今



Cavenagh Bridge & Post Office.

日は彼南行であるから朝の内荷物を片付け様としたが余の部屋は海岸に接して景色が善いけれども朝日が差込み十一月末の今日下

帯一點となり衣類其の他に手を出せば流汗淋漓として流れ實に不快極まる中途でやめ九時半に俤にてジョンソン埠頭に行きて馬來半島の案内同鐵道案内地圖其の他を購入した

新嘉坡郵便局

此ヒアは半島行き船客の乗場にて巨船も直ぐ向ふに居り小汽汽にて直ちに本船に乗れるヒアは鐵柱にて成り其の前面に保護材として九吋角位の丈夫さうな支柱を立て床張り等も一面同じ木材を使用す之れはホルネオ産にて「Pina」と稱すと海蟲の居らぬのが蟲食されぬのが其の根跡が見えない此處で案内書の買物をなし途中博物館に立寄る下は圖書館にして上部は博物館とす動物及馬來土人の器物等特に多い武器其の他の器物は生番人のそれと著しく似て居る様に思ふ建物(土民)の見本もあつたが椰子の葉葺き直押に上部に二又を用ひ屋根の勾配恰好などは日本古來の神社の建築に類似し特に床を高くし五六尺の柱を立て其の上

土民至る所に見らるゝ現象である日本人の起源や何ぞと言ふのでない唯何んとなく建物などは似て居ると思ふ同所には石器時代の珍品もある様だ比較研究には面白いだらう

案内は悉く土人にて馬來人も居つた様だ余に附従して来て詳しく案内する銀貨を遣つたらサンキユとして益々都合宜しい此事は動物園でも又他の所でも有たが遠來の客には大に都合好しホケツトには常に小銀貨を持参せねばならぬ領事館に行き十時半皆川書記生に話し藤井領事未出勤の爲め歸宿取敢して置た荷物を片付漸く晝迄に済み部屋が暑いから廊下のテーブルで食事を取る事にした折節四方暗黒雷鳴俄かに起り驟雨沛然として來り今迄の暑氣何處へやら神身共に爽快を覺ゆ嗚呼之が四時暑き熱帯の冬かと

二十四日朝港内に居つた日本軍艦も二十四日中に何處にか悉く影を失して今は一つも居らぬ話はいつとなく時々戦争談にそれる何んでも印度洋の小島で「シドニー」が「イムテン」を討つた時は誠に寒心す可き事有つたと則ちオーストレリヤより兵士軍用品を三十六隻の運送船に



まげに不潔極まりとも我慢が出来ぬ止むなく一等に乗換た余の乗る船は海峽汽船會社の「シドニー」號で新港彼南間の

車牛水ノ州ルーコンラセ

滿載して「シドニー」は前驅となり我生駒は殿軍となり二隻にて此三十六隻保護の全責任を負ひ印度洋に掛かつた無線電信にてイムテンの所在を聞き全責任を生駒に託しシドニーはイムテンに當りて之を全滅せしめた若し之が半日丈け早くか運くなれば三十六隻の運送船は過半否全滅したのであらうと最もイムテンが彼の島に來るであらうとは其二三日前に考へ置き新港の我軍艦が是に當る積りであつたと後に聞いてさへ寒心に堪へぬ實際其局に當りしものは何んなであつたらう春日艦の連も時々來るさうだ春日は暗礁に當りて船底を破り新港ドックで長日間修繕して出帆したと二時に宿を出たが雨が中々止まない二時半頃小降りとなり小蒸汽にて本船に乗つた三時出帆の筈だが雨の爲め荷役が出来ぬとて四時に出帆した馬來海峽は無風帯に屬するので名高い靜なる海上である臺灣航路の様考へて二等でも善からうと思ひ二等を購入した所がキャピンはキャビンであるが臭氣甚しくお

客船で有るが此航路の船として上等のものである一等室の設備は中々に善い船長も中々愛嬌ある老翁である一等船客中昨日ロンドンより直行して彼南に行くと言ふ西洋人の夫婦と子供二人その従者一人と他に支那人二人との極めて僅少である

セラゴゴ一號にて二十六日朝認む新港に於ては煙草の價 mac. 百本一圓スリーカツスルは五十本購入五十錢ネービー、カツトは同四十錢何んと馬鹿／＼しく安

第十三信

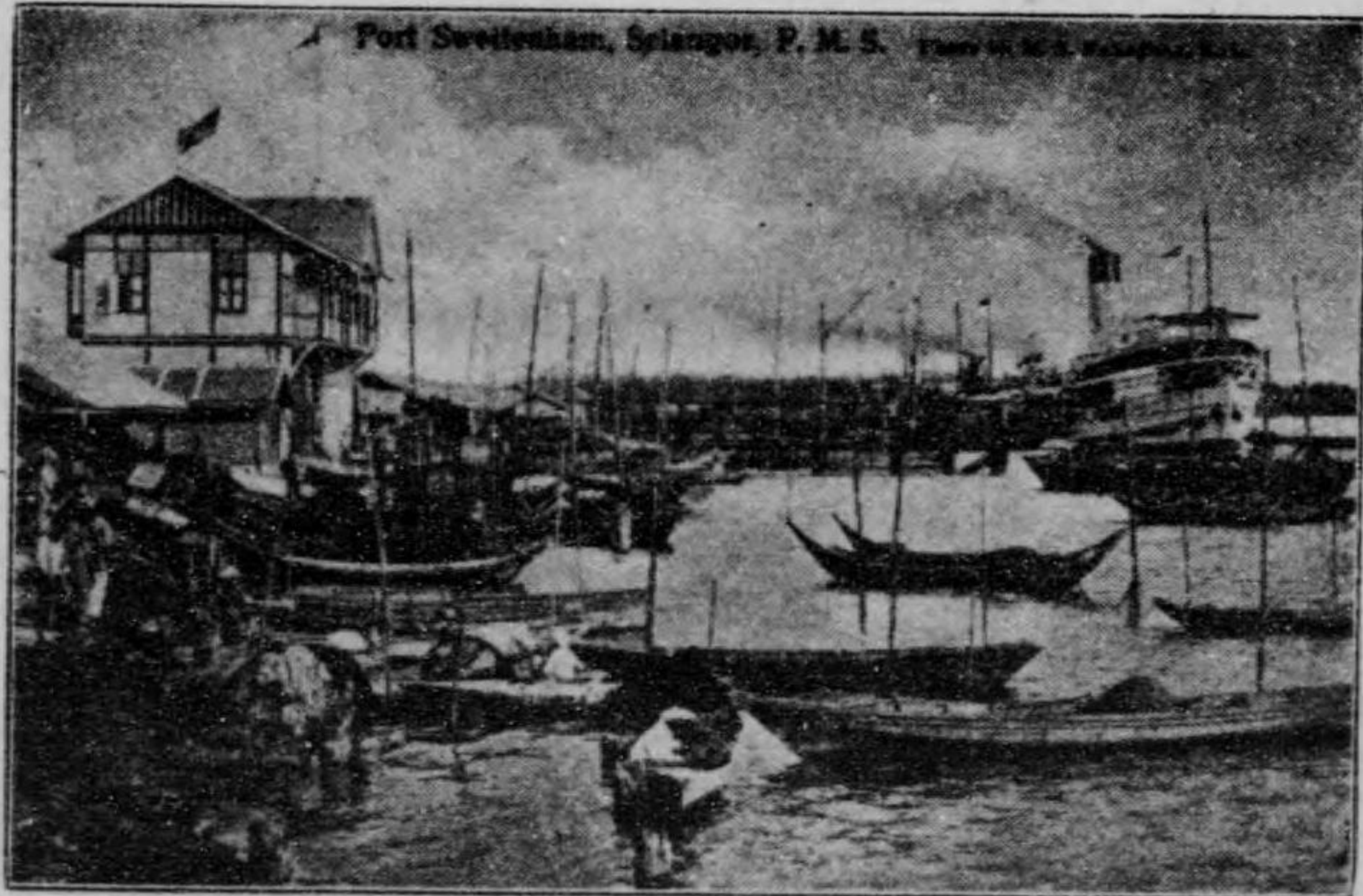
十一月二十五日午後四時乗船セラゴゴ一號は新嘉坡を發した船名の意味はクランボを首府とせる聯邦の州名である此會社の船名は多く聯邦の州名都名を取て居る日本郵船の土佐丸丹後丸などと云ふものゝ如し新嘉坡港の西を廻りたる船は金城鐵壁とも成る可き幾多の島嶼の間を抜け馬來海峽に出た此邊は初ハ暴風吹荒む所と考へ經驗の有る人からは無風帯で有るとは聞いたが比較的話して高波位有ると想像して居つた然し出て見れば白波處か微波だに無く掛値なき一面鏡の如しと評する外他に適當な言



部樂俱一ホアラアグ

葉がない船長も四時斯の如しであるが一年に一二度これでも波騒ぐことが有ると東より來るものは馬來半島で押へ西より來るものはスマトラ及其の附近の島で止め南より來るはボルネオ、ジャバで喰止め北は勿論亞細亞の高山峻嶺で通路を塞ぎ四面八方荒の來る氣遣はない誠に其の喰止めに困らぬ善過る所である斯かる極樂淨土に棲めばこそ活氣し無くなり人民は早く往生して草木國土も悉く他人の手に委する様に成る嗚呼樂を求むる心は毛頭オクビにも出ずまい鏡の上を十幾哩の速度で走る其速度は風と化して手を延ばせば掴み得る距離に有る綠樹の香を送る加ふるに見渡す限り綠の原に處々に突出せる山嶺あり呼べば答んとする如く岬は五哩十哩毎に突出して幾多の大なる天の橋立を形作り若夫れ夕陽將に没せんとする時赤道附近に特有の燒いたる空に濃厚なる靑空を交ふるに至りては身心共に晝間の苦熱より蘇み返り更に明日のエネルギーを貯ふるのチャンス吾人に與ふるもの

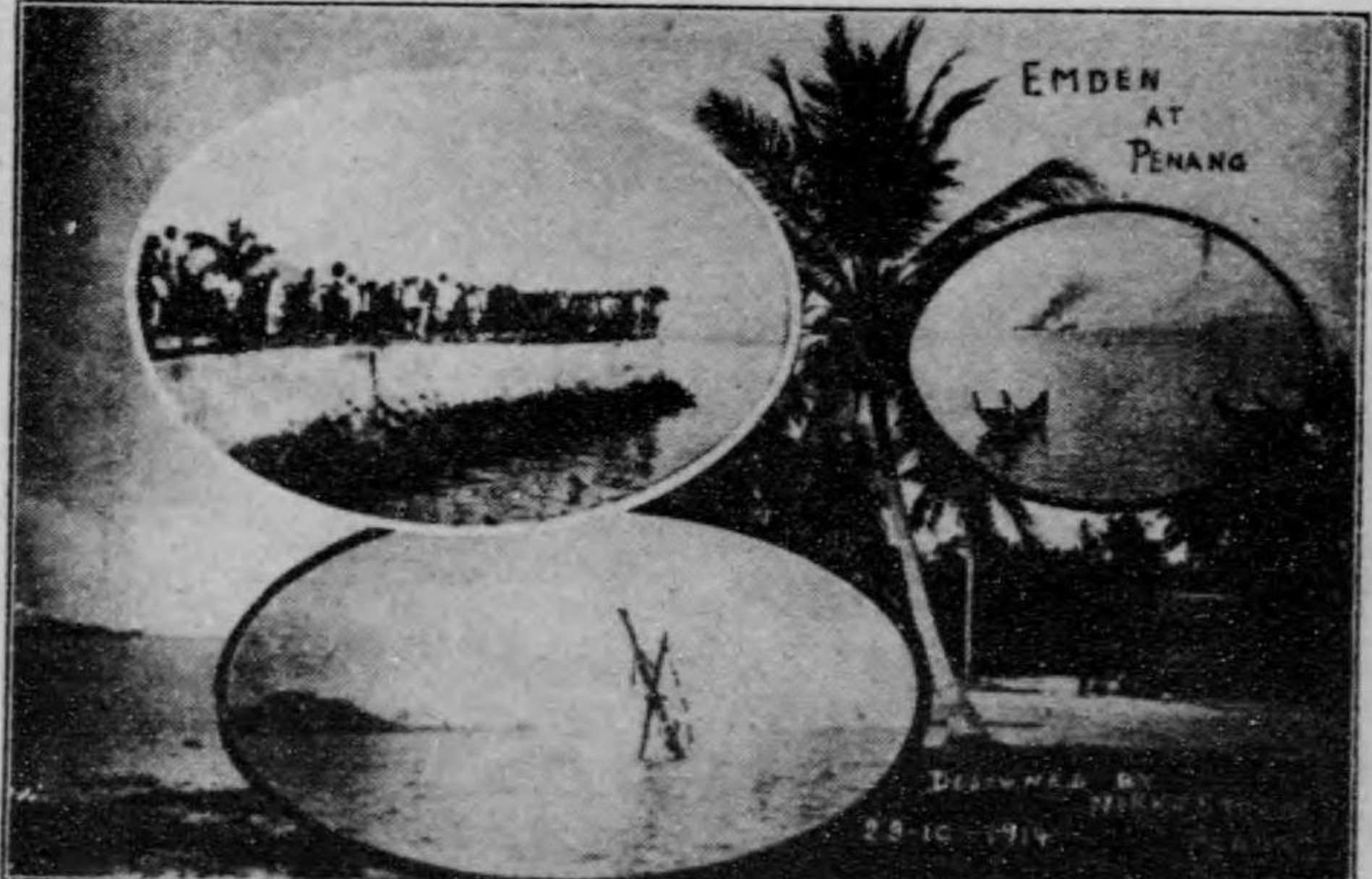
書し終せ苦しき寝臺上の人となる
二十六日朝五時起床日記其の他を整理し電燈の消ゆるを待ちて甲
板上にれば矢張海山の様子は少しも昨
日と變らない然しこれより將に Swor-
tenham の港に入らんとする處船は益
々岸に接して進み肉眼にて凝視すれば
樹の大きき異なれ根の工合葉の様子は
打狗に有る「マンゲローア」の様なき
がする船長に話しても答は不得要領だ
島の間を縫ふて午前十時に「スウェン
テンハム」の港に著た船の出帆は午後
五時である丁度七時間の餘裕あり直に
下船驛長の所に行き刺を通じ構内一見
と申出した驛長も動役も馬來人だが英
語も善く話し敏捷らしく見ゆる何卒御
隨意に然し何うだ十一時何分に列車が
此處を出で「クランボ」に行き五時
迄に歸る其處に行つたらと然しあまり
に際どき輕業的で一步後れば乗船出
來ぬからと云ふたら此の列車の到着後
に出帆すると言ふが何うせ後で見か
らと斷り構内を見たら是れは別紙に記さ



港ムハンテツエウス州ルーゴンラセ

水菜屋でソーダ水一瓶一本十錢を平らげ更に三十分程助役先生と
話し俤にて市内見物と出かけた新しき殖民地の體裁を遺憾なく發
揮し驛附近郵便局警察署等諸官衙宿舍
及草苴々たる敷地にして其れより少し
く離れて煉瓦作りの支那家屋二三百も
有る何を言ふても言葉が分らない三
丁程行きしに細帯姿の日本婦人に會た
俤を止めて日本人の住所を尋ね暖簾に
「Japanese shop」と書いて有るカフエー
に飛び込んだ主人は五十年前配の熊本男
他に日本人の來客二人居つた一人は
「クランボ」の中島と言ふて同氏にあ
てた紹介状を新嘉坡の友人より貰つて
來た有名な寫眞屋であるもう一人は後
で聞けば苗粟に居る美野輪技手の令兄
である世界は狭いものだコーヒを呑み
支那ソバを食し三時半其處を辭して市
内を散歩した格子作りの空屋然る家
に日本婦人が居つた是は所謂娘子軍で
ある此の市には日本人は男が二人で娘
は四十人居るとの事其勇氣や冲天とて
も評すべきか此種の家は十數軒に達す
と聞く市内一巡の上驛に戻り驛長に挨拶し此の驛を去つた後に
けは此驛長は日本人に非常に親切にして軍艦最上の入港せる時

どは全力を盡して「ウエルカム」し五哩有る「カラング」驛迄滞在
中無賃乗車券を發行し特に一車を專用に供せりと
初の驛長は「コーアランボ」まで行けぬ
なら此附近の物資集散地なる Klang 迄
行け五哩有るが歸りには自動車か馬車
にてよからうと云ふ何んだ鐵路の有る
に其れに添ふて其様なものは有るとし
ても怪しい物だらうと思ふて止めて専
心構内を見かけた後で市内を散歩する
と道路は實に完全である此邊の土質も
桃開附近と一般赤色であるが道路は悉
くアローケン、ストーンにて搗き固め
實に立派なものだ而して附近一帶には
小砂利一つも無いアローケン、ストー
ンは約三十哩離れてある「コーアランボ」
附近より輸送使用すと此の道路は市内
のみならず此處より Klang 迄「コー
アランボ」迄否全半島全く自動車の通
じ得る様に出來て居る馬來半島のみな
らず佛領印度支那までも道路は悉く自
動車にてドライブし得べく西貢のサリ
ーシ氏なども此點を大に誇りとして居
つた故に此様な小さい市にも馬車自動車は中々多い蓋し道路に掛
た金は莫大であらう



艦露るせ没沈と號ンテムエ

船は午後五時出帆の豫定なりしが驟雨あり荷役の都合で三十分延
て此地を去つた此處から西洋人若夫婦一組と男子二人増加した食
事は中々賑はしい
二十六日午後十時記す
第十四信
二十七日朝風起甲板に上れば島影微か
に見ゆ次第に時進むに従ひ二千有餘尺
の標高を有せるクラツク山は獨り巖然
として四方を壓し脚下には彼南市街は
恰も彼に保護せられたる女神の如く安
らかに横はり工場の煙突より吐き出す
煙も風なき儘に高く騰りていと靜かに
天は恰も人界の爭奪狂奔を不關焉の如
し前十時に彼南の波止場に著く同時に
日本郵船の一萬二千噸の八坂丸は直ぐ
二三丁離れて碇泊す誠に心強き感あり
聞くならく去月二十八日露國軍艦一艘
佛國同じく一艘其他水雷艇二艘は波靜
かなる彼南港内に安かに一夜の假泊を
貪ぶりしが午前五時半に至り突然「エ
ムテン」の攻撃に驚かされ驚愕應答の
間もあらばこそ露國軍艦は一發の水雷
にて破られ續て數發の大砲で過半の勇者は水中に葬られ残者は手
負者多く今尙百餘名の露國水兵は當地の病院に靜養中なり而して

當日露佛兩艦は拱手傍觀何等敵對の策をとることなかりしと或は
ボイラーには火氣なかりしとこれは世人の無稽の言なりしならん
も「エムテン」は露艦を沈めて悠々とし
て徐行海洋に出づ此際市中の人も砲
聲に驚かされて海岸に馳け参し「エム
テン」の悠然迫らざる態度を見しもの
も少なからずと今茲に掲げたる寫眞は
當時の有様を撮影せしものである而し
て今我が居る處より二丁程離れたる處
は丁度先月の明日は火花を散らせし修
羅の巷市内散歩時々出會するは参加
の露兵今新聞を賑はせるは「エムテン」
の末路誠に世は浮める泡沫の如きか朝
に夕を測り知る可からず

船には田中ホテルの主人が迎に來れて
萬事都合よく相乗陣で一先宿に夫より
市中を散歩したるが彼南市街は人口十
萬日本人二百五十位男七十奥様子供で
五十娘は百二十人程居ると西洋人市街
は一少局部に止まり多数は矢張り支那
人の市街である市警電鐵あり延長五哩
全體を四區に分ち一區は一等五錢二等
三錢入種の差別はない架空單線式軌間は一米突である市廳に行き
電燈電鐵部長を訪問し單線架空式は今日迄の實驗に由れば水道鐵



彼南椰子樹

管や其他の構造物に被害の事實なきことや其他軌條架空線の一部
改良など親切なる話をきき、年報を贈られ調査事項あらば何時でも
通信あれ出来る丈調べて差上らぬなど親
切なる談話を交へて同處を辭し夫より
市外約五哩離れたる支那佛堂極樂寺
を見物に行きた中々安莊たるものにし
て山嶽の自然岩石を基礎として支那的
に碧瓦丹柱の美を交へ一樓一堂次第に
山の高まるに従ひ樓層を重ね頂上は殆
ど五六百呎の高地となり各樓各室には
或は觀音或は釋尊或は前代の住僧或は
…を安置し最高の望樓より一望すれ
ば彼南市街は遙かに水際に接して高塔
の尖端のみ指摘するを得可く脚下眼界
の及ぶ限り椰子樹林たり檳城嶼山極樂
寺と云ふ名實共に吾を欺かず初め山門
より入りて中門邊に入るや寺僧筆談を
初め本尊の兩側に安居せるは十八羅漢
なりと云ふ余は我國にては十六羅漢だ
が此地にては十八に増せしかと否十六
は尊者なりと味噌屋は味噌屋勝ても負
けても尊者にもならねば黒ん坊の案内

眞一葉を送り更に話を續けければ「コンノート殿下」乃木東郷兩大
將の筆これは伏見宮の御筆などと話しかけ終りに帳面を出して紀
念記名をやれと言ふ實はさうでなかつ
たかも知れぬが言語不通の爲め悲しく
記し終りて見れば豈計らんや寺僧憤却
の臺帳である一本喰ふたと思ひ御馳走
に眞尊者となりて志し丈けの金を寄附
して歸つた食事を済して宿屋の主人を
案内に市内散歩と出掛けた市内道路は
全部マガタム式にして花崗岩の割石を
用ひ上にコールドアを流せしもの臺北
あたりの様に黄煙萬丈や自動車の後の
煙と悪臭とにゴりを沸かす道路などと
は全く違ひ如何なる山間の村落に至る
迄も國道として割石に蒸汽ローラを掛
けて自動車を通り得る様に出來て
居る橋も勿論其通り南端彼南より北部
のマラツカ港まで四百餘哩は自動車ド
ライヴ出來るといふ元來道路に就きて
吾人の考は人間の交通に適する様にと
の考なるが西洋人は自動車を通じ得る
との考なり少しく段が違ふ様だ其代り
莫大の建設費保存費を少しも惜まらずに出して居る
二時頃俾を飛ばして洋人の三越に行きポスト、カードを買入れ券



アララ椰子樹林

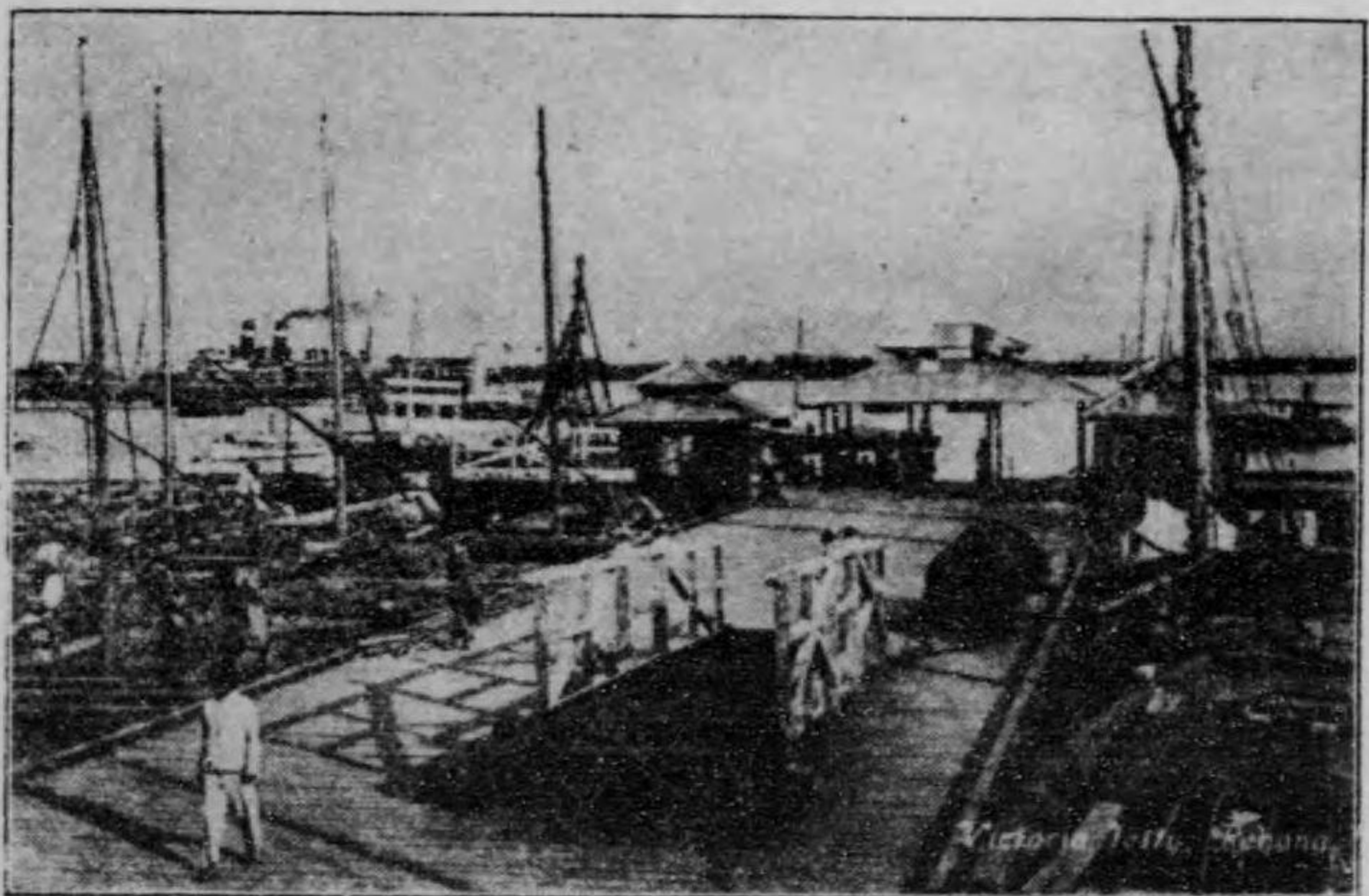
々各室を見廻つたクリスマスが近づけるにや何れの室もカード玩
具類にて満艦飾の體毛絲のストツキンクには美麗な玩具を容れて
色々と色の配合をとりたるなど殊に目
を引く各室盡く六色燦爛實に目を驚か
す様に飾り立て、有る玩具と書ふので
あらうか乳母車より少しく少なる自動
車が有る勿論動くのだらう斯うなれば
玩具の極限を超えて居る
三時半帰宅食事を済まし四時驟雨を冒
して停車場に急いだ時計臺の高尖を有
する廣大なる本屋である元來彼南は馬
來半島より約一哩位も離れたる一島嶼
にして此島内には彼南市街に電鐵の有
る外鐵道は無い彼南停車場は渡船に向
つての停車場である勿論渡船も馬來聯
邦鐵道の經營にして百噸程の同種の汽
船三隻にて各列車毎に運轉して連絡を
取つて居る走行約二十五分中馬來聯
邦縱貫鐵道の最北部「ブライ」驛に著
したと言ひたいが途ひ二三日前より夫
より少しく北部迄ミッター河迄開業した
との事である

曜日の晩で次の日は官署に行く事も出来ぬ急げば土曜の午後二時に著けるますれば少しは用事も出来様と考へた少し怪しいとは思ひつゝもさう極めた後四時二十五分に彼南を出で船で對岸即ち馬來半島の一角にて縦貫線の終端驛に著た船は直ぐ棧橋に横著きになりそれより二三丁で驛に著き車中の人となつた雨未だ止まず

二十八日コランボ鐵道ホテル階上ニテ午後十一時記す

第十五信

馬來半島と英國政府統治の關係が一寸判然せぬ他人の畑だがこれを記して見よう大略統治の關係は三つに區分せらる則海峡殖民地馬來聯邦及保護國である即ち Crown Colony of the Straights Settlements of Singapore, Malacca, Penang 直轄領地で Penak, Selangor, Negri Sembilan, Pahang の四洲は Federated Malay States を形成して英國の保護國となり Johore, Kedah, Kelantan, Trengganu 及 Perlis は各獨立して英國の保護國となれり一寸面倒くさいより後にしよう「エアー」は彼南より約百十二哩二十七日夜の十時過に到着豫じめ



彼南のグエツクアリ橋

電報打つて置たので原田と言ふ日本人旅館の主人が迎に来て居つた二人乗の俵に合乗宿屋に著き樓上の一室に陣取り早速水浴をなし食事は汽車内で済んだから運べる膳にてビール一本傾けた南洋附近一帯日本人の宿屋なるものは専門なるもの無く勿論やつても立行かぬが矢張此宿も下は雜貨屋にてビール瓶や足袋下駄などを櫛に排列しおまげにカフヒーの一盃賣もやれば是に應ずる一品料理もあるコックは印度人で麥粉と鶏卵を煉り合せて何やら料理を拵しらへて居つた印度人の客が五六人来て食べて居つた一皿二十錢で彼等を取つて比較的上等のものである今は戦争のため景氣が悪く從來の三分一も賣れぬが盛の時は一晩十圓位は樂に賣れたものと云ふ市街の夜景を見様と主人の勤めに同行したイトッホ市は人口は二萬四千あるさうだが丸で田舎町で御話に成らぬ殆ど全部は支那人である労働者は例の印度人で日本人は百五十人其内娘は百人居ると云ふこのカフヒー屋も印度人や

かに何んが心細さうな氣持になり容易に睡につけなかつたが二時過より晝の疲勞にや漸く睡眠翌朝五時半起床パンとコーヒで朝食を済し六時半に宿を出て市内の朝景色を見て停車場著車は未だ十五分前である目下新築中の停車場はペラホーに大きなのこてコーランボのよりは少しく小さいホテルも兼業するとの事來春よりは使用出来るであらう

田舎に宿屋の無のは不便でたまらぬ元來馬來鐵道は列車内の食事、櫛内のレストハウス鐵道旅館等旅行者に對しては全力を盡して設備の完全を期して居る

二十八日朝七時二十五分にイトッホを出て二時半コーランボ著鐵道ホテルの支配人に迎られて樓上一室の主人公となつた案の如く土曜日は晝迄にて總ての役所はストッブと來た嗚呼これなら

急ぐでなかつた電話で私宅へと通話して見たがだめであつた序でに市中一見に及んだ(二十八日晝此處書き掛けて止めた)

コーランボは聯邦の首府にして人口約四萬七千一寸臺南に似て居る位だ河は市の西方を流れ清麗玉の如しなら良いが水源地は錫の採掘に由て荒されて赤泥水此れを境界として東部は丘陵あり洋人



多く此附近に住み植物園俱樂部別荘の建物など巧みに小高き山を利用し綠樹の間にオリブ色幾何學的線よりなる建物のテラホラ隱顯する工合は捨てられぬ風情である植物園は矢張此丘陵を基礎として築かれ中央には赤泥水の湖水を作り周圍一面には矗立する熱帯産の樹群も有れば低きクロトンの植込が滑かなる芝生の上に

散點して居るものもある白衣の婦人其邊を散歩し時には自働車にて乗過すものに驚かされるなど中々興味ある公園である

彼南 市内も洋館はほんの一部で他の九分通りは例の支那人の建物で各市共萬篇一律密集喧嘩と評する他はない日場本人は約二百人位居ると聞く中其多數は例の娘である

中島君は成功たる一人にして寫眞を専門とし傍ら宅にては美術品を販賣して居るが本業は中々有名なもので列車内の寫眞掛額に入れる景色等は皆同氏の撮影に係ると云コーランボは中部貨物の集散地で縱貫鐵道の他一線はスワツテンハム港に至りて海陸連絡を計り他の一線は鐵道に連絡し併せてパットケーブと云ふ有名なる大岩洞遊覽線となる終端驛より約半哩先きにセメント工場あり附近の石灰石及

粘土を材料としてセメントを製作す一日の産額約五十噸一樽の價格は工場渡で三弗七十五錢なりと二十九日曜日午後より岩洞見物に出掛けたバットケーア驛の直ぐ前は直ちに直立千餘尺の白色斷崖にして綠樹蔭岩面より懸垂し宛然一幅の畫帖支那人は麓の村落を白色山脚と云ふ命名實に旨い驛を出て黒ン坊小僧の案内者に導かれ護謨林の間を抜け約十五分にして山脚に達し石段を上り二三百尺にて所謂岩洞に多し一種の洞穴にて幅は廣所で二十間高さ最高三百尺もあらう延長三四丁許餘曲折天井は所々窓を明けたるが如く青空を望むを得べく幾千年を経過せらるし水に溶解せられたる石灰石は上部より落下するもの筒子的に下部より生長するもの互に連絡して異形の怪石則鐘乳洞を形成し或は天井より垂下數十尺に及ぶもの等總て奇岩怪石天巧を極めて居る此を去りて黒ン坊ターケイブと喚ぶ其他は何を言ふのか少しも判らぬが愛嬌ある小僧の言ふが儘に草道踏み分け數百歩上れば此處には同じ様な洞穴が有る終端は閉塞して居れば内部は暗黒蝙蝠類の住處となり異様の臭氣鼻を衝きキキキと鳴



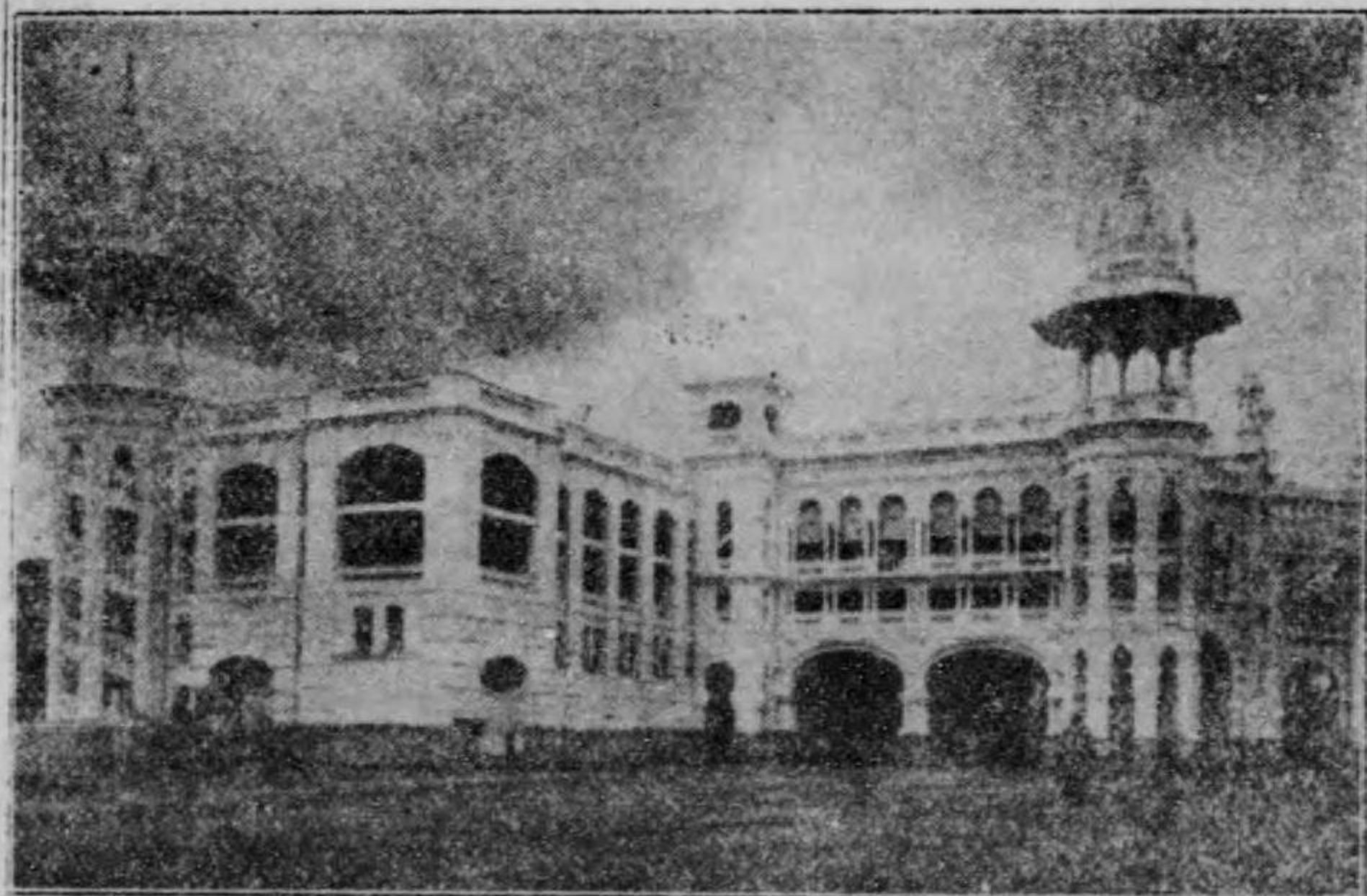
場車停 - ホンラアラク

啓物達し洞門の大きは前者と大差ない兩岩洞共四周の岩壁には何やら下らぬ文句など書付けてあるが日本人のものも交て居つた護謨實護謨葉を拾ひ案内記の間に挿み小僧に上衣を持たせ驛に戻り二十錢やつたら大喜びで歸つた驛前の白石斷崖は道路及鐵道用バラストの採掘地で印度人の苦力先生數十名盛んにハンマーで石を破砕して居つた背景の白きに比して一寸面白い對照である過日スウツテンハムに行きし時見た道路に用ふるバラストは此處から行くのだと分つた中々高價の道路となる事も知れる列車は後六時に此處を發する時間あれば此處の驛長と色々話合驛長は例の通りセイロン島産の印度人にして五歳を頭に子供が三人俸給七十五圓住宅は仲々立派だとほめてやつたら何に悪くて困る天井もなく屋根瓦は直に天井となり小蟲が時々落來り驟雨には雨滴の見舞を受け保線の先生に度々請求しても手直して呉れぬ何處も同じ事を言ふと思ふた歸路機關車に乗つて歸つた機關手は西洋人で月給三百圓取つて居るといふ集札掛とも話合つたが先生は矢張印度人で三十五圓賞與は年一回で五圓だと臺灣で使

つて呉れぬかと云ふ

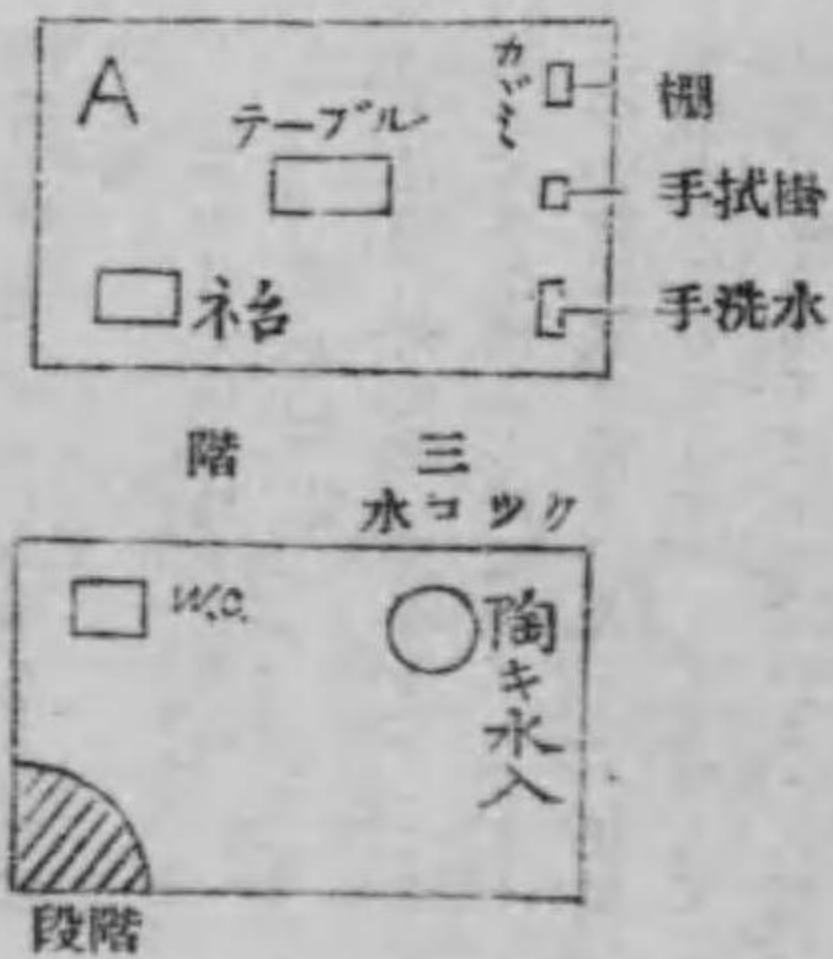
三十日クラーランゴ鐵道旅館樓上にて朝四時五時迄の間記、
第十六信

二十八日午後に来て三十日の午後八時迄三日間クラーランゴの鐵道ホテルに止宿した今少しく此れを記して見よう停車場は非常に大なる建物で階下は停車場事務室となり二階と三階は全部旅館になり階下の大廣間は食堂である此れは旅館止宿の人丈でなく旅客も外來の客も自由に入る事が出来る部屋の數は現在十六目下築増中のもの十四計三十となる昨年中の旅客は人數で二千六百人今年は十一月迄で二千五百五十人一人一泊でもないから泊數は夫より多い毎月電燈代二百五十圓水道代六十圓ソフトに四十圓掛るホーイ其の他で合計五十人何んでも支那人の受買にして家屋の修繕は御役所器具萬端は受買人持て借家料は現在十六客室に對し月に八百弗缺損ならぬさうである宿泊料は室代五弗客室は三階で幅十八尺横二十尺天井は非常に高く二十尺以上あり全部白色にして心地好い勿論電燈電扇の設備は不足ない此れ丈けには別に變りも無が二



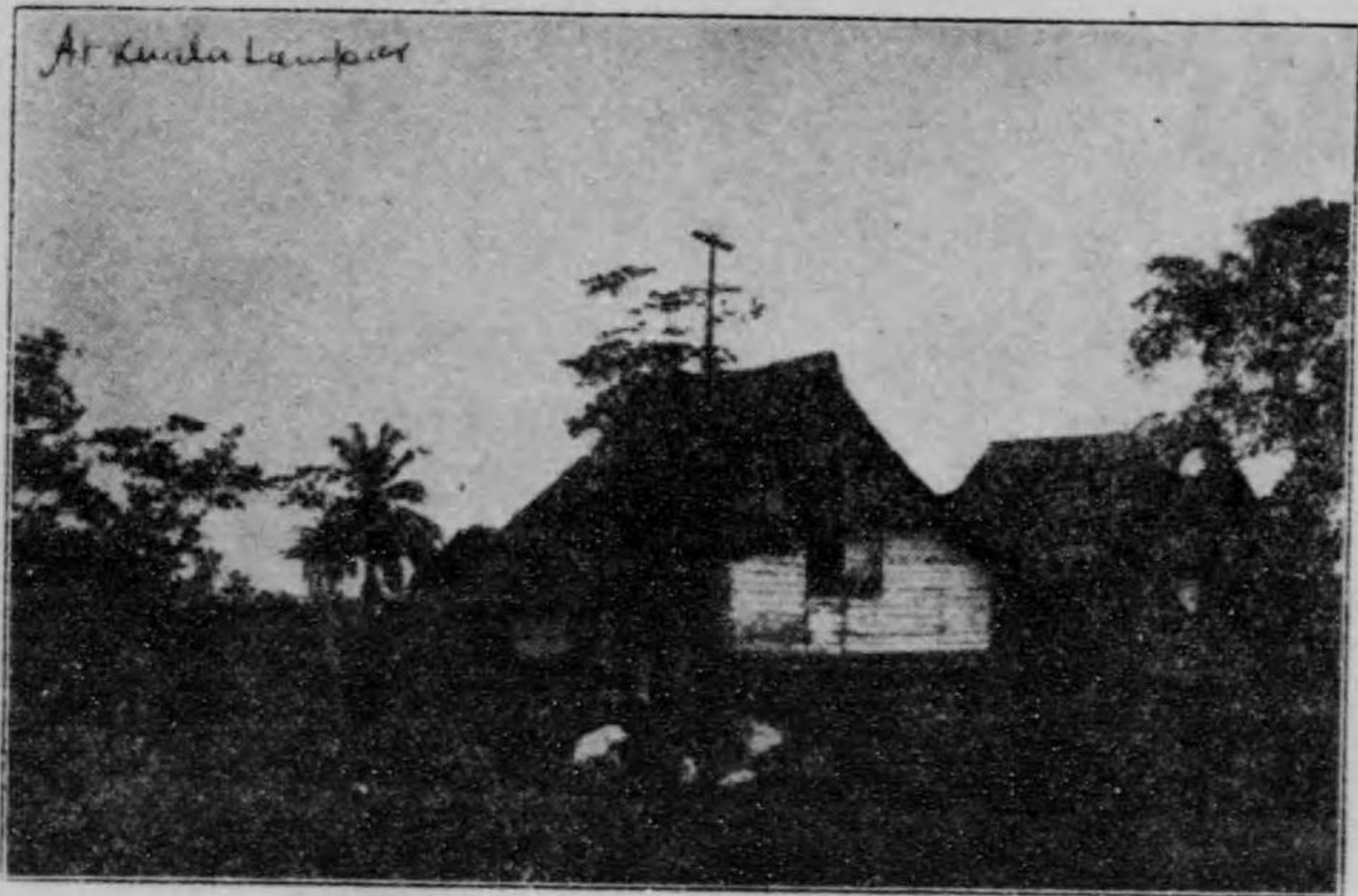
場車停 - ホンラアラク

階の水風呂は特徴である其部屋の大きは三階のよりは少し小さいがAの入口より下降すれば床は全部タイル張り腰は高五尺間は矢張上等のタイル張にて頭部に花模様の飾が着て纏て肉色である天井は高約十尺位同じく白色である備付の陶器の大水入は是れ熱帯特有の水浴用貯水器にて小さき桶にて吸み上げ水浴をなす者輩などは午後となく午前となく早朝よりザアザアと幾度も頭よりつま先まで水浴した此熱帯に於ける風呂にして温湯風呂なるものはない案内記などにも急行列車は此處に二時間休むからゆるゆるの食事もし水浴でもしては如何と書てある便所は瀬戸塗の桶にて底部に少し防電液を入れてあるが使用毎にホーイが外部に持出すのである持つて行くやつは迷惑であるが



當方は臭氣の心配がないから都合いい馬來半島總て此方法である然しヒリヒリなどの時は一寸困るであらう斯んな時は宿は斷わらるゝかも知れぬ何んが此頃食馴の西洋南洋の料理丈けでヒリ處が少しもヒリツとせせな

二十八日最初の晩に食堂に入たがホーイは支那の小僧にて生意氣らしかつた食事終つてから一片の紙を持出して何か書けと言ふらしいが先は馬來語が支那語で少しも判からない名前と室の番號書てやつたアツツ言ふて出て行つた食事終つて支那人の前に丁度其ホーイが居つたからホーイでないと親切でないと小言を言たら豈計らんや英語は一寸數位知つて馬來語の外知らぬ其れで失禮したのど要はソークやウキスキーは一々記入して呉れよの事だ嗚呼矢張余は馬來と見られたのかと然し次の折から食堂でも中々親切になつた然し英語は知らぬ様だ日曜日前前は日記其他の整理午後から諸所見物に出かけた三十日朝下に降りたら支配人が鐵道の技師長 H. C. Barnett 氏今其處に居ると言ふ先生列車にて出張の際である御氣の毒様を五六度繰り返し他の高級技師への紹



馬來半島土人人家

二六
介文を余の名刺に書き呉れた夫れより食事をすまし役所に行き種々調査をなし歸路印刷局に行き報告書を五六冊購入した政府發行の報告書調査書を發行發賣する所て假令は鐵道部第十五報とか移民調査報告とは此處に行き金さへ出せば窮屈な頭を下げて呉れる言はんでもドシシ賣て呉れる誠に便利である臺灣でも此主義を取つたら善からう調査物は全部秘密にする必要がない此處に居る總ての大人は悉く印度人である彼等は我れに向つて非常可愛嬌が善く早速青島陥落同胸萬歳を浴せかけるが黒人と一緒にされては割に合はない今日三時より四時迄驟雨其後は心神生々とした様中々暑

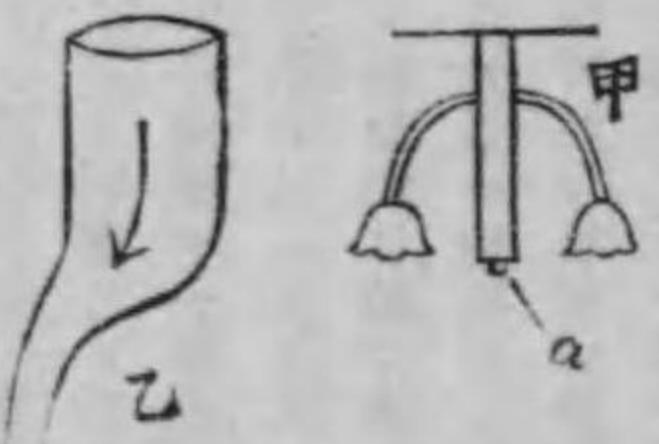
三十日午後五時書き終る
第十七信

々余を食堂車に案内し種々なる説明をなした列車は全部ホーイにて一等車、食堂車、寢臺車、二等車、三等車、手荷物車より成り各車は貫通式にて客車は中央に通路を設け二等車は一方に一人向側二人一等車は兩側に一人つゝの座席あり中央に通路を設く座席はヒンジにて折り曲げ引出せば丁度衝合せとなり寢室代用となる二人の座席は一人の座席になり居る腰掛は二等車は藤製一等車は黒皮作り英國製で非常寸丈夫に出来て居る急行夜行列車は二等車には金巾製の敷布團を座席二つ合せた上に置き一等車も同様に金巾製にて洗立の敷布團に金巾の枕二箇鼠色の毛布迄添へて呉れる誠に清潔な夜具にて一寸田舎のホテルなどにはとても見る事の出來ぬものである驛長が先達となり寢臺車を見たが電燈電扇其の他の設備完全にして特に奇抜なるは水浴室でシャワー浴著いて居る旅客は何時でも此れを使用して苦熱の苦惱を去ることが出来る序でに一等室の電燈は如圖



室内に四箇あり臥床せんとすれば旅客なるスウキツにて自由に明滅せしむることを得る又便所は總て抜き出し式にて水を貯藏

することはないから列車の動搖に由て水の溢出するなどの事はなすことにはないから列車の動搖に由て水の溢出するなどの事はない水はハンドルを引けば放下するが仲々便利である車體全部は誠に



に岩文に出来て忌憚なく英國風を發揮して居る
午後八時半の定時にコランボを
出た乗合は西洋人五人と後に支那人

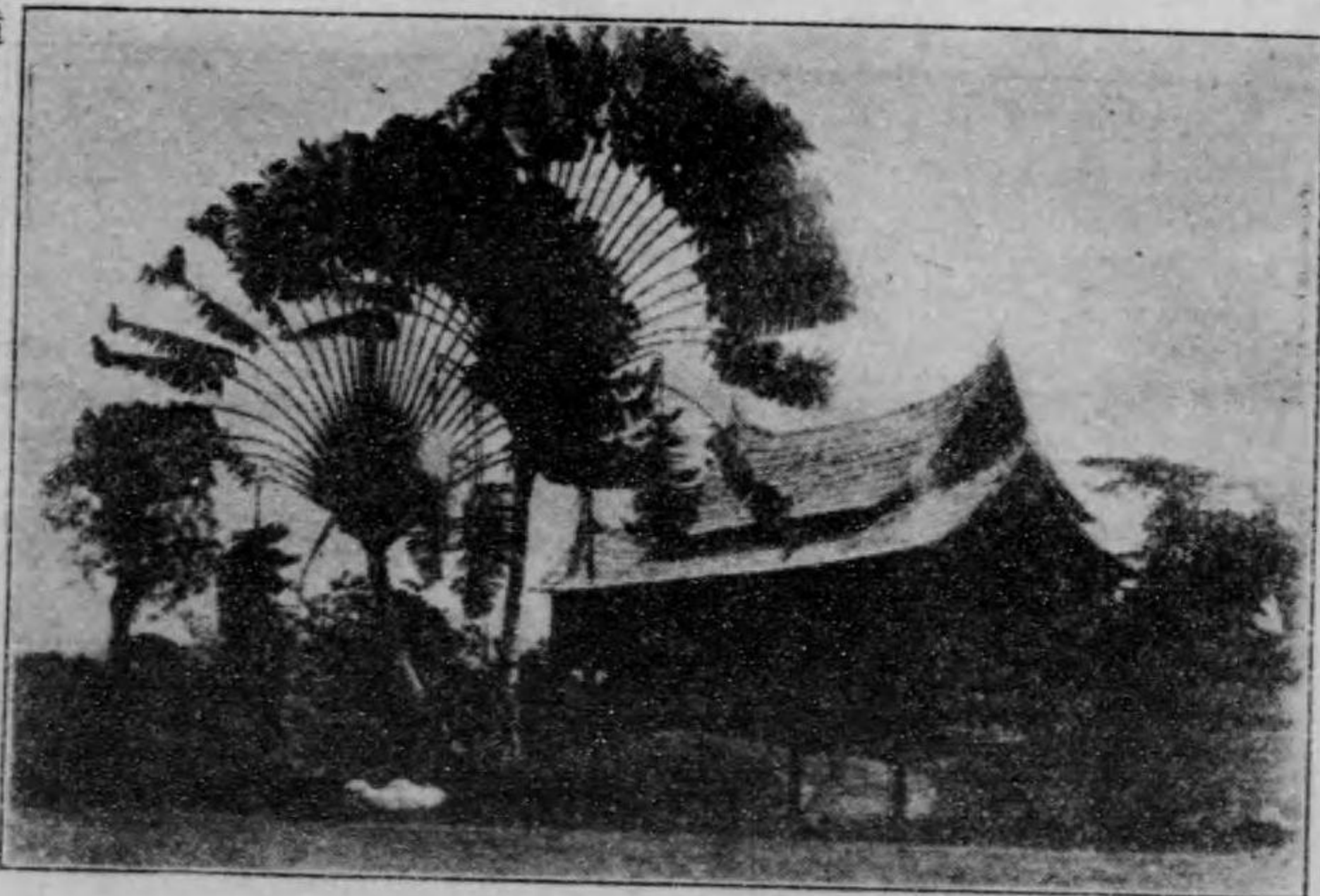
彼
が二人と土人一人三等より上つて來た
數室共満員であるらしい
十時頃より面白さうな西洋人の老翁が
余に話し掛日本横濱ヨロシイ函館長崎
神戸と四箇所合せて四年程居た日本ヨ
ロシイ青島陥落など話し合ひ後には二三
人寄集つてウキスキー呑み喰んど四時
頃迄騒ぎ廻はり夫より一寸息んだが五
時より起き上り線路を見た幸ひ當夜は
月明に由り朦朧ながら線路の様子を見
る事が出来た朝の八時半に半島洲の南
端シヨホール洲著小蒸汽に乗換ヘシン
ガホール島に着いた

シヨホール洲とシンガホール島との海峡の幅員は甚だ狭く渡船場にて四分の三哩八分にして通過するを得可し旅客は小蒸汽で渡

り貨物列車は六裏の貨車を船に乗せて直ちに向側に渡す此れは兩方に動力室を置きインクラインを海中に作り貨車を臺に乗せたる儘動力にてインクラインの上を運轉せしめ貨車軌道面と船の軌道面との一致を保ち貨車を船内に移し其後に起る僅少の浮沈は貨車の終端にある軌條の一部をウキンチを用ひ人力にて上下して整正す舟二隻で運轉し一隻は一時に貨車六輛を搭載し得可く引卸しより引上まで二十分位ならんか目下一日に十回乃至十二回運轉し居れり

此處より星架坡は軌條は相互式に布設せられアンケルスブライスパーを用ひてある次第に市に近くに従ひ田舎の景色を離れて次第に都がた様子となり定時に目的地に着いた

十二月一日朝領事館に行き藤井領事に面會十二時過ぎ同處を辭しシヨソリツトと云ふ新嘉坡の三越に行き買物したが非常に親切で買心知の善い店である三井に立寄り金を受取り夫より市役所に至りて技師長に面會して紹介を得道路主任技師に會して市街道路に關する種々なる説明を聞き四時頃ハリ靈銀の磯田君を訪問し夕食にと誘はれたれども都合悪し



屋家人土ホンラアク

十二月二日午前八時に愈出帆した偉人ラツクルを偲びつゝ新嘉坡港内帆船林立の朝景を見送り徐々に其尖端を廻りて碁布散在せる幾多島嶼の間を縫ひスマトラ島を右舷に見て進行す此等の島嶼は盡く鬱蒼たる樹木にて被はれ稀に漁村の椰子の葉の隙間より立昇る景など熱帯ならでは見られぬ一景色由來南支那南部丘陵が禿山に見慣れたる目には光景一變特に一種の感を生ぜざるを得ず時に帆船の細面を被つて進むも

の或は小舟の漁林より漁村にと涉るあり一往一進スマトラに近づくに當り眼鏡を以て許りに展望すれば海岸に叢生するマンゴロー

第十八信

プの緑樹は影を水中に投じ其奥は亭々たる千古不芥の森林眼界の及ぶ限り何等展望を遮るものなし地はこれ日本本洲二倍臺灣の十五倍の面積を有する南洋唯一の富源地となす誰か垂涎せざらんや此の日前十一時より一天俄かにかき曇り驟雨沛然として來る船後を見れば上層は黒雲水際には青雲其間五六條の龍巻併列して發生し或は大に或は小に甲は消滅して乙は増大し時々刻々と千變萬化極りなく須臾にして黒雲青雲を呑んで四海暗澹雨益々強し其間僅かに十有數分船員驚て曰く如斯龍巻の多き未だ嘗て實驗せし事なしとサルンに入りて雜談三十餘分再び甲板に出ればこは如何に雲散じて日晴れ心神頓に爽快を覺ゆこれ熱帶驟雨の特性なりと

船は次第に赤道に進めども如斯き工合で熱い所か反て冷しいなどの言葉は度々聞かされた終日何等成すなく雜談に過す

十二月三日今日は昨日に變りて上天氣なり海面は油の如く清風徐に至り非常に愉快なる航路とす次第に進みて午後五時四十五分スマトラ島アートの岬角に碇航す此處は赤道直下とす婦人からかい一さし舞



政 - ホンラアク

はざれば此後の海上は大荒れとならんと冷やかす乗合ひの水夫赤磁通過初めの者あり望遠鏡のレンズに塵じめ赤線を濁し此れを見せしめ側よりさら赤道が見ゆるだらうと言へばあの赤線まで何哩有るだらうなど最も奇抜の面白みであつた此時寒暖計は八十九度十二月一日の時の新嘉坡の九十六度に比すれば非常に涼しく單衣掛けにてベンチに腰掛け欄干に依りて波なき海面を望むなど丁度内地の温泉に湯浴でもして居るか又は南洋の或る地點より赤道に避暑にでも來て居る様な氣がした夕食には赤道通過の御祝としてビールをやつた然しこれらたつた一本

十二月五日バタビヤネーザラントホテルにて

十二月五日晴天れど海上風あり苦熱を感せず今日の夕方にはバタビヤ港内に行けるならんと船員も全力を盡くし旅客も氣を張り午後五時頃港外に著戦争の爲め敬遠主義の御影が検査の厄なまぬかれた港内を見れば左側に當りて獨逸商船五隻向他に二隻互に密接して碇泊し船腹の塗換にかり赤腹を出して死なば一所と言ふ様な風に見ゆる此れ悉く戦争中々立國の港灣に竄入せるもの聞くなり南洋一帯は極めて獨逸船の航海繁榮せる所獨逸の所謂今後の國の實富は一に南洋殖民地の有無にあり如何に獨逸の南洋方面に對し全力を盡せるかを想見し得べし南洋航路は和蘭獨逸最も盛んにして近來本邦も一部割込の榮を有せしも微弱論するに足らず東洋航路に於ても一般旅客の誤に由れば佛船は萬事佛蘭西主義ホーイに英語を談すもの少なく和蘭は我が東洋人に對しては實に權着を極めて旅客の反感を買はざるもの夥し獨り獨船に至りては客の取扱可憐無窮を極めてホーイの如きも各國語に通ぜしものを選定し少しも旅客に不便を與へしめずと今其航海は全然杜絶す何んと吾々戦争に勝つ計り一等國の本領にあらざる可



官事理 - ホンララアグ

し奮闘一番す可きの機にあらすや一寸脱線した船は進みて港内に入りワローフに横著になつた巡査二人は出口を守り肥つた高利貸の様な男が手提を携へて船に上る今迄自由港のみ来た目には物々しく見ゆ戦時の今日何かあるのではないかなど少し驚た何んだ聞て見れば移民官で入國税二五盾の徴集官である此れは元來支那労働者の入國を防ぐために設けし制度であるので初めて入國するものにはセントルマンと苦力とを問はず何人からでも取立てる然し六箇月以來にジャバを去るものには此れを返還し往復切符を所持するものは初めより徴收せず何んが馬鹿くしいから船長に話して豫じめスラバヤより乗船香港行の切符を買ふた此れを移民官に示して事なきを得た、どうせ後には歸る金であるけれども公用出張或は其人の性質の知れたる者などには強て執行するには及ばまいと思ふ猶ほ此れからは税關である荷物になる可く減少柳行李を船に預て大小カバン二箇丈けにした仲々八釜敷いと聞て居る如何するかと見て居れば中を開けたが一寸ひねくり廻し火藥類はないかと尋めたから断然ないと答へたオーライで白

要て何やらと書たこれが無事に税關も濟んだその時は午後七時に二十分前である七時發の汽車にて船長事務長と三人同行七時半に古代のジャガドラ則今のバタビヤに著た先生二人は日本館に行き余獨りホーイの馬車にゆられ目的のホーザラントホテルにと急いださ一夜であり獨りボツチであるとして馬車と言へば大袈裟だが此地では人力車は許さない何んでも支那苦力が俵一輛を輸入した時には他の支那人集合して之を破壊し輸入者には俵の代金及船賃を補給して歸したとの事であるされば此の小馬車は俵の代りて御者は前部客は後方に後向になりて乗る香港新嘉坡などと違つて道路は不充分にてカタノ心持が悪い約一哩も来た頃漸く目的のホテルに著き愛嬌好き蘭人手代に部屋まで案内された隣室には日本人ありと面會すれば乗船以來常に話頭を上りし安達通信書記官であつた同氏は南洋航路の視察中であるが連のあるので大に氣強くなつた漸くして船の船長事務長も同ホテルに投宿雑談に時を更した安達君は岡山高等學校出身で武治と相談の間柄である

第二十信

六日朝一寸浮田領事を訪ふ日曜なれば市街電車及蒸汽車にて市中を乗過し大體の觀念を得更にメンジョンブリアオに至りて夕方歸宿七日鐵道本局に至り局長を訪ひ更に工務部に至り色々調査をしたが靴を隔て、痒きをかくの想がある鐵道年報と地方の局長宛の紹

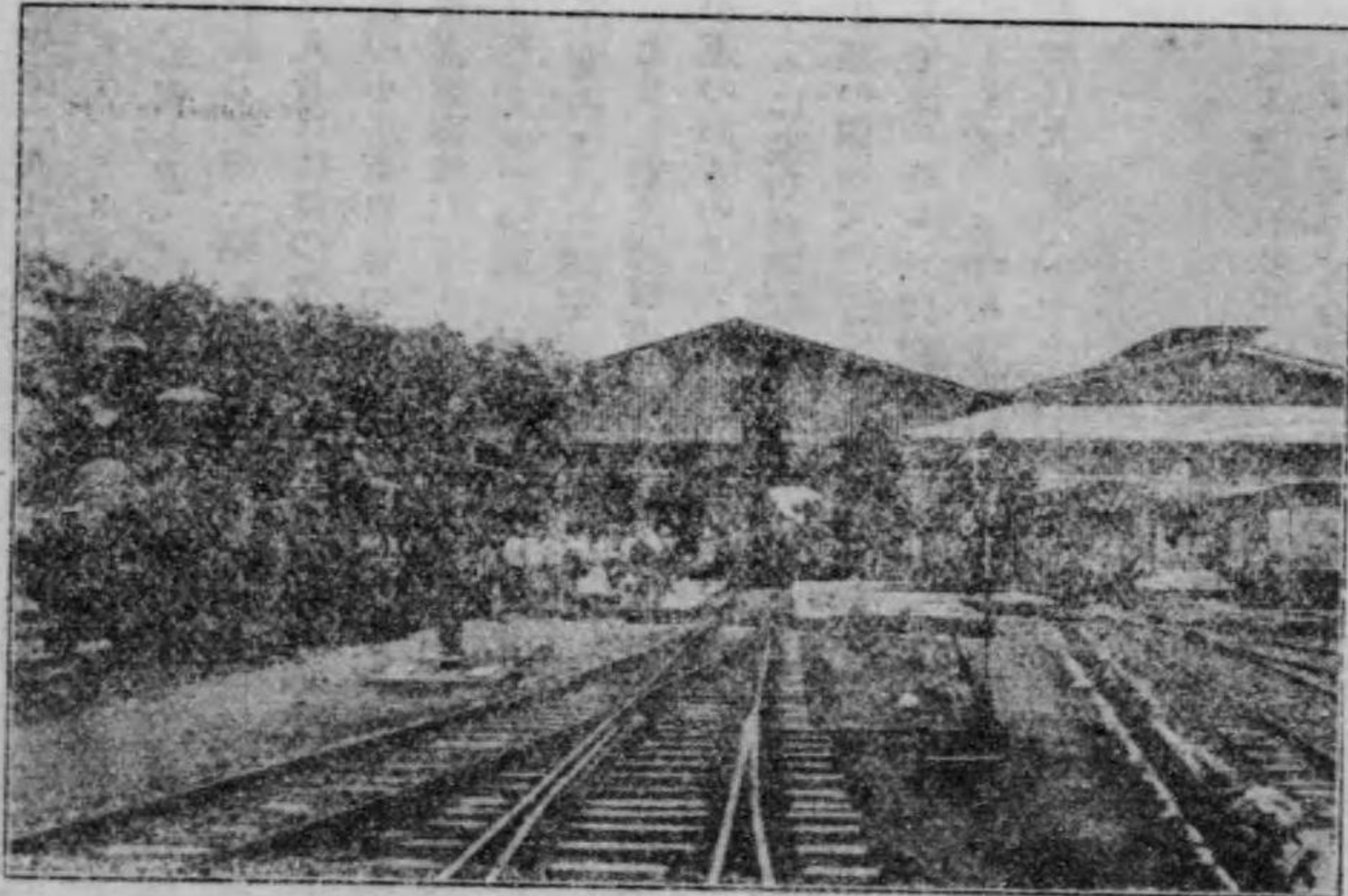
南洋一巡

介状を買ふた夕方よりウキルトフレイテンの停車場に至り見學した八日午前市街蒸氣鐵道を見午後後に電鐵に行きたるも社長不在代理は遠來の客に對して不届千萬の男であつて歸りに馬鹿野郎と言ふて歸つた先方は何んと思ふて居つたらう謝禮の積りで居るかも知れぬ何々

バタビヤ雜觀

十日信用状にて金子受取仕拂をなし午後四時五十五分發バイテン上町と下町——三百年前より日本貿易上和蘭として知られ(ジャガタラ)として有名なる市街は現今の所謂バタビヤで有る此所は海岸に接し土地低く濕地なるが故に熱帯何處でも有勝なマラリア病其他惡疫の流行多きと且は市街の不潔狹隘等の諸原因より蘭人大奮發して夫より約五キル米突も海岸を離れた所に市街を新設した此れは土地ではウキルトフレイテン則新市街と言ふ所であるが吾人は兩者を總稱してバタビヤと云ふ然し古來より名稱は一寸改正の出來ぬもの市街電鐵は(バタビヤ)と言ひ(バタビヤ)の略字其他ホテル大會社でも常にバタビヤ何々と書てある西貢新嘉坡では亭々たる道路並木の鬱蒼として強き熱帯光線の直射を防ぐの

功あるには一方ならず感心したがバタビヤに来て見れば一抱し有る樹齡二三百年の竝木に至る所に縁陰を投げて清風を送り運河は和蘭本國御手の物丈けに道路の中央を流れ多くは其兩側に竝樹を植ふ四通發達で有る俵のなき代りに小馬車の銀金具を澤山附けた銀色の鞭を押立た二人乗の小馬車がガラン／＼と鈴を鳴らして小走りに馳ける馬蹄の音などは他所に聞けない一種の趣きがある而して下町の通り丈けは人家軒を竝べて普通に見ゆる支那人市街と異らざるも少しく是町に至れば間口を廣く取り家屋を建築し其建方は中々大きく三四階のもの有り非常に丈夫さうに出来て居る屋根の勾配は急でコツテシ式風色がかつた白色に赤褐色の屋根瓦成程和蘭など油繪にあるのは斯んなものだなと頷かせた又新市街のウキルテフレテンと來たら市街と言ふよりも寧ろ公園の内に家を建たのだらうと思はるゝ位だ則ち余の止宿ネーザランドホテルは殆んど市の繁榮の中心附近に有るのであるが軒先を描ふるでなし屋竝相接するでなし十間も二十間も凸凹隣接家屋は亭々たる竝木で境さるゝと言ふ有様それに呑氣に



歩行する人種はジャバ人支那人アラビヤ人印度人である若し夫れ自働車ででかける西洋人さへあらざらば千古閑靜な樂園と思はるゝ反言すれば死に近き貧窮な國赤土色の運河バタビヤ舊街則下町の鼻より海中に透する運河有り舊街附近に幅廣き舟溜り有る此れが四通八達の中運河に達す今は舟溜り約十哩も延びてタンジョンプリオ港の傍まで行き有る昔日本と貿易時代は此舟溜りが主要港で有つたのださうだ運河の幅は十間以内舟溜の箇所は勿論廣が今から見れば兎戯的である古代の貿易に使用せし船舶の大きが想像せられると同時に蘭人航海の大膽をも見認めず居られない現今は市内の運河は左程に利用されて居らぬがタンジョンプリオの港よりバタビヤ舊街に散在する倉庫迄の貨物輸送は盛んなもので有る雜貨類は岩壁横著の舟より直ちに倉庫に卸るすが米とか木材とか纏まりたる物は舟の横腹より直ちに團平に取りて運河を上り市内倉庫に入れる舊街の運河橋梁は閉閉橋である市内にては堤を高くし舟の通行に差支なき程度に架橋す然し通行の舟は餘り見えない運河の水は一年中赤色にして二

三丁毎に設けてある階段の乗降場にはジャバ土人の女が例のサロシン丈けに成りて五六人多は十數人も相集り水中にはいり盛んに洗濯して居るあの水で洗つたら赤くなゝだらう男は腰迄水に没して何もしなく無我の境に入つて居る者を見る何か宗教的儀式でも有るかと思へば何んの事だ大便だとは下級チャバ人は皆此れらしい蓋し日本で廁、(川屋)とは此れから來たとは或人のしやれ其隣で洗濯するもの顔を洗ふもの水浴するもの誠に面白き對照我輩洋服の洗濯もあれかな肝臭い方があれより増しだらう

交通機關随分複雑して居る第一本鐵道は官線と今は官線に買収されたが蘭領印度鐵道會社の二線停車場は南北バタビヤ、ウキルトハルデン其の他四箇所計六箇驛を左程に廣からざる市内に亘き更に電氣及壓搾蒸汽との二市街鐵道あり本鐵道は普通の列車を運轉し電鐵は客車二輛蒸汽の方は同四輛連結して運轉す等級は一、二、三及土人專用との四階級一、二等は一等國民用蒸汽の方は此地に無蓋貨車一を間に連結して土人行商の荷物などを一緒に乗せる兩者共全線を二區に分つ一等は十五仙二等七仙五厘



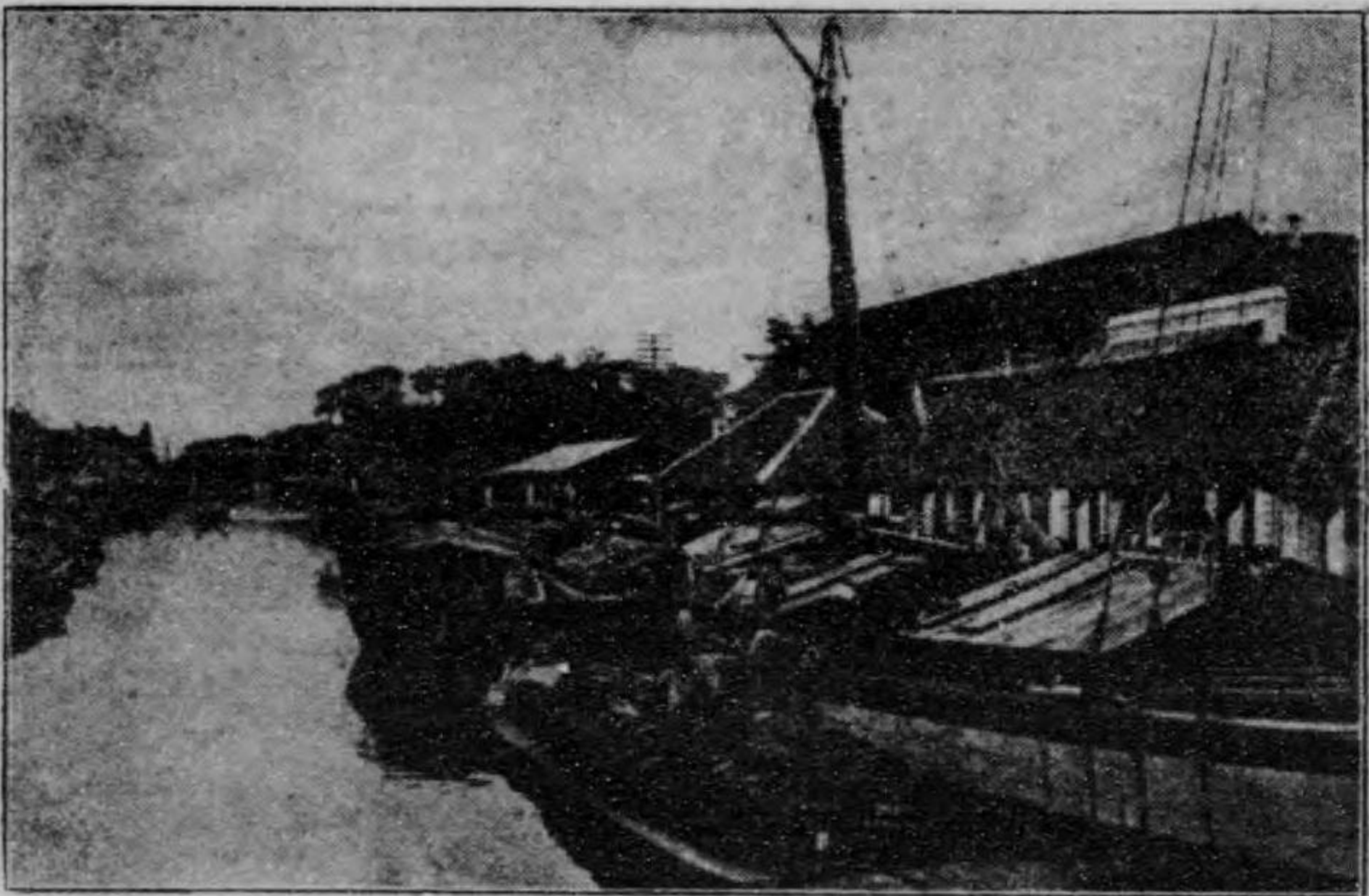
三等五仙現今は金さへ出せば支那人でも何等の制限なく一等にも乗れるが矢張一等は日本人白人の常用車と心得て居る乗らぬ様だ

ジャバ人は全然土人専用車のインランダーと記入されてある車に乗る以上三種の線が所々で水平交又をなしバタビヤ驛前は三線殆んど一點に會する有様尤も合圖ゲート相聯動して作用は相當保護機關を具備して有るが何んとなく不安心、様でもあるが平氣で運轉して居る電鐵は單線架空式軌道は普通マカダム道路にて敷石を使用せず蒸汽街鐵の方は蒸汽供給所を市内二箇所に置き原動力のボイラーの蒸汽を十五氣壓に高め汽動機關車には十三氣壓の蒸汽を入れ一時間八哩の速力にて四十分間運轉繼續す索引力は五十噸煙も立たぬから勿論市内はためであるが効外には資金の少き所は便宜タロウバタビヤの終端驛より余の止宿せるホテル迄約七基米位蒸汽が十三氣壓からより五氣壓半迄一降つた此の方は資金四十萬キルダ(一キルダ約我八十錢)に對し一割

三步の利益有るさうだ會社の技師に斯様な小さい市街に兩會社も併立體裁上利益上電鐵と合同した方利益だらうと言ふたら全く左

様である近き内にさうなだらうと言ふて居る軌間は兩街鐵共一
米一八軌道は電鐵同様敷石は使用せぬ客は盡く腰を下ろし東京
の様に立ちて居る事は全くない自動車
二千五百臺有る人口は二十萬人充分自
働車の數は多いものだ
市内道路は香港新嘉坡に及ばざる頗る
遠しと言ふも臺北など遙かに及ばない
が雨天の折や自動車通過の際砂煙の襲
撃を受くる時などは不完全な道路だ
と思ふ

新街の住宅 廣々と屋敷を取り四周
には樹木を植ゑ中央に低き平屋作りの
家を建築し家の周りに木柵板柵など
は絶體になく唯裝飾的に二尺角三尺角
位の石灰製らしい柱を三四間置に建て
針金が上等で鐵格子位を付けるのが關
の山で隣接家屋或は道路面より家屋の
内部が見ゆるのを保護しようとするの
ではない建家は石灰を使用せる煉瓦積
にして煉瓦を生地の儘顯はす事は殆ん
どなく大概は白色に塗つて有る屋根は
赤瓦にて土居葺を用ひず棧に直接瓦を
打付ける丁度丸山瓦の様なものである床は地盤より三四尺位高く
一面にタイル瓦等にて張り間々上等のものは大理石を用ひ多くの

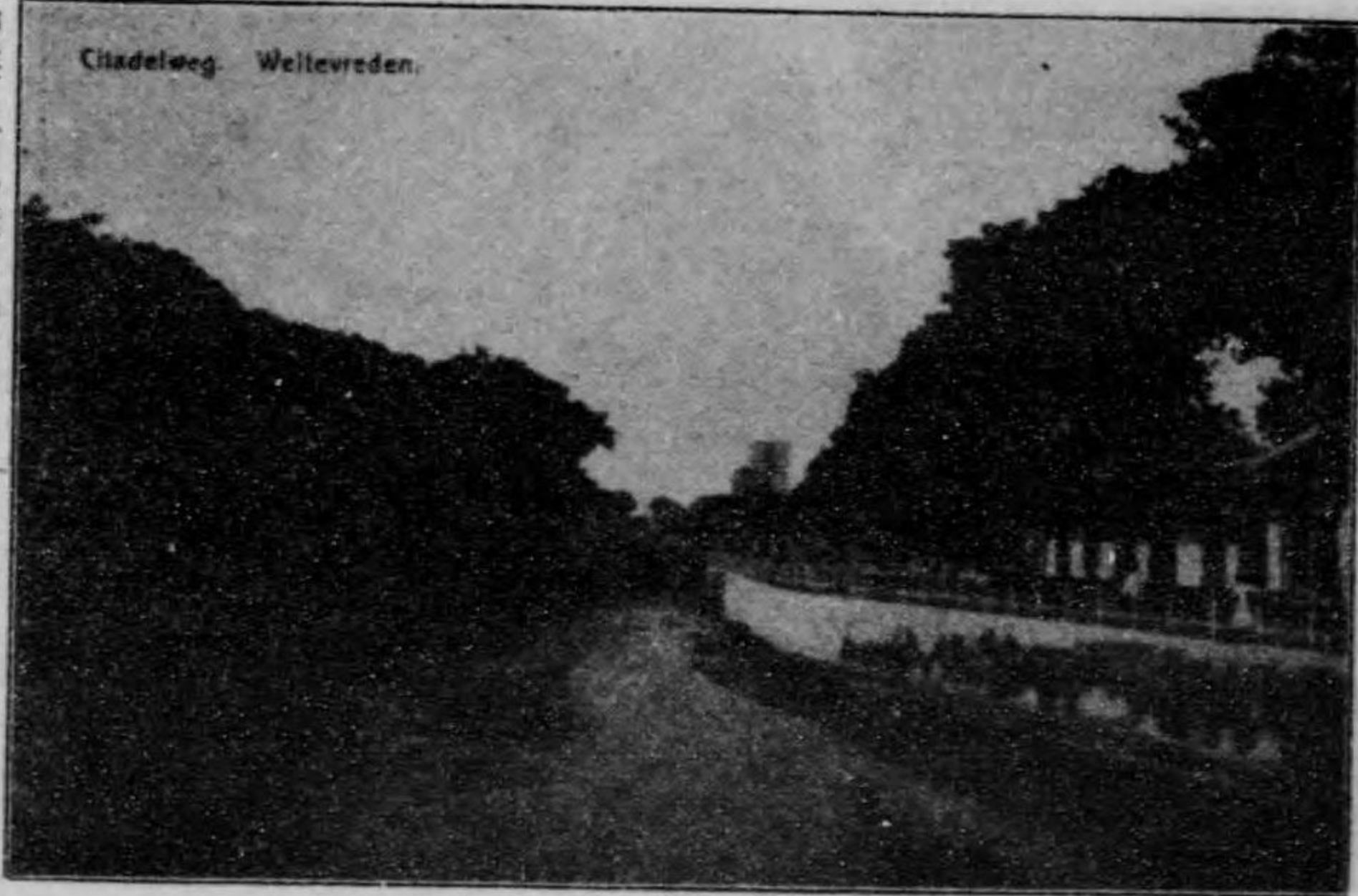


家は道路に面して幅二間位のベランダ有り此れも座敷と同様同じ
高さに張つめられ軒先きには青又は鶯色の縹にだんだらの縹のあ
る竹の簾を垂れ掛けて居る斯くてメラ
ンダは種々に利用され應接間ともなり
食堂とも涼場ともなるそして此メラ
ンダと道路の間は四五間より十間位も有
つて多く樹木を植込み一庭園を成す夕
方散歩すれば來客と談話中やら家婦の
針仕事畫の仕事を終て妻君と送向ひて
一盃やつて居る所など前面の縁を通じ
て電氣の燈で明かに手に取る様に見ゆ
る斯様な點は蘭人先生充分開放主義
で有る國となると閉塞主義で何人も此
國に入るを喜ばない丸で氷炭相容れぬ
様な主義で有る
廣き綠樹の中央に平屋作り建てた内
は非常に涼しく盛夏の候も九十度上
る事などは少く住宅は表通りの商家軒
を接する處には少ないが少し横町に入
るか裏通りなどは總て此式で有る近來
は少し二階建の家屋もホッ／＼出來か
けて居る
建物は多く粗悪なる煉瓦を用ひ日本の如く煉瓦作りで誇りとして
表面に露出する様な事はない尤も建築中の建物も見たが臺灣なら

運ヤビタ

等外品位の焼不足のもので重に石灰にて不手際になり積り重ねて居る
此れではまさか露出も出來まい表面は多くは白色又は玉子色に塗
り立てる天井は比較的粗末にして唯披
きの様なものを併べたるもの多く室内
同様に薄青色又は純白色に塗りたる
内部の造作は日本の如く金を掛ない屋
根瓦は赤色の丸味ある瓦で土居葺無に
直接横棧に打付ける年數經過すれば昔
生じて一部黒色を呈するなど一寸滋味
に見える言はゞ丹瓦白壁豊かなる綠葉
の間より隱顯する工合は誠に油繪的で
ある

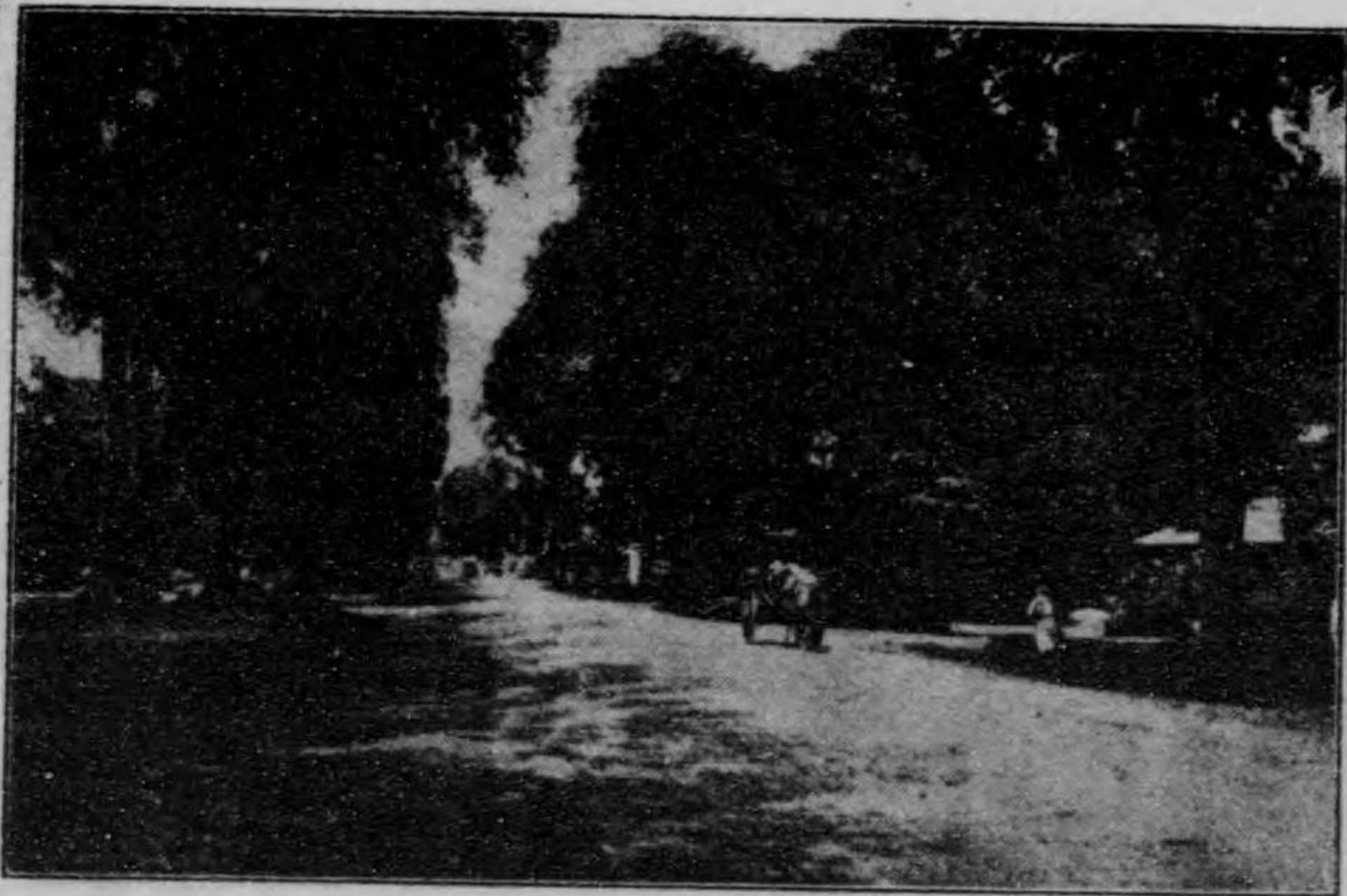
新街則ウキルトフレイテンの商店新街
目抜の場所は余の止宿せるネーザラン
ドホテルを中心として左右五六丁で有
る商家軒を接してと言ひたいがさうは
行かぬ甲は道路に面し次の家は夫れよ
り十數間も奥に引込み前面には百年を
經た様な大木がある住宅と見れば矢張
商店で有る最も充分軒を接して盛んな
シヨウキンドーを大通りに接して飾
つて居る場所もある言は御入用の御方
は此奥へ御入り下さい決して御勤めは不申候と言ふ様な風である
朝の開店は八時頃で有るが夜の閉店は矢張八時半頃我々日本人で



考ふれば夕方六時七時に食を済まし夫より散歩と出掛けるのが普
通だが此處ではホテルの食事も夕方八時から初まる最も晝は一時
より二時迄にやる西洋人は食後の散歩
でなく食前の散歩である夜は八時過ぎ
には商店は閉店と來る市内の電鐵蒸氣
車も八時過ぎには運轉しないおまけに
ホテルの前のバーで一盃のホルデーで
半時間も阿呆然と坐つて通る女の腰の
工合のみを見て居る先生連も八時頃全
部退散と來て居るから九時頃になると
市中は小馬車の走る音と活動屋の前の
電燈の輝く位のものだ
夕方に成ると夫婦連の散歩は中々多い
自働車馬車も多いが徒歩もすくなく
い多くは兩性共帽子を被らぬ至極善い
事と思ふ
役所商店會社の勤務時間——此は少し
物でも調査し様と思ふて來た者には實
に容易ならざる大問題である普通役所
或は會社同きの出勤時間は九時からで
午前は午後一時迄一時より三時迄は休
憩の爲睡眠時午後四時より五時迄迄
訪問は十時より十二時半迄である幹部
先生は十時でなければ出勤せぬ此方は急いで先方は泰山不動

調査腰落著けて緩りとやらなければ出来ぬものとあきらめねばならぬ蘭文でも読めれば報告書を買つて来て調も出来るがそれも能はぬ互に不十分な英語で話し合ひ實物視察で其を補充するが一番善いと思ふ然も大概高級官吏は英語で話して呉れる技術的事は百聞一見に不如で調査も樂だが注文商業と來たら中々容易であるまい特に此後の南洋發展は一に商業關係である今日蘭語養成も利益獲得の上には必要であらう外國語學校や高等商業なども大に注目すべき點と思ふ然も三等不便は恰も臺灣寶庫は生番人に由て保護されて居たと同一に蘭領印度の寶庫も必密主義言語不通の生番主義に由て保護され世界に開放されなかつたので今日蘭領印度の生命で有たのであらう法文理工などは此方は教へてやうがせめて商業だけの用として蘭語の發展を望む事切である

ホネルネーサーザランド此れは余のバタヒヤ滞在中宿したホテルであるが大食堂を中央に置き四周に寄宿舎を建て舎監教員等の家族の家屋を附近に散在せしめてまゝ高等ホテル學校の寄宿と見た方適當だらう角屋敷になつて居る表は蒸汽鐵道

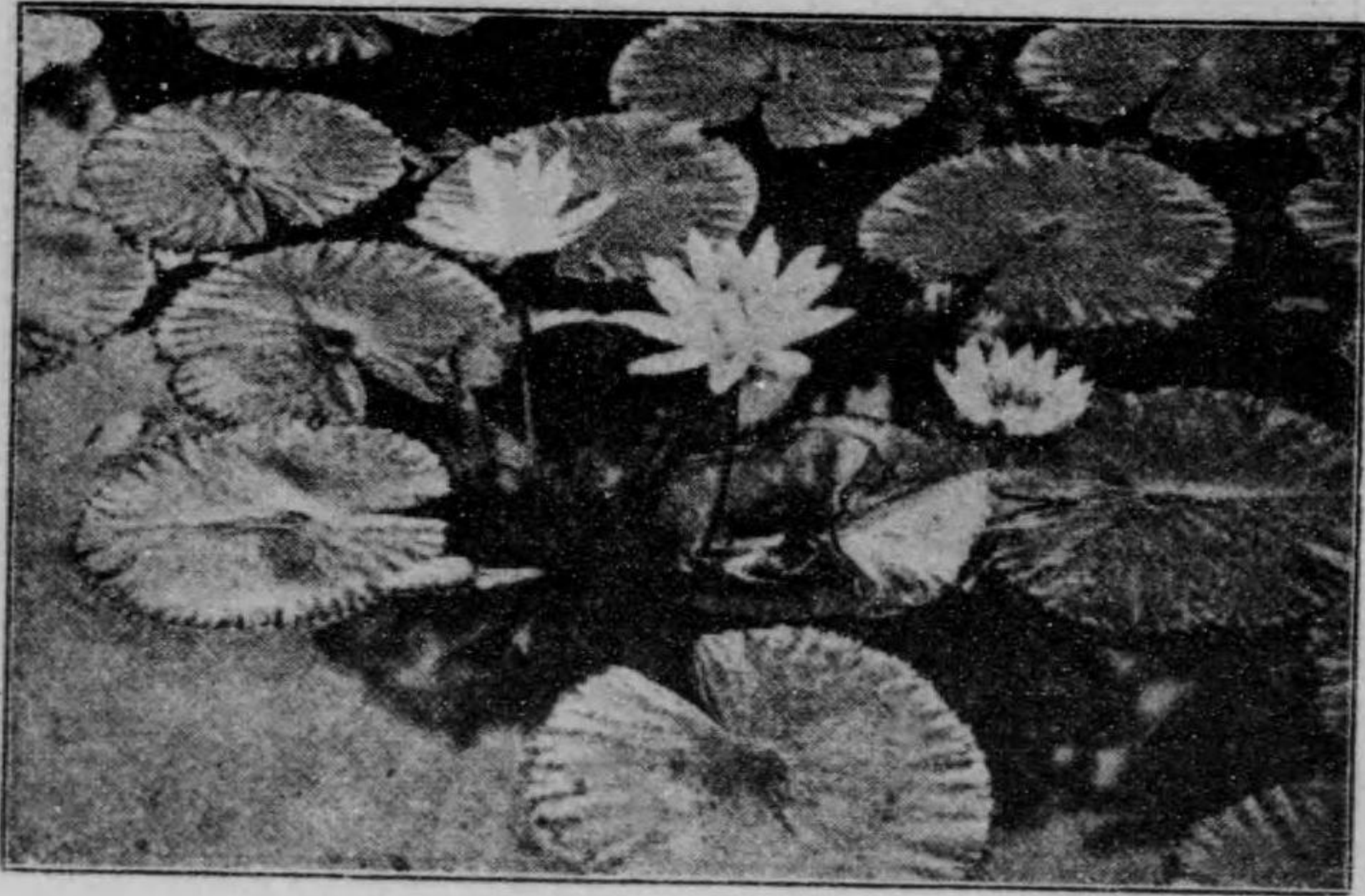


裏は電線が通り大ききは三丁に五丁位食堂の側より裏表に並木の道路有り其れに沿ふて二階建と平屋作りの客室が建てられ附近には五六棟の獨立家屋が散在す此れは家族で下宿又は投宿して居るものなどの室である先きに所謂舎監用家屋である其他は旅客用則學生用室となる室の數は總、百有餘各所の空地に熱帯植物を植込み一寸公園内の建物の様である

宿料は余輩は一室で七キルダ則三度食で日本金に換算して五圓六十錢比較的安いベッドには枕と竹夫人(ゲツケワイフ)と有るのみ風呂は水浴で勝手に自由は何時でも使用出来る一時牛頃食事を済して一水浴二時半頃寢て起きてから直ぐ水浴夫より執務終つてから又水浴水浴は此地にては常に只一の樂しみで有る便所は別に變りも無いが何れに至りてもビール瓶四五本立併べ清潔の水を容れて有る是れは要所洗條用である

ホーイは悉く馬來人食堂は可なり廣く百五六十人は坐れる此ホーイも馬來人で白のジャケツツ目した様な物を著て長きナブキンを肩の少し下より下け頭部は馬來特有の布片にて巻き付ける一寸變つた風である

十二月五日の夜盛裝貴婦人の腰をなぐり付たと言ふたら驚くだらう泥酔警察にでも引かれたのでないかと思ふだらう實際此地では酒はやらないがビール一本は關の山だ扱へ十二月五日の夜はセントニコラスの祭で小供の遊び日であるさて夕方より余の宿の直ぐ向ふのホテルやらその他のホテルやら全部ホテルの前面廣場は大供小供が小車を圍み椅子に腰掛けて満員立錫の地なく最も賑かな場所はネーザラランドホテルの運河を隔てた向側の大通りで有が其方七時頃より非常の出入學校連は列をなし西洋貴婦人は盛裝して子供を連れ伴侶の男子と同行其他何々組等實に盛んな人出馬車自動車は通行禁止此等多くの人は手に手に長さ二尺幅一寸位に四つ折にした厚きボール紙の扇子様のものを持ち表面にはドウゲタ書などを書た紙を張り付叩けば一寸音がする此れをツーセーブと云ふ其の他人毎に種々なる色の紙(コンフィッチ)を一二分角位に切つたものを容れた袋を持つて居る通行人は誰でも係らず扇子でナグッ付コンフィッチを頭から撒き附けるツーセーブ叩けば音が高く痛くはないレナーか若き美人など



蓮ノ園物植ホルンテイバ

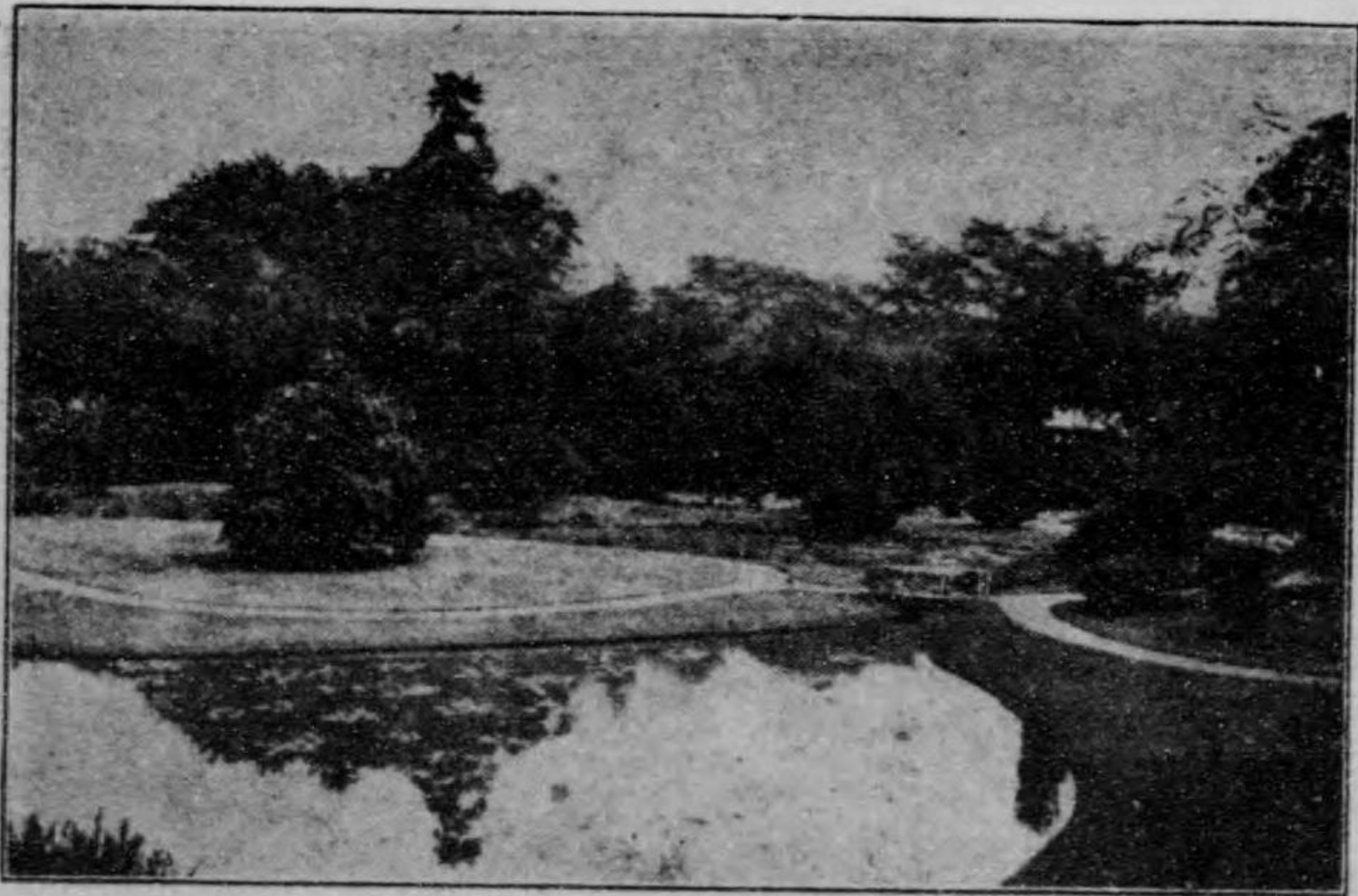
は盛んに叩かれコンフィッチを撒き掛けられる頭部に時ならぬ霜を置た令嬢なども澤山有た盛裝せる西洋貴婦人の警部など投ぐるのは此機を逃してはと盛んにやつたが矢張自分も度々やられた袂に残るコンフィッチの數量は美のインテグレートとなるのであらう夜の十二時過ぎには退散した様で有つた

第二十一信

拜啓首府バタヒヤを發してからは此處の旅館や彼處のホテルと二宿三宿と日を送り晝は役所の調べ名所見物夕食は大概八時又は八時半より小瓶のビールに心陶然ベンに親しむの閑を得る成程旅行中の日記や紀行文などはパンの爲め餘儀なくせらるゝにあらざれば出来悪いものと思ふた然し閑寂なる我家庭には是非共と思ひ筆を執る行文の粗略詳細一信毎に其軌を一にせざるは許し賜へ

十一日朝バタヒヤ舊都のネーザラランド商業銀行に行き金を受取りに出掛けた午前十時ならでは支配人は來ぬと云ふ九時より其迄待て居たが中々大銀行であるが行員は田舎の小銀行位の人員である各人共一

生懸命汗水出して働いて居る側の一室で支那人のユダヤ的の肥つた者四人が同じく眼鏡掛けて銀貨を数へて居るが計算は從で主なる用務は偽造貨幣の判定であるさうだ瓜哇は仲々偽造銀の多い處と聞て居つた此れでは油断はならぬと思ふた或る停車場で時間の場合に待合所を彷徨き居りし時或る男が小商人らしい女に五十錢銀貨の交換を頼んで居つた所が女が其貨幣をダイヤル張の硬き土間の上に幾度か投げ當て音を聞き幾度か其眞偽を鑑定してから初めて交換をすました。我々が物を買入れる時も銀貨なら金箱の板の上に幾度か投げ着けてから受取る市場商人などは往々偽造銀貨をつかませると仲々厄介な國なり然し偽造と知りつゝ是を使用しても敢て怪しみせぬ唯受取らぬのみである日本ならやれ警察やれ探偵と六箇敷き事であらう余は幸ひ今日迄偽造品を握ませられた事はない十一時半頃金を受取り歸宿した初めは十時頃の發で出發する積りであつたが随分遅くなつたホテルの支配人にハイテンフルヒ行は午後が好からうか午前にしようかと話したら支配人先生一言の下に彼處は朝の景色に限る午後からは定た様



(一) 園物植ヒルゾンテイバ

に雨であるところまで午後二時發と決心して電話で向ふのホテルに通知して貰つた通話料に二圓五十錢かゝつた之も御断りを食らつて知らぬ旅路で路頭に迷ふよりは安價だらうと思ふた諸拂を濟し室のボーイに二キルダ半程やつたら大喜びであつた一週間滞在安過ぎる様であるが一日の極めは三十五錢位である一體ジャバ全體の給仕は一箇月七八圓の俸給買ふて居るチップは其れ程當にして居らぬ日本旅館の女中の様に無俸給茶代當て込み甚しきは茶代の一部を主人に提供するなどとは全然趣きを異にする内地旅行で金を出しながら一番苦痛を感ずるは茶代であるところが整理の途があらう受取らぬ旅館もないから一切やらぬ事にしたらよからう午後二時半馬車を備ふて領事館に至り深く御禮申上歸宿旅装を整へボーイに送られケルトフレーテンの停車場に至り再び車上の人となり午後四時五十八分懐しきパタヒヤを後ろにしたパタヒヤ、ハイテンフルヒ間の線路は關領印度鐵道會社の布七一年明治十年開通し引續きてハイテンフルヒ迄五十六キロ間は

一八七三年に開通したもので随分古い線路である「ハイテンフルヒ」より東部は國有鐵道となり運輸政策上國有鐵道にては困つた所であつたらう然し仲々利益の多い線路で政府に於ても度々買収策を試み一九一二年千二百萬盾で買収案を提出したが國會で破れ次で翌一九一三年再び八百五十萬盾で買収を了し會社には他に支線布設及其他の條件を特許して事落著した線である。パタヒヤ、ハイテンフルヒ間の線路は片上りの線路でパタヒヤ線は高さ三米突ハイテンフルヒは二四六米突平均勾配二二〇分の一良好なる線路であるを見た詳細なる點は餘りに専門に入るから抜きにして夕方迎の二頭立の馬車に打乗り意氣揚々としてホテルに入つた余の宿泊せしベルローホテルは此地一等旅館で景色に富んだ點に於て有名なるもので大概の日本人は皆此處に來る奥の一間に案内された宿泊客は僅に四五人らしく他の十有四五の室は空明きである此なら何の電報電話に及ぶのでなかつた入室テーブルに腰を下ろすと直ぐにボーイは繪葉書類を持つて來て盛に勤める植物園の案内記の様なものに繪葉書の附てあ



(二) 園物植ヒルゾンテイバ

るのを五十錢で買つたが普通の繪葉書を澤山机の前に併列してボーイは歸つた何んが此屋のボーイは實に悪いのであるまいかと疑問を起した今迄の宿屋でボーイが斯様なものを商賣するなどの事はないマンテイ則水浴を済して夕食を終た室の直ぐ前にある山は雲で被はれて居るが脚下に流るゝ河は色こそ赤けれ滔々として餘韻多く山と河との間一面の森林其の間に赤瓦の屋根の見ゆる何とも形容の出来ない趣きがある暫く見とれて居たが夜の黒暗み次第に擴がり唯聞ゆるものは河の流れとホテルの直ぐ下を通過する不調和の汽車の走る音のみである朝の景色を樂みとして臥床に入つた夜は涼しく竹夫人の他に毛布を掛けて寝に就た。十一日は朝の景色を見様と夙に起きた未だ薄暗き空なりしが此等が如何に變化するだらうとベランタの椅子に腰を下ろして見て居た次第に奇しき鳥の鳴る音と共に夜の幕は打落され富士山を少しく小さくした様なサラツク山は刻

微を示し丁度ホリーの持来れるコーヒを啜りつゝ飽く迄眺め入つて居つた景色の美なる身は萬里の異境にあるを忘れて丁度箱根が城の崎あたるの温泉宿に居る様な気がした次第に時を進めば村の若者男女を論ぜず下の濁り川に入りて水浴をなし互に打笑ふて戯はむるゝ有様は實に一幅の畫圖石川畫伯に願ひたいと思ふた朝食を済し世界に有名なる植物園の拜見に出掛けたホテルより四五丁行き正門の側に居る小僧を案内者として園内に入つたが初めホーイに英語を話せるか尋しにオ、エイ、アイ、キヤンとやつた十二三の土人の小僧であるが流石世界の樂土と標札打つて廣告して四方の遊士を吸い入んとする相聞の政策は偉いものだ外來の客にも便利なる様に英語を教へて居るのだと思ひ感心して歩を進めた何を聞ても「ま」と「え」此外少しも英語を解し得ない鐵拳一つ食はし銀貨十錢やつて事務所に急ぎ今出勤した丈の二十一の和蘭の美人と英語で話し合ひ一キルガ出して案内記を購入した一體和蘭人は餘り丈も高からず色も少しく赤味を帯び我々日本人は非常に好く見ゆる更に少し伶俐さうな小僧を備ひ上衣を持たせ本を片手に所々方々と彷徨ひ歩いた植物園と言へば平坦なる土地で四角か圓形に區畫を立て此れは椰子樹此は排木と畑の様に植樹する位と考た所が何んの其様なものでない河幅二百呎もある急流植物園の一方を廻り北岸にある二百尺位の小山幾多の丘陵は日も透らぬ一面森林である丁度基隆川を挟み臺灣社の境内と麗山全體を總括して植樹したと思へば間違ひない但し此れよりは約二三倍は大きいだらう

十九日マカランホテルロビーにて

パイテンソルロは初めは極めて微々たる一小寒村なりしが一七四四年時の總督ファンインホフは餘程農業趣味のあつた人と見え歐人を勤めて移住開墾に従事せしめ次第で翌四五年には總督自ら此地に居住した此處は八百七十呎程の高地であるが午前は晴天午後は屹度大夕立一箇年を通じて二百二十日間雨は晴天土質は火山灰にして丁度北投の様なもの植物の發育には極めて良好であるので一八一七年レンロルド博士が初めて植物園を此地に設置し其後幾多の學者實驗者の腦血を絞つて今日世界有数の植物園と成つたのである

案内の小僧に上衣を持たせ案内記を片手に瀾水巡見にかゝつた先づ入口のカリヤの竝木は二抱もある可く亭々として道路の兩側に併列し上部は豊かなる綠葉相接して天日を蔽ひ恰も隧道の如し右に折れ徑二三寸乃至四五寸の小石を張詰りたる坂路を下り園丁の手招に従ひ林内に入れば此處は悉く胡蝶園で生木の幹に根を廻はし殆ど野生蘭の形態紅紫黃幾十種の花辨芳香鬱鬱園丁先生丁寧に一々之を鼻に當て小半時も案内した臺灣で初めて白を見て驚た我々には實に垂涎千丈たらざるを得ない請求に應じて銀貨を遣し此れニ羊齒科の畑に行けば高さの二丈もある様なもの幾百種となく盛んに熱帶的美觀を發揮して居る何んが高山幽谷に入つた様で大蛇でも出て來ぬかと心配した下の方は人工的に池を設け水蓮を主として珍奇なる水草が有る白衣の西洋人夫婦に逢つた詳しく説明を聞き川を横ぎり幾多の植物を見再び川向に出で日光の透らぬ林の内を馳せ廻り疲れてはベンチに腰を下ろして涼風を容

十九日マカラン市ホテルロビーにて曉に達す

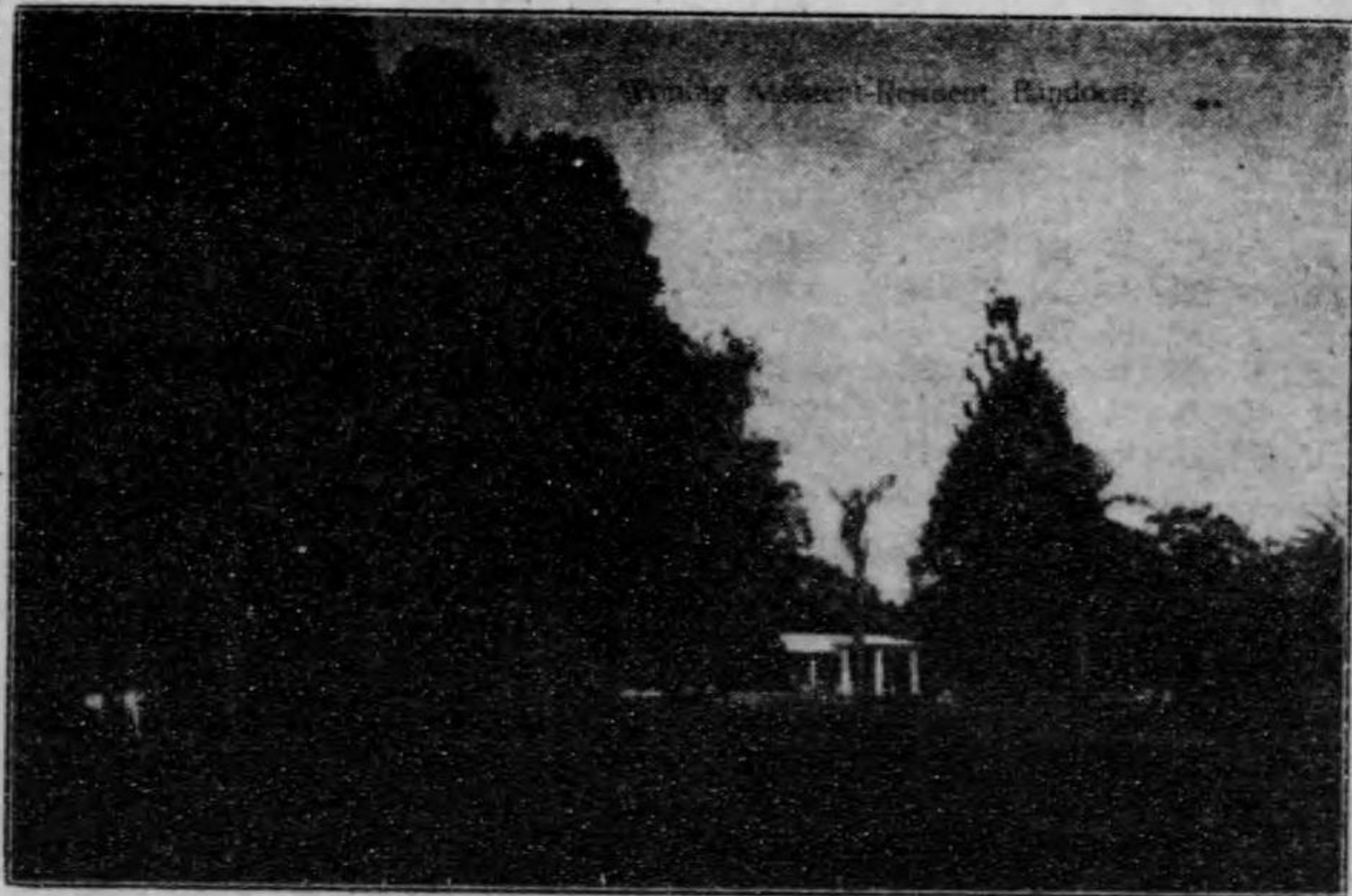
れ案内記で方向を定め續に小列的に大約一週して最高所の總督別荘の前に出たが此處にも水を湛へて池となし水蓮の花が紅白相競ふて咲き亂れて居る五六歳を頭に十一歳程の歐人小供が三四人母と乳母とに連れられ玩具のモーターボートを二三隻浮べて競争ゴツコをして居つたそれより舊園を見何やらの記念碑の側に一休みし再び本館前を出て二三建物内の幼樹草花を愛で正門を出た數十歩進めば此處は又支那人の市街喧嘩極りなく對照の激しきリッパンウケンタルの連想を禁じ得なかつた夫より馬車にて市街を一見し歸路日本商店に主寄つた熊本の青年で藥行商人であつたが實直より信用を得て二三箇月前商店を出した結果は善き方であるとの事此後の發展を祈りつゝ僅少の買物をなしホテルに歸つた殆んど十二時近くである五時間程掛つて天下の至寶を見た譯である

専門家が聞たら怒るであらう
ホテルに見た様な西洋人が居つた突然話し掛ける成程パタヒヤのトリスビウローの書記である
智利沖英獨兩艦隊の戦争で獨艦三隻沈没二隻逃竄との報を聞た日本艦隊は参加せぬかと言ふたら否と答た然し非常に愉快であつた午後ホテルの馬車に送られ停車場に出てバンドンに向ふ事にした馬車にホテルのボーイ一人付て來たが馬車昨夜の分も併せて一圓出せと言ふそんな事はない客已に拂つたとホテルの領收書を示して分らの言葉どなり付てやつた先生青くなり平あやまりに謝したブーゾーしいもの逃げもせずに手荷物車内に入れ發車まで待つて居つた毎の毒もあり二十五錢やつた斯かる一夜限りのホテルには買の悪いものも有るさうだ

十二日前十一時半食をすまし十二時四分發の汽車にバンドンに向ふ此線は所謂山線にして一上一下最急勾配二十五分一最短半徑一五〇米則七鐘半の曲線にして幾多の最短曲線反相接続し川に沿ひ山を縫ひ恰も長蛇の延々として攀登するが如く實に一種の奇觀を呈す其間富士型の山嶽隱見出沒旅情を慰するもの少からず本島にては勾配に従ひ線路を區別し二分の一の勾配を有するものを山線と稱し他は平地線と稱すこの區間は中々三又河后里庄間の比にあらざる然れどもこれを工學的に研究すればこの區間三百呎の延長に於て隧道は延長六〇〇米を有するもの唯一箇あるのみ固より詳細なる實地調査を遂ぐるにあらざれば彼是の批評を加ふるを得ざるも或は經濟上の論據より努めて隧道を避くるの主義を執りし結果茲に至りたるものにあらざるが若し果して然らんに列車運轉上極めて不利たるを免れず然れども本鐵道に於て曲徑半徑七鐘半を採用せるは山線敷設には参考とするに足るべき一材料たるを失はず橋梁は多くはパイプスル型を用ひプレートガードを用ふること極めて稀なりこれら勿論築堤の高さ深底と基面との高さに關係して決定せらるゝものなるがヤヤ馬米聯邦共にプレートガードを避くるの傾向あるは疑を容れずパラスタックの型は他と異り兩端には九吋内外の玉石又は割石を用ひて五分位の法に石垣を作り其内部にパラスタックを填充すパラスタックは河砂利を用ふるが幸ひ火山岩多きを以て形は不規則線路用には非常に適當してあるパラスタックの内は全線を通じて草一本をも發見し得ぬ様に保線は實に行

届たるもの側溝は形態を存するも石垣又はコンクリート等特種の保護を設けず切取築堤法面中に不規則これ又張芝の他更に保護工なく間々玉石溝を見る位、停車場本屋軒高二十尺位にて中々高く風取良好熱帯地には是非共一考を要すべきことならん驛名は本屋の正面入口の上部及本屋の兩妻に幅二尺横八九尺相當の大文字にて示し下部に土地の高さを記入す旅客には一寸慰安の標的となる然しこれは山線で一才一見しただけ勿論全般でないから後に訂正を申込むやも知れぬ餘りに専門に入り過ぎた追々と書くこととする

パタヒヤ滞在中蘭人のハイカラ店に於て白菊の花を美麗なる瓶に挿して賣つて居た又浮田領事の宅で御馳走になつたときも黄菊紅菊の種花を見、一方ならぬ感に打たれて故國を思はしめた今汽車はパタヒヤ起點百十軒標高五八米の山地を駛走してあるが驛に著く少し前に盛に菊花を培養し花輪も中々大にして紅白咲き亂れてある地高く氣爽かに殊に黄昏の涼氣身にしみ皇國の御威威此土に及べるにあらざるかと身の萬里の異境にあるを忘れしめた



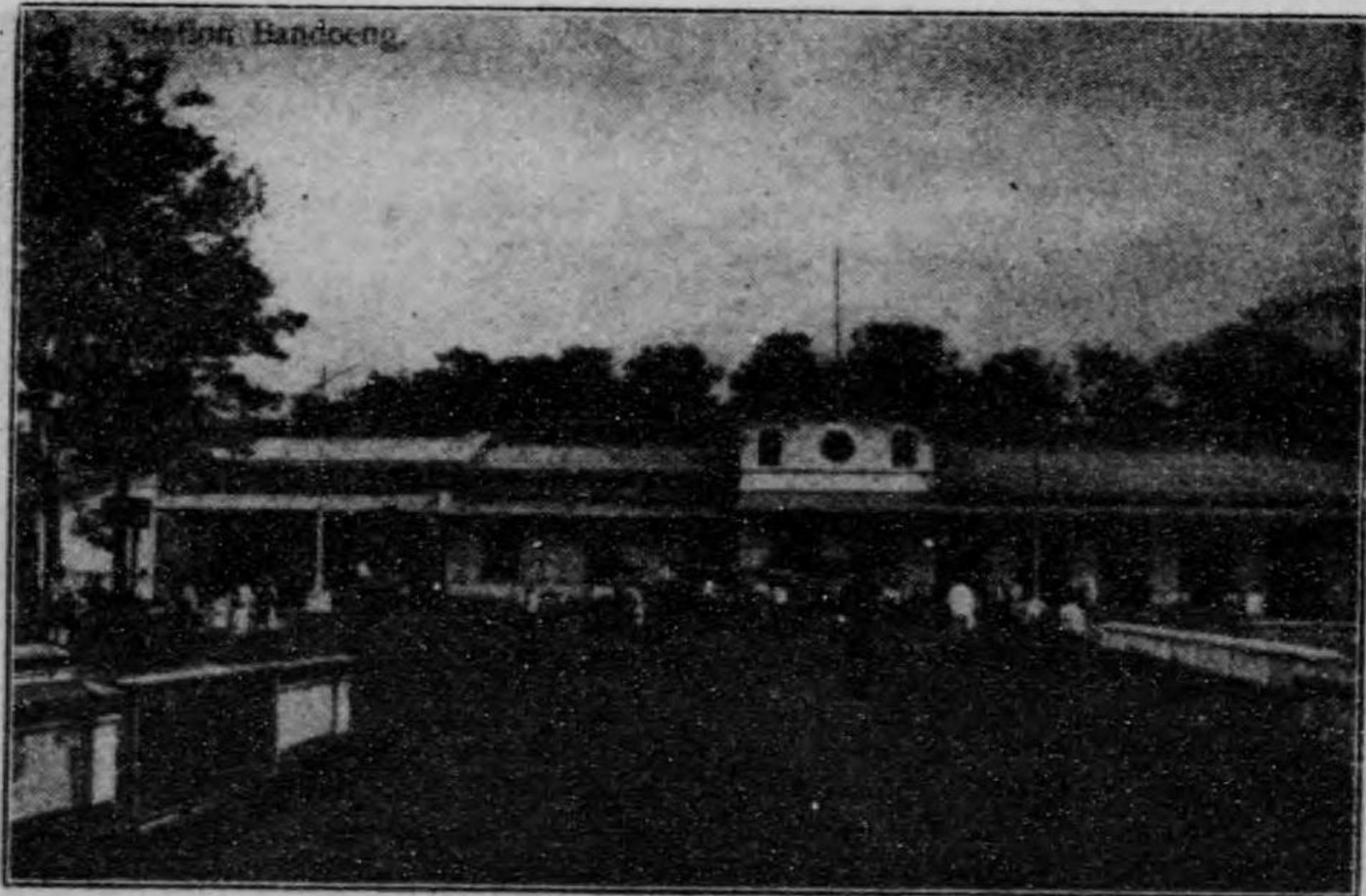
パタヒヤよりバイアンデルヒを經過して支線となり本線は北部を通りクラワンクを經過して本支兩線はバンドンより少し西部の驛にて

連絡す此驛を通過せし頃は六時過にして薄暗く可なりの大驛の如くなれども何等得る所なくバンドンに著たのは午後七時であつたジャワ島の點燈後の列車程陰氣なるものは恐らく世界にあるまい一等室の窓は低く高きは我臺灣鐵道の三分の二位一等室は中央に通路を設け左右二人宛の座席あり四人分にて一室となる而して一方の二座席は引延ばして一室となしスレーピング用の臺となすことを得べく御叮嚀に皮製枕迄用意してある而して座席を張れる黒皮は所々に龜裂を生じ深き釘の鑲目には形容すれば製作以來の塵が其儘に残つて居ると言ひ度位の不完全なる掃除點燈は一室毎に蠟燭一本晝間でも此室に入れば獄舎にでも押込まれた様な氣がし夜は鬼氣人に迫ると言ひたい位讀書する事も出来ざれば相客なきを幸ひ測尺を出し室内の測量をやつた尤も夜間である午後七時中央ジャワ唯一の都會バンドン街に著きホテル

ホーマンに投じた地高く空氣も清冷で各種の點に於て我名古屋市に類似して居るとの事である(ストラバヤンホテル)にてジャワ出發の前日即二十三日午後十二時過ぎて二十四日の午前二時取急ぎの爲め(亂筆御用捨)

第二十四信

十二月十二日午後七時バンドン著朝急行にてパタヒヤを發しバイアンデルヒを經過して東行する列車は夜行が無いから此所で止りて有るホテルの馬車に乗せられホーマンホテルの二階に運ばれた早速ジャワ一流の水浴をなし熱帯の油汗を下地に山線汽關車の黒粉を塗立けた名産の化粧を洗ひ落して生來の色白男となつ夕食を済した臺灣鐵道で臺中に來た様な心地かする馬車で一巡して夜景を賞し臥床に入りしが夜半冷氣を感じ單衣二枚重ねて漸く夢を結んだ十三日朝九時半鐵道管理局を訪れた蘭文が原より讀めず馬來語は解せず飛込んだ室は後で考ふれば汽車課長であつた一時間計り話し合ふた親切なる先生で種々なる木材見本などを示しジャワも次第に木材の不足を感じ目下ホルネガより取寄せ試験中であるがアイヨワードが非常

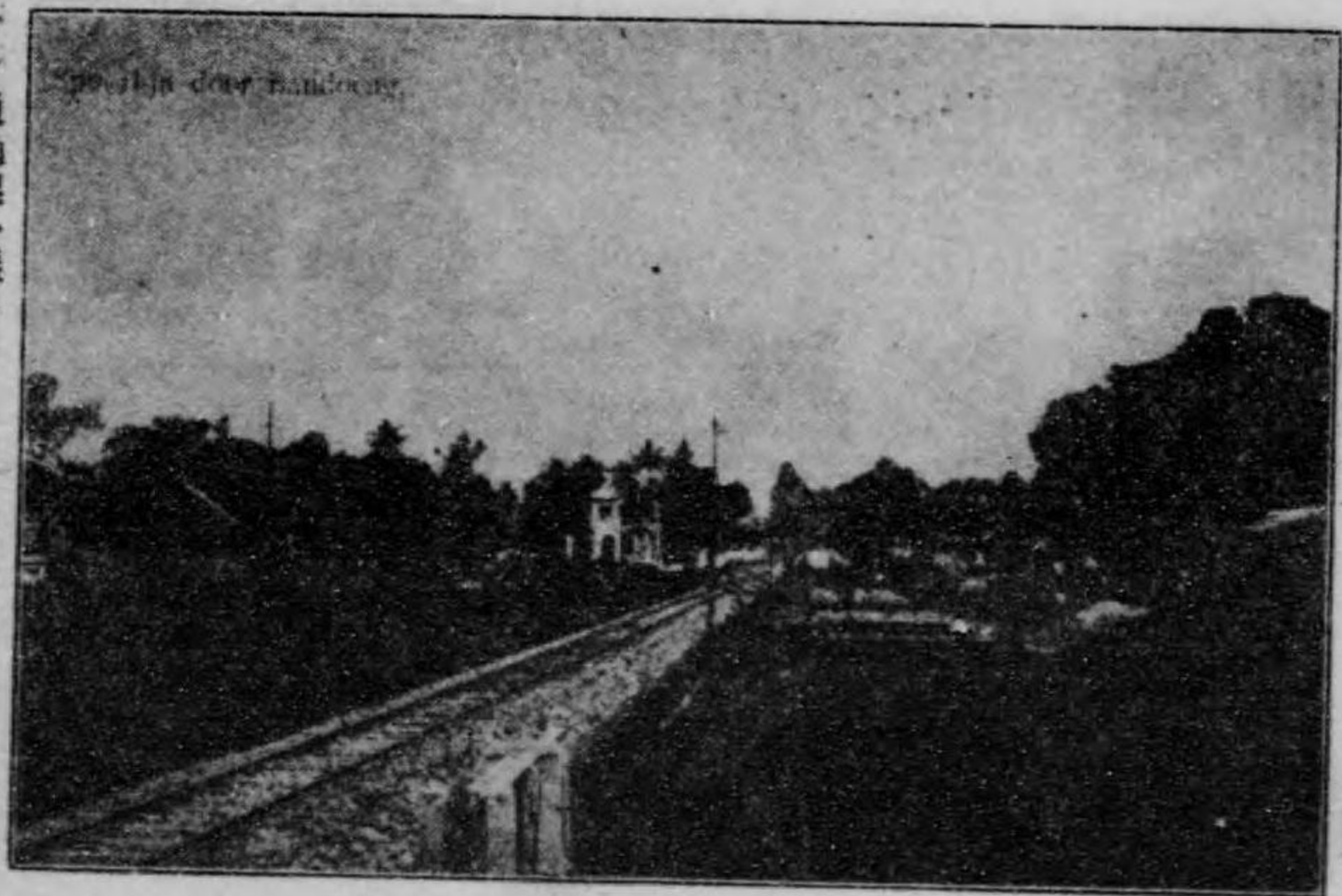


に硬く良好なる材質にして枕木にして代價三キルダ位だらうとの事管理局の組織其他を尋ね更に案内されて局長室に行き一般状況を聞き局内の運轉ダイヤグラムを請求したか捕はぬから後から送ると言ふ(後でストラバヤンに送つてくれた)一體蘭人は書籍圖面は中々呉れぬ屁の様な書寫眞は一枚でも相當の地位のものも上司の許可を得てからと尤も外國人は戦争等の關係あるからでもあらうが實に秘密を重んずる國で調査の六箇數は蘭語不通の原因のみでない夫より五六丁離れた工務の技師室に導かれ保線上の事柄を聞き一時半に此處を辭した

場車停ンドンバ

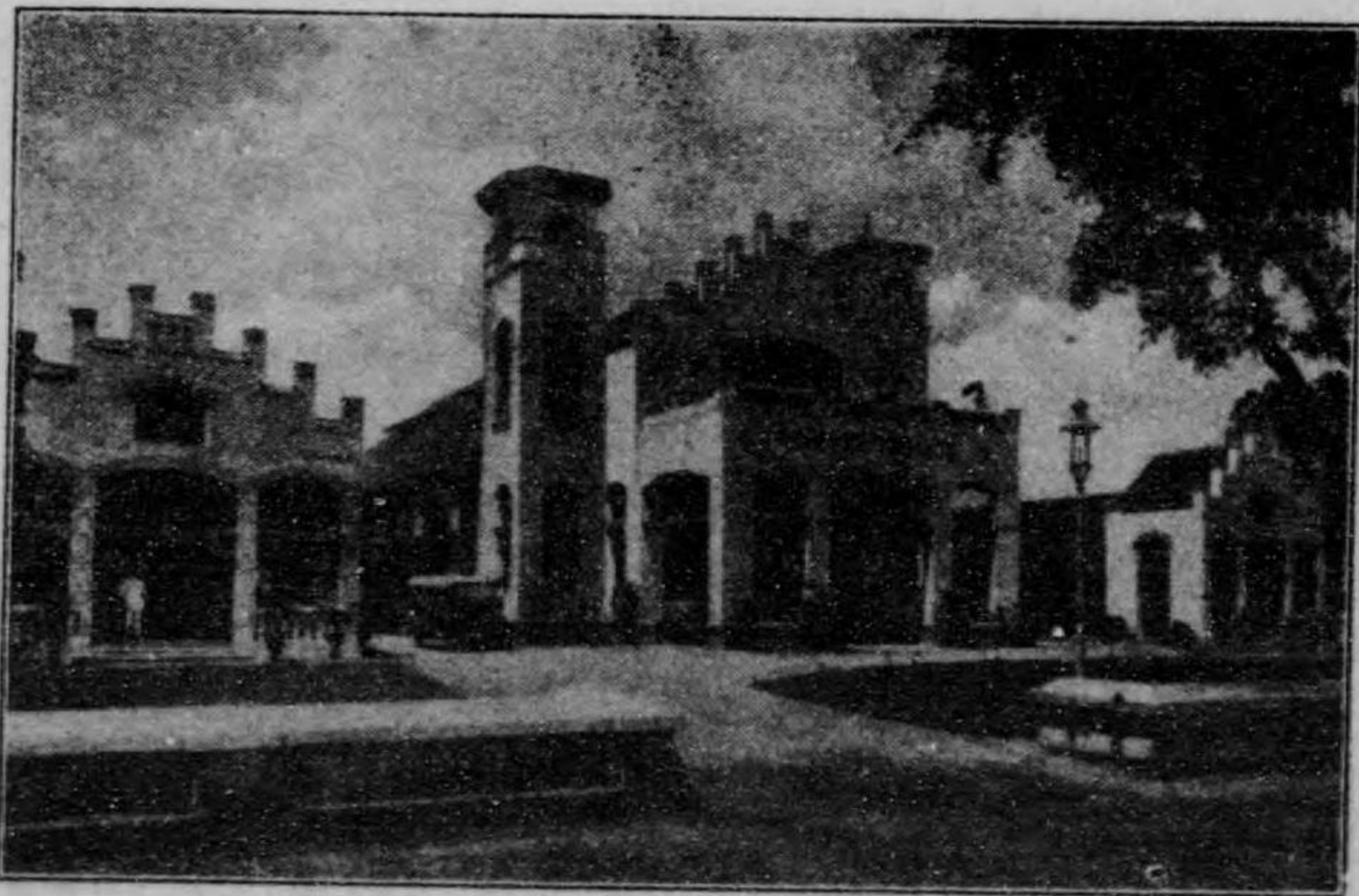
保線は全線五箇の保線事務所に分割せられ蘭人技師其長となり其下に補助官を置く更に二十三の保線區に分たれ一區は多くは五工夫長區より成り山線の困難なる丁場は殊に三工夫長區より成る線路工夫は一軒一人と定め線路の難易に由て變更せず馬來半島に於ては附近に村落なきを以て工夫は遠く印度セイロン島の者を使役するが故に殆んど全線を通じ平屋煉瓦造りの宿舎を建設するも本島に有りては全部ジャワ人を使役するを以て

タヒヤ、スラバヤ等の俗腸を洗滌するに足る實に本島の樂園乞ふ
 余案内の勞を取らんと親切に動かざるにあらざれ共前途を急ぐ儘
 白人に秩別し獨り東行す白人多くは二
 等車に乗る一等室は他に乘客なく獨り
 縦まゝに線路上の諸設備をノートに記
 するを得たり次第に進みてマオス驛に
 至れば此より一望廣漠たる田園となり
 灌漑水路縱横田園を走り人工の技を盡
 して土地を開拓す之より以東は實にシ
 ヲの富源と稱せらるマオス驛にて社
 線に乗換へプロアカルタ驛に至り官線
 の建築線を見る建築事務所は市街を去
 る約一哩竹兩代壁赤瓦葺の假建物で何
 處も同じ様な感じがした本建築線は北海
 岸チリボン驛より約三〇軒東に當るチ
 エリドフク驛より中央山脈を横断しセ
 ラヨウ河に沿ひ南海岸に至りクローヤ驛
 にてマタヒヤ、スラバヤの幹線に連続
 するものにして目下南方は接續驛より
 工を起し幾多の隧道橋梁工事を施工中
 なり本連絡線は延長百軒勾配非常に緩
 にして一九一六年秋完成の曉はマタヒ
 ヤ、スラバヤ間の直通列車は現今のバンドン通過線を廢してチエ
 リボンを経て新線を通過しシヨクジャを経てスラバヤに至り茲に



初て兩市間の連絡は十二吋内にて遂時行を得べく官民共多大の興
 味を以て此を迎ふ案内を得て橋梁工事を見しが橋脚共周圍玉
 石練積内部コンクリートに少しく表面
 モルタルを塗均らし更に石灰を用ひて
 白色に塗抹すヒアは鐵筋コンクリ
 ト井筒を用ひ洗下四五米突甚だ深から
 ずシヤワ及馬來半島にありても橋臺橋
 脚袖石垣は悉く白色に塗抹す其理由を
 聞けば單に美觀の爲めなりと成程高山
 幽谷綠林の間に白壁の形大なる橋梁の
 隱見出沒して見るは一種の美觀を呈す
 るに相違なきも不經濟たるを免れず滯
 留數時間更に同線に依り本線に出でマ
 オス驛にて列車待合せに一等待合に入
 つたボックスに物差を入れたる鐵道
 従事員らしき洋人二人机上に富麗の當
 り番號の記入せしらしきものを廣げて
 頻りに話し合つて居つた機を見て鐵道
 建設の事を話し果は地圖を出し何處迄
 工事施行中なるかを聞きしも先生英語
 極めて不充分にて相互要領を得ずや、
 高聲にて談話中通り掛りし巡査と憲兵
 室内に來り目を張り肩を怒らし蘭語にて何んが判らぬ事を云ひ
 何んだか時節柄舉動不善と見たらしく頗る形勢不穩となつた洋人

二人も呆氣に取られ他數人寄り集つた一寸來い位は言ひ兼ねまじ
 き有様である然し余は鐵道局長閣下より小生の巡視に對し然る可
 く便宜を交へよとの各局長各事務所宛
 の御墨附が有此方は最後に此れさへ出
 せば大丈夫と高を括つて居つたがもつ
 と長く狂言を見くやうと考へたが列車
 出發時間際に迫る轉ばね先きの杖と御
 墨附を出したら暫く熟讀して其意を解
 し兩方打解けて終には笑ひ合せ警官と
 握手を交はし二分前の鐘の音と共に東
 行の列車に乗つた急行なれば數驛を飛
 ばし見渡す限りの田園畑圃の間をシヨ
 クジャ附近に至りて田界益々廣くシヤ
 ワの富源たる豊力に練りなせる田園の
 海を見つゝ夕方シヨクジャに著し同縣
 人新見に迎られホトルトウゴウの一旅
 客となり某君は朝自動車にてホルボド
 ル行を約束して歸つた



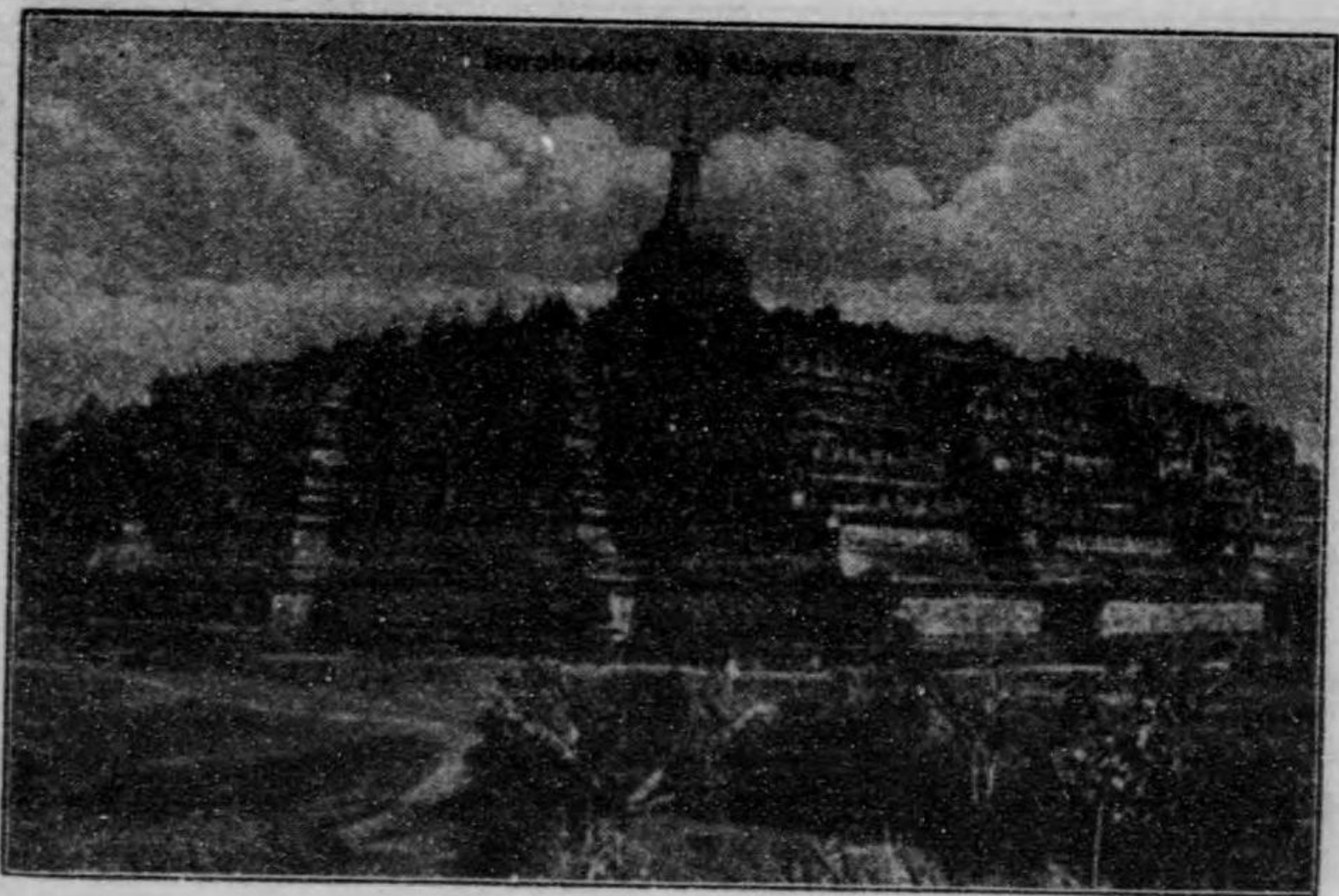
十四日朝定時が過ぎて自動車來ぬ
 汽車行くとすれば一問がない此列車
 を外せば今日見物が出來ぬ意を決して
 于時列車に乗つた三の線はN.W.會社
 の輕便線である一等は連結せぬ二等に西洋人 數人乗車余と差向
 の若夫婦は色こそ佳けれあまり性質の善良ならざるものだらう盛

んに四周橋はず巫戯て居る大に癡に障らざるを得はかつたが御影
 で時間も早く經過し下車驛一つ手前の驛に著た車長ホルボド行
 き馬車賃定價表を持參何れにするかを
 問ふ往復三盾半と定めた中々便宜であ
 る實際は案内は言語不通如何にすべき
 やと内心非常の憂慮であつたが成程世
 界の樂土と吹聴する丈け萬事に抜目な
 く商賈的であると感じた次のマンヤラ
 ン驛に下車した成程數臺有た佛蹟地は
 何の方面で何時間位を要するなど驛長
 を捕へて談判中車長はさつさつと列車
 と共に進行する勿論車長など居つても
 談話が通ぜぬが豫想に反して驛長先生
 少しも英語を解せず有耶無耶に別れて
 兎に角馬車に乗つた一轎意氣揚々とし
 て驅け出せしも次第に今通過せし市街
 の方向に進む地圖で見た佛蹟地の方向
 とは丸で違ふ約二十分も經過後盛んに
 ホルボドローと連呼したら先生漸く悟
 りし如く又引返して本街道に戻つた道
 路は完全である悉く割石にて敷詰めス
 チームローラーにて打固め兩側にある

瓜哇トゴートホテ

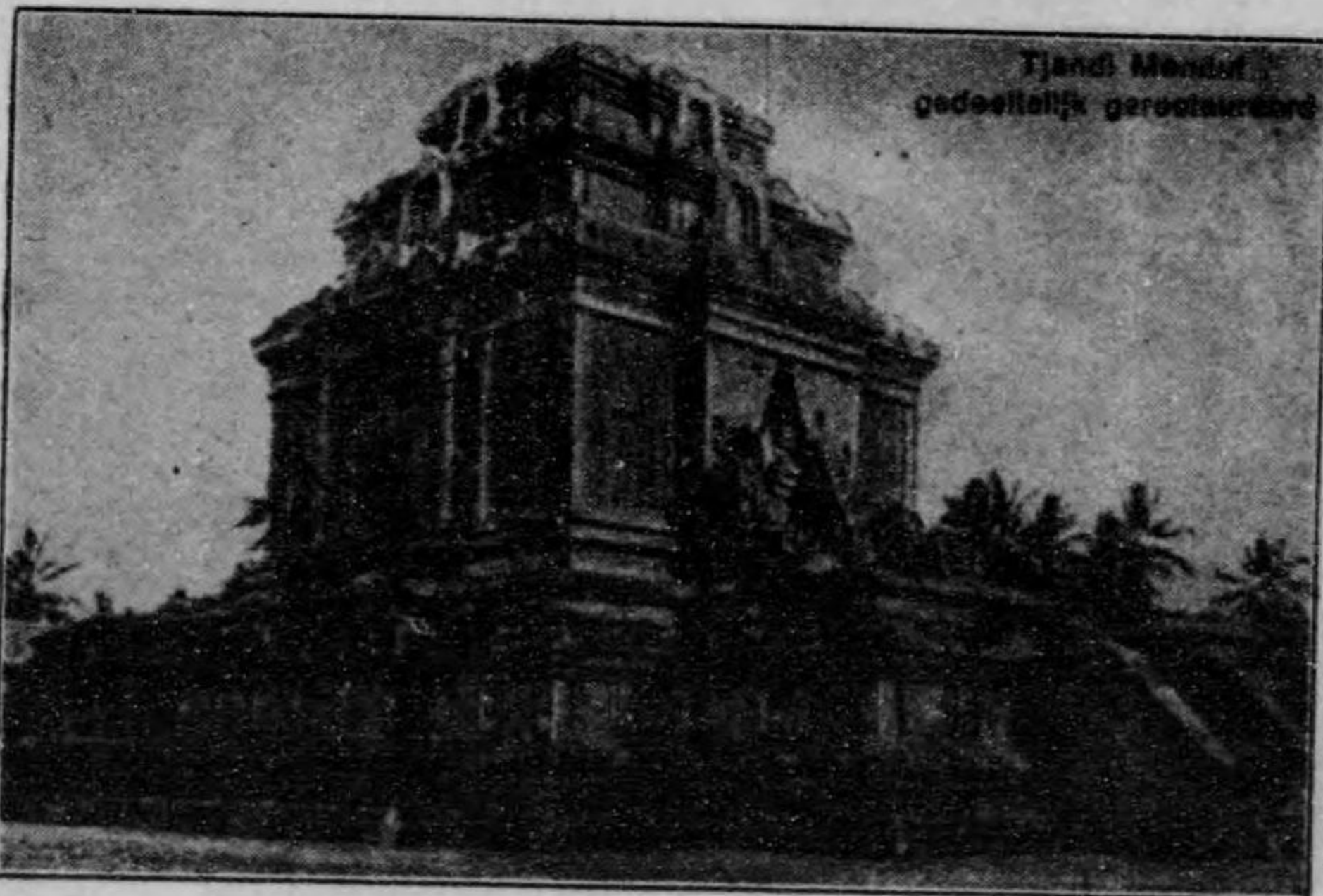
ながら恰も此れ内地春陽の候に馬の蹄音車輪の軋音ウトトとして我知らず華胥の境に入る突然後より朝倉君と呼ぶものありは呼ぶとはと後を見れば昨夜約束なせし新見君が自働車を走らせて来たのである馬丁に銀貨を取らせ共に談笑ホルホトローの佛蹟地にと進んだ

中部及東部ジャワには佛教の遺蹟頗る多し初め一七九七年蘭人技師ッロートジョクジャの中間なるクラワテンの附近に城塞を築くに當り初めて佛蹟建造物を發見せしが當時は空しく土中に埋没せられ荆棘其上に繁茂し幾多の苦心を経て辛じて一部の測量を了せり次で一八一二年英領となるに及マツケン



を計り今日の状態に至り佛蹟最初の發見地タラツタル中部有名なる標高二八六六米突のメラロビ活火山の東部にあり今余の立るホルドローは同山の西にあり其他東部に於てはスラバヤの南門高さ二八七四米突のカウ連山の麓に沿つて許多の印度寺院の遺蹟を存す其數六百有餘に及ぶ最も高きは一萬尺以上の高地に建てられたるものあり此等建築物は盡く千年以前の創設に係るされば當時既に中部及東部地方に於ては印度人が一大王國を建立し居つてジャワヤ明の中心で有事が知れる地勢上より論じ土質上より判するに此等の土地は地平かに地球豐沃土地開拓の要件は充分に具備してある今日に至るもジャワ島農工商の繁盛地は則中部東部に限らるる西部パタビヤの如きは政治の中心地たるに過ぎずして往昔印度人の本島に入りしもの中古アラビヤ人の移入せしもの近代支那人の本島に侵入せしもの悉く中部スマラン・スラバヤ附近より英雄偉人の視點常に一致せるを知るに足らん斯く文明及宗教思想が發達せし人種も十六世紀に至り四教徒の餌とニウランとの爲に征服せられ宏壯を極めし佛蹟も一部は破壊

せられ一部は土砂に埋没せられジャワ人は悉くモハメット宗に改宗せしめられ今日の瓜哇人は悉くモハメット宗を奉ずる様になつた



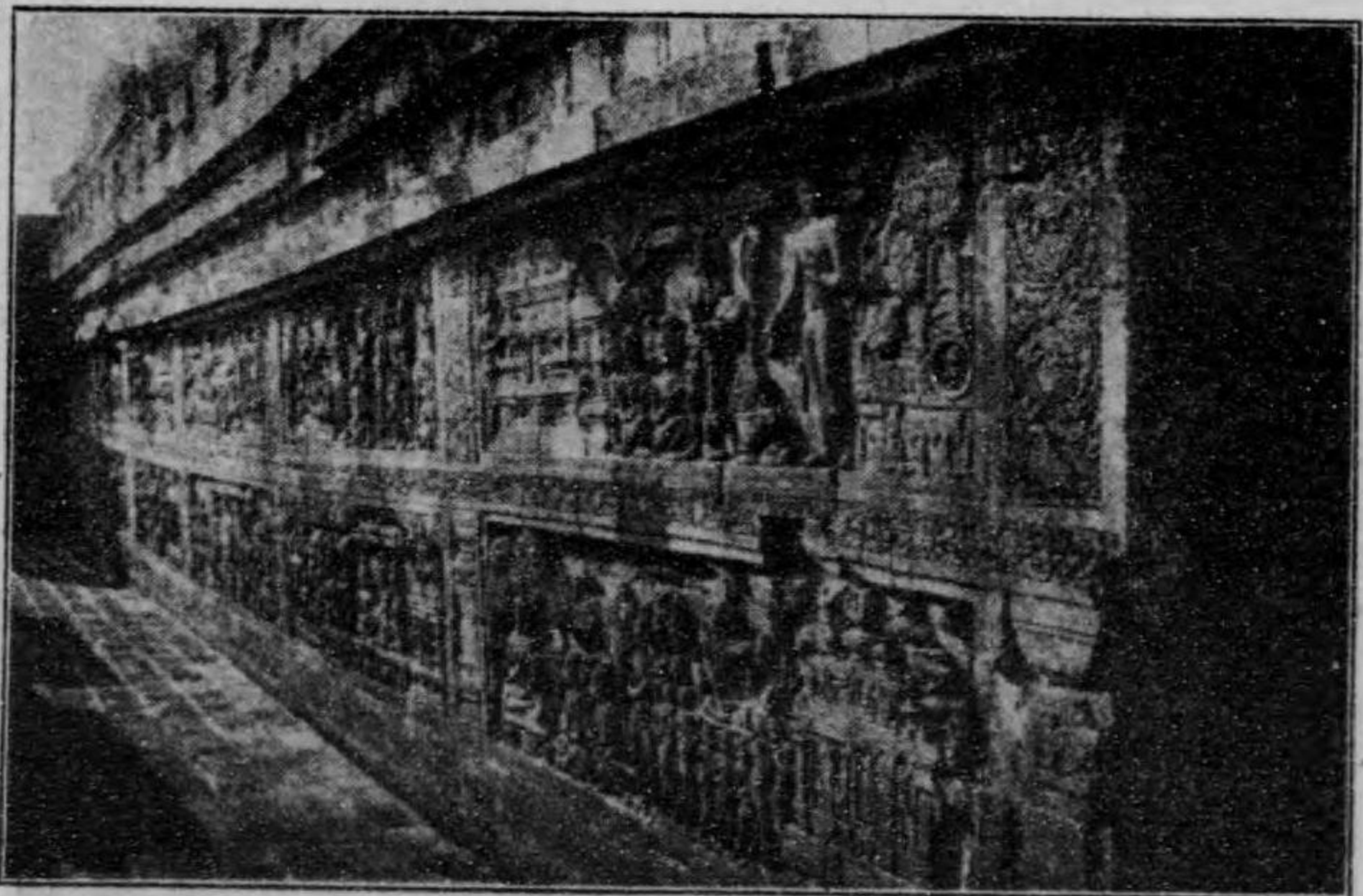
今余輩が立つて無量の感慨に打たれて居るホルボトルの佛蹟もモハメット教徒の爲め破壊埋没の厄に會つたものでラツフル總督が佛蹟探検に吏員を派出した時は尖塔の頭のみかすかに地表より出、居りしと云ふ否余輩は言はんとす埋没に厄ふたと言ふよりは寧ろ土砂を以て千萬重なる天下の寶塔を被覆し千有餘年間雨露の害より保護せりと石質已に柔軟なる火山溶岩よりなる十世紀の長きに互る雨露の作用あらば豈今日見る如き精巧無瑕の彫刻を残すを得可けんやボンベイの市街はメスピスの火山に由てホルボトルの佛蹟はホメット教の横暴に由て千古の範を後世に残すと

を飾る西人呼で極樂谷と稱す世界最大の佛蹟その間に介在す雄大な氣宇美術の精華行人徑循坐るに印度佛教の盛時を偲ばしむ塔は大體方形にして一見三百七十四尺四邊に三十六箇の方形突角を出し七層より成る中央に尖塔あり全部石材を以て疊み石の大きは非較的小にして高七八寸幅一尺内外奥一尺二三寸より一尺五六寸なるもの多し各材石塊を以て連結し石灰セメント等の膠著物を用ひず各層毎に歩道あり歩道兩側悉く佛陀を彫刻し各層四邊の中央入口を通じて上層に昇ることを得可く入口の構造巧妙を極む四周の壁には高七八尺の安坐せる佛像を安置し四隅及入口の兩側等其必要なる箇所には奇形なる動物を刻み其にを排水路となす結構實に雄大を極む然れども經年の結果壁傾き或は異教徒の態と壁上佛像の體軀を傷けしもの跡なからず誠に惜かな石壁佛陀の調刻は一旦石壁完成の後に施工せしもの、如く前記の如き小石材を用ひしにかゝはらず彫刻の續手は厘毫も差異を生ぜず此等の彫刻は石壁を一段或は二段幅長三四尺の小區劃に分割し各小區劃には巧妙なる技術を以て悉く異種多様の彫刻を施し第一階

は佛教歴史第二階は釋迦一代記の三階は佛弟子に關する等誕生四期行樂河海舟行飢饉戰爭冠婚葬祭一としてあらざるなく全數二千五百四十面盡く種類を異にし實に涅槃の一生を現したる聖佛の一代記此れを縦列する時は延長三哩以上に達すと云ふ是れホルホル則ち佛體の稱ある所以にして考古學上至貴の研究資料にして學者の數十年研究するも尙定らずとなす二三面は欲しいなと垂涎萬丈而して此附近の土地には往々土中より小佛體を掘り出す事有り多くは高漸く二三寸蕪く佛教徒の土中に埋没して此れか保護を計りしもの原より現時の精巧に及ばざるも古色拙す可し然れども發見極めて稀にして容易に手に容るゝを得ず余幸ひ在瓜高橋君の厚意に由りて二三佛像を得たり時々室内に安置して旅情を慰藉せしこと少なからず

一巡の後堂守のホテルに立寄りカフアエー一椀湯を嘗し現時戰爭の爲め不景氣極りなしとの泣言を聞き自働車の響と共に此聖地を辭す

歸路マンゾー寺に石像の巨佛を一瞥し驟雨に會ひ一時木影に雨宿りし晴るゝを待ちて自働車を走らし午後二時歸宿ホテルにて食事



十二月三十日北都丸にて赤道通過の朝書す

第二十六信

十月十日午後三時頃より驟雨も暗れて心神爽快を覺ゆ午前の疲勞も忘れ勤めに委せてシタクシヤ王城の見物に出掛けた瓜哇に二つの自治州があるシヨクシヤは其の一にして他リソロウにある王は是れをサルタンと稱し和蘭政府より年額四十萬盾を貰つて眷族舊臣を養ふて居る何んでも現サルタンは先代の血族の者であるが先代は頑強蘭政府の反感を買ひ目下某島に配所の月を見て居る現王も子息あるが常に原因不明にて天死し今は繼續者が居らぬ現王百年の後は蘭政府の方針が異なるであらう然し現王とても操機人形原動力は他、ありサルタンの有無などは勿論中にならぬ外人が面會するにも蘭政府の許可を要し面會の際は蘭人常に此れに従ひ王城は常に蘭兵士常に此を衛る體裁の好い閉門である

余輩の今見んとするは現王の王城でなく今より三百年前群雄割據シヨクシヤ王全盛の際の城塞兼行樂の遊園にしてホルトガル人の

設計(?)に係り此を水城と稱す今こそ荒廢見る影も無が當時の榮華の夢を追想せしむるに足る水城は高さ十尺幅十二尺悉く煉瓦石材石灰にて固められたる城壁にて圍繞し其周圍約四哩内部には一萬五千人居住し得ると城壁の外周には用水を繞らし各所に水門を設く案内に導かれて城内に入れば樓門の側に九尺角程の柱朽たる門衛あり警固の武士の影になく徑八寸長四尺程の中央一部を切抜きたる竹を釣下げてあるのみ今は城内貧民の晝休みの時を知らざる位のものならん二三丁奥に次の門あり矢張煉瓦石材石灰にて成り夫より迂餘曲折次第に進むに従ひ地盤は大第に低くなり一の池に達す泥土池底を埋め雜草空しく生ひ繁り傍らに茅屋一棟軒下襪襪を乾かす誰れか知らん往時後宮三千の水浴場ならんとは只池邊老樹の知るのみ少しく進めば地益々低く内宮となる王座は石窟の如く兩側に石風呂の如き箱あり天井厚さ三尺に及ぶ此等は總て煉瓦石材にて組立てられ塗るに白壁を以てす前面に花蓮池厨房等遺跡具さに備はる炎天金を掃かすの際サルタン此處に臨めば王座兩側の石州は關門一捻忽ち清水を滿たし冷を容



ある此より天主閣とも言ふ可き高臺に上つた徒らに菖蒲の繁茂に委せらる王城シヨクシヤ市は勿論郊外數哩一望の内にあり水城の附近には今尙ほ用水路の大なるものあり往昔は國家の大事に當つて關門を開き水城を水にし城塞防禦の用に供し酒池肉林の樂土は忽ち修羅の巷と變ず可し水城の稱ある所謂か水城全體を撤下すれ

あるのみ其よりマモット教の禮拜堂に至る圓形の階道の通路にして處々に小室有り壁に銃丸様な孔あり地低く日光充分ならず濕苔面滑かにして陰氣人を襲ふ天井側壁は厚さ三尺以上に及び怡も要塞に於けるヘトレ製の掩壁の如く飛道具は勿論現今の小口徑砲などにては像所詮も破壊の出来さうもない様に堅牢に出来て居る此邊より當時は王の居城に隣道にて通過が出来たさうで

ば雑草半ば城塞を没し一部耕作されて糊口の資に供せられ見ゆる限りの建築一として舊態を存するものなく往時の豪華夢の如く消え異郷萬里の客をして低徊去るに忍びざらしむ

水城に接して現サルタンの居城あり附近一帯は土族の住宅門扉共に嚴然武士は食はねど高楊子金色の一刀を腰にし涼傘を從者に持たせて意氣揚々たり構内を覗けば壁傾き塵破れ老母妻君は此地の名産瓜哇晒布の蠟引に忙がし今でも目が覺めぬと見ゆる刀を勤に更へてマヒオカでも培養した方せめて王様にも忠義だらう

ホテルの洋食にも随分飽た南洋商會シヨクシヤ支店の店員盡く山形縣人殊に兩三名は余輩と都里を同ふす米飯を食ひ味噌汁を啜り山形縣にて自由に快談しようぢやないかとホテルを引揚げ同會の客となつた縱談放論夜の更くるを覺えず三更に及んで臥床に入る

十三日午前は停車場に行き構内を一巡し午後市場に行き瓜哇晒布を購入した市場は土語パツサルと云ひ朝は七時より晝は午後二時頃迄開店する仲々大規模にて幅三間高さ二間長十四間位の木造チヤン瓦建の小舎約數十棟一廓をなして建築せられ野果物米穀魚類雜貨晒布衣類大工道具鋸治道具等日用必需品は何から何迄陳列せられ殊に其附近は飲食物などで大に繁盛を極む此れはシヨクシヤ支店でなく何れの都市田舎街に行つても吃度ある此等日用品は市中で購買するより多くは市場でやる野菜魚類などは行商せねば蕪く市場に行く土人は朝二三時頃より米穀其他を荷ひ提燈點火して陸續として出かけ店舗を張り朝六七時には客を呼び盛んに商買をなす其他買入物品交換仲々盛んである朝一番汽車午後夕前の列

車などは商人買客で大繁盛を極むシヨクシヤのパツサル丈け三千軒あるさうである

第二十七信

シヨクシヤ驛は官線鐵道の終端驛で此よりスマラン間は蘭領東印度會社の私線となり又官線はシヨクシヤ、スマランの中間驛シヨクシヤより分岐してアラバヤに至る官線は狹軌の三呎六吋にして私線シヨクシヤ、スマラン間は廣軌四呎八吋である如何にして連絡を取るかは頗る疑問であつたシヨクシヤ驛在申十二月十五日朝九時驛一見と出掛けた驛長は蘭人で少し英語を解する計り面白い男で朝からウキスキの香が高い漸く來意を解し自身で構内の機關庫などを案内し最後に分岐點に同伴した構内は本屋を中央に置き其右側を官線則狹軌鐵道の各列車の發着線となし左側を私線用に供しクロツシヤの他廣狹兩用ボイントを使用せず故に機關庫なり倉庫なり全然二様に造らる最も貨車積換用島居建を置き適宜積換をなす而して廣軌間に於ける狹軌の列車は廣軌の中間に更に一條の軌條を布設し分岐點には不動ボイントを設けクロツシヤにて廣軌の一條を横切りて運轉す實に極めて簡單明瞭である熱帯の正午近き時刻の實地の見分とて兩人共流汗淋漓二日酔の驛長には氣の毒であつたアイスクリームにて喉を濕し暫時雜談に耽り全線列車運轉時刻表を借り受けたアラバヤから送らうと言ふたら何日本に歸つてから何時でも差支ないと蘭人には珍らしい先生である歸路NIS線の案内所に入つたが言語不通の案内人空しく戸側に午睡を食ふのみ名刺を渡し後三時に来るからと書き附近通行の馬車に乗て歸宿した夫よりライステールにて空腹を満たし再び三

時に行つた同じく留守後本社支配人に面會の時話したら實に彼等は不真面目で困ると

夕方から市街の大通りは常に雜踏困難極まりない内地の綠日式の人出だ臺北門踏切の様に通行人の多いでもない用務の人々あらうが多くは夕食前の散歩である瘠我慢の瓜哇貧乏士族、待遇政權不滿の敵を金銭で打たうとする支那人康榮に憧れる殖民地の碧奴、之等は總てステッキ片手に徒歩散策などは一人もなく全く自動車馬車一行列である特にシヨクシヤの如き一本道の處は車馬首尾相接し爆發の響馬蹄の音實に一刻も休むの暇がない斯く記載すれば歐米大都の繁榮の様に聞ゆるが馬車は多く小馬の二頭立てで不潔甚しく御者は必氏を氣取り絶えず鞭を振つて其響置しく光景一も寛平たる趣きがない

一月三日於北都丸

第二十八信

十二月十六日朝六時シヨクシヤを發してスマランに向ふ途中ソロウの下車す西田君の迎を受けソロウシヨクシヤと同じく自治州の一にしてサロンの居住する所停車場を出で例の通り綠樹の竝木を出で市街に入り王城前の廣場に至る中央には老榕三株鬱乎として又根長く垂れ四民王室擁護の義務を偶語し夫より門内に入れば土蘭兩兵王宮を守護否看守し傍らには數臺の馬車及自動車あり土人は小刀を帶し從者數名之に隨伴して後より長柄の傘を差掛け悠々として城内に來れるなど我封建時代の武士の登城を偲ばしむ帯刀は之と官吏と軍人とに限り許可せられたるもの、如く同々教の侵入以來四民平等に帯刀するに至りたるも今はシヨクシヤ、ソロ

一の二市に於て一部の土人に之を見るのみ去て右側同々教の寺院を見る繞らすに幅數尺の濼を以てし方形尖頭の屋根を有する大伽藍にして床は一面に大理石又は人造石を敷詰られ四邊柱のみにて障壁を用ひずして通風に便にす床上更に數座を設け僧侶貴人の讀經禮拜用とし正面の一端に小なる御堂あり本尊を安置するものならん本堂は柱天井彩色を用ひ莊麗美觀を呈す祭日禮拜には優に三千人を容るゝに足ると云ふ食後土人華族の家を見る物見臺附きの樓門にして下部兩翼に二室あり左側は武士右は足輕等の溜場其れを過ぎて兩側に厩舎に馬車置場あり十數間隔て樓門の正面に方形十數間の大廣間あり家臣外客の接見所とす四周明け放し天井柱は彩色を施す行列用の傘鎗正面の兩側に排列せらる黄色の傘に輪か附加せるものあり此は王女用にして主人の妻君はソロウの娘なりと然し柱傾き屋根破れ掃除の行届かざるは徒らに王朝の夢を語るのみ近來戰爭後蘭政府壓迫日に益々念なりと主人は時勢に機通せるの士と聞く偶々外出して見るを得ず午後三時半此地を發してスマランに向ふ

シヨクシヤソロウ間は瓜哇有數の砂糖産地である製糖所は多く鐵道線に沿ふ海岸に至るプロシット支線附近のものを含すれば三十三箇所の多きに及ぶ機械能力は臺灣の様な大製糖のものでなく製糖期は臺灣と反對で約四月頃より初めて七月頃に終る苗は雨期を當込みて九月頃より補初める今は雨期である故に發育實に旺盛な時期で如何にも見渡限り一面青々と繁つて實に見るからに心持が好い白く塗られたる製糖所は同色の高き煙突が甘蔗畑に存在するは恰も綠海の上に巨艦の浮ぶが如き有様である

砂糖に次で此附近は煙草の名産地である葉煙草乾燥所は畑の中に建てられてあるが幅が五六尺高さが七十尺軒高は十二尺位屋根勾配は非常に急にして七分が八分長二百尺屋根には處々に光取り兼風孔を穿ちアタツプ葉作りの一見藁葺と見え馬鹿に宏大な建物で暴風吹けば一泊りもなく蕪海などにはとても想像の附ぬ建物である葉は多くは原料にて歐洲に送る爪哇に暴風雨のなきは外國無敵の武器で瓜哇の今日有るも全く其賜である

第二十九信

十六日午後三時ッロー發廣軌最大急行で飛ぶが如くスマランに著か堤林君停車場に迎へらる同君と別れてより殆んど十星霜互に久瀆の辭を交し恰も我家に歸りし如く馬車を同じうして同君の宅に走つた例の通り水浴を済ましホテルに行き同氏及南洋郵船會社の石井君と卓を同じしてデンナーを共にし食後馬車にて市内をドライブした

十七日午前九時半瓜哇第一の私設鐵道なる蘭領印度鐵道會社を訪問した應接間に待つ事少時支配人室に案内された五十以上の年配らしく頗る親切なる紳士にして早速先方より浮田領事より書面に接した君の來るを待つて居つた夫を端緒に種々有益なる談話を聞き終りに是非線路を見て行けマゲラン通過の山線にはアプト式ラック鐵道ありジョクジャスマラン間には廣狹兩用線ありアランバナン驛の附近で昨年の洪水で三十三尺ガーターは橋脚と共に流失墜落して今徑間八十米突の橋梁ニスパン架設中であるチエリホン線は他社の線であるが手紙をやるから又當地とスマラン間は一巡の價値あり社よりは英語の出来る青年技師を隨行させるからと何

んだが氣持の悪い程親切であつた年報と地圖を買ひ態々呼び寄せた青年技師に伴はれ本社の建物を見た實に立派なもので二階建てなれども天井非常に高く三階は倉庫スマラン第一の高塔を有し床は盡く大理石その他窓腰張等之に倣ふて實に美を盡したものである然し此れでも一棟内に各課を包容出来ず工務課は三四丁離れた木造の建物であつた茲にて技師スウィーヘル君の室で何彼と談し合ひ十八十九日及二十一日の旅行日程を作り午後二時歸宿した午後は日記其の他の整理に費した

第三十信

十八日午前七時四十五分スマラン驛を發してNIS(蘭領印度鐵道會社)社線の視察の途に就く此行會社殊に技師スウィーヘル氏を派して案内者たらしむ中部沃野一帯の重要な輸出入港で人口九萬七千餘歐人五千二百日本人一〇〇人の一大市街である蘭領印度に於ける最初の鐵道は實にスマランを起點とし南方ソロンに至る約二十五軒の線路で今より五十年前一八六七年に開通して瓜哇開發の一大先鞭を附しNIS輕便鐵道會社(Sマラン、ヨアナ)線S、C、S(Sマラン、チエリホン)輕便鐵道會社の兩線スマランを起點とし前者はスマラン東部の平野に網を張り後者は海岸に沿ふて中部の要港チエリホンを連絡す實に四通八達の要港であるNIS會社のスマラン、ジョクジャ間の線は和蘭本國の側に倣ひ歐洲スタンダード軌間を採用せしが其の他の線は瓜哇の状況に鑑み三呎六吋の狹軌に變更したスマランを出て右に富士型の高山を望みつゝ平野の間を走りジャツテ驛附近に至れば線路の兩側盡くチーク林なり土語チークラジャツチと稱す譯すればチーク驛なりジャツチ驛

より西に分岐し山線に入る勾配次第に急にして最急四十一分最少半徑一五〇米を用ひキルレム一世驛に達す此處迄は廣軌線である之より三呎六吋の狹軌にして輕便蒸汽鐵道となる此處にてマツク軌道用の機關車に著換へ進むに従ひ山勢次第に急に最急十六分の一の勾配最少半徑一五〇米となりラック式を採用すラック軌條取附け初めのは普通箇所と其構造を異にし一端に強大なるスプリングを具備し機關車の高さに適合するに便ならしめ軌條のラックは初めは丸鐵棒にて自由に回轉して機關車の齒車の食ひ込みに便ならしめ其の後のラックは角鐵にて兩チヤンネル間に固定せらるラック軌條は高約一尺のチヤンネルを約九呎隔つゝ向合せとなし中間にラック用の鐵材を入れて連結す此の區間はジャヤンボ、マゲラン兩驛間約七軒間にして平均速度は一時間約八乃至九軒所要時間は五十三分間とすラック軌道の中間より一溪流に沿ふて下り十二時半マゲラン驛に達す此區間小橋梁あるのみにて工事上殊に記載す可き程のものなし斯かる急峻の山線にて一の隧道なきは研究を要す可き點ならずや多額の建築費を要す可きも隧道を穿ち急勾配を避けなば或は終局の利にあらざるがマゲラン市街は山間の一市街にして土地高燥健康地と稱せられ兵營あり鐵道線路は懸々道路の一例を通じて市街を貫通し商家の軒前と軌條の外側との距離僅八尺に滿たざる所有り而して列車は普通停車場の外何等停車場の設備なき市内(今一月四日で有る天氣快晴であるが風激し大ウネリに圓の動搖甚し其處此處でガチャ／＼の音高し此處まで書てラングが消た一寸休息) 概要の所に列車を停めて旅客を取扱ふ此點は瓜哇輕便蒸汽鐵道の特徴である一例として此マゲ

ラン街の滯留所を記せん列車は市街の一端普通停車場に著し一般旅客貨物を扱ひ發車後八分過ぎて當地等ホテル前それより更に六分過ぎて市場前に停留して旅客を扱ふ而して此處は通過する一條の線路のみにして番人も閑ひも休憩所もなく旅客は勝手に乗りて車内で車長より切符を購入すれば善いつまり何百哩もある大都市を連絡する鐵道であるが地方の市街に入りて街衢となり市街の交通機關となる此の例は瓜哇至、所悉く然である尙箇所記載しようと思ふ輕便蒸汽鐵道の機關車は速力も早くないから多くはチークの切端を燃料として用ふ煤煙少くないが火の子が多い余は二度程衣類を焼た此組織は至極便利の方法である理窟多き臺灣などでは實行難かしいだらう

停留場前のホテルで晝物を取り更し少し先の驛より分岐せる山線に行き此地に一泊する積りなりしが十二時頃より篠衝く豪雨となり中々止みさうもない山線行きを止む其儘一宿することとした

マゲラン市街は人口約二萬八千中部ジャツに於ける樞要の兵營地で千三百尺以上の高地に在るを以て空氣清涼自働車の午睡を亂す響もなく遠音に聞ゆる小馬の蹄音は反つて微睡の媒介となりホテルは各室満員なれども甚靜肅一週間も滞在して見たいと思つた市街道路の兩側には相變らずカナリヤの竝木が觀音として影道を没して居るジャツにては各地至る所竝木を利用し兩側より鐵線を渡し碍子を取付け電線結び付け電柱に代用して居る其の他市街の入口商店の少なき所などには兩側の竝木に鐵線を張り瓦斯燈を掛けて居るなどは實に興味ある光景である

兵營にはセレベス島三十と附近ヤボス人種の兵士が多い南洋商會

支店訪問中妻君同伴の兵士が雑貨を買ふて居るを見たが容貌著しく日本人に似日本物を著けたら一寸區別が付ぬ彼等自身も祖先は日本人なりと信じ日本人を非常に敬慕し本邦雑貨の上得意である「メナト」の語より變化し婦女子の名には今日本名に似たるものがある一般にキリスト教信者で風俗習慣著しく日本人に類似して居る近年迄日本人の建た碑があつたさうである閩人之を破壊せしとの事情しい事をした

第三十信ノ二

十九日曉起ベランダに出て椅子に依りコーヒーを啜る雲なく遠山盡く樓閣の裡にあり氣候晴涼どっしり熱帯地に居るとは思へぬスカーアエル君と共に朝食を済し六時半此地を發してシヨクシヤに向ふ列車はマンチラン街著ホルホル佛蹟見物客此處にて下車線路は同街の大通を過ぎ四分間の後支那人街に停留す商家の軒先が手で掴み得る位に接近して居るシヨクシヤ驛にて廣軌に乗換へアラバ驛に下車トロリにてオハック河架橋工事を見る該橋は初め徑間十一米プレートガーター五連より成りしが一〇一四年一月の洪水に橋脚二ガーター三流失し三日過ぎて徒歩連絡をなし五十日の後假橋にて列車を運轉せしめ更に河下に假橋を設け線路を此處に移轉し流失箇所には八十五米突の鐵橋二連架設中である舊橋脚は河底より深き三乃至四米突であつた臺灣より比較すれば非常に淺過ぎる様に見ゆるが大概は斯んなもので有る目下建築中の橋脚は長方形のウキルテ幅は四米突鐵筋コンクリート製にして表面には九時より呪位の玉石練張して居る沈下方法はホイラーを据付けセントリフイーガールサンドポンプを用ひ井筒内の水を乾かし素掘

で掘り下げ地盤以下六米乃至七米沈下せしめ内部底部は三石を入れ上部はコンクリートを填充す川幅に比して橋脚の幅の廣き觀あるはコンクリートの面に玉石を張るに因る且コンクリートも大小バラスト混合吾人の自から見れば亂雜の様に見ゆる煉瓦を用ひざるは其實非常に粗惡なるに因る一箇の鐵桁は已に組立終りホイラーを据附けニーマチックセシムにてリパツチンク施工中で一日一組で百五十箇仕上げ困難の箇所は手打にてやり五六十箇仕上げ職工は悉くシヤロ土人で監督は歐洲人である雨期十二月中に完成せしむる由で大急行でやつ居る洪水の被害復舊は何地も同法と見ゆる臺灣に於ける雨量の一日に八〇〇乃至千ミリに達する事大安溪や八掌溪等の鐵桁流失復舊方法を話したら驚き且感心して居つた復舊工事として井筒沈下六乃至七米突を採用するに見れば洪水の性質被害の程度は臺灣に及ばざる事違しである此所を辭し再び列車に乗つた

第三十一信

十二月二十日今日は日曜であるからスマラン市の見物と出かけたスマランは東部瓜哇の一大要港であり南洋に於ける支那人の策源地であるシヤロ第一の富豪で數千萬圓の巨資を有し和蘭少佐の名譽官を頂ける建源も此地に本店を構へて横濱倫敦は勿論瓜哇各港に支店を出して居る臺灣民籍の富豪郭春秋顏江等も矢張本店を此地に置く今余の宿れる所は阿耶街と云ふて道路の幅員は五六間長

さも三四丁に過ぎないが軒竝大間屋の支那人富豪連殆んどシヤロ全島否蘭領印度全部の商權は此邊で握つて居ると云ふ別に項を設けて書くが瓜哇全帯を一軒と見做せば支那太郎が主人公で蘭助團八を僱入れて金庫の番人外部の交際係となし御得意様は質樸な馬來土人様である外商や日本商などは先づ借屋の玩具屋見たいなものである然し斯の主人公となる迄には中々の苦勞を重ねたもの丁稚で一代目番頭で二代目暖簾別け一軒の主人となる迄には三代四代をかゝつて一朝一夕で出来上がったものでない或時田舎の支那蕎麥屋に這入つた仲々大きくやつて居る筆談で何時茲に来り三十年以前に來た何度歸國、た一度もしい竹が一度歸つて控貫ふて來たと總てが此の堅忍不拔式である坐るに支那人の商業振が偲はる、堤林君の勤めにスマラン市の支那人開祖三保大人の祠廟を見に行つた廟は市外約二哩の所にある山裾で一方道路に接し夫人の墓は三坪位夫より二十間程離して山脚の岩を掘鑿して墓となし其前に四坪位の何等裝飾を施さざる廟が立つてある支那人の番人一人居り香花常に絶えない大人に關する書物



瓜哇土人藝者

でもあるかと聞たが何にもない少しは建源の所にあるだらうとの話であつた番人の語る所に依れば四百年前兄弟三人支那本國を發し王三保はスマランに馬三保はサイアムに弟三保はマカッサに上陸し初て市街の出來たのは今の間屋町阿耶街である地の利、時の宜しきを得て今日スマラン市否南洋に於ける支那人發展の備を形成したのである一九一五年迄は死後三百八十九年になると云ふ時勢に超然たる何人の墳墓、對し感慨無量巡去るに忍びざらしむ歸路建源墓地の宏大なるとハイカラ的なるにあきれ馬車を急がして市内に入る入口に灌溉用水のダムあり川尻に設けたるものにして平素はスマラン市及二三の用水路に導水し洪水期には閘門を開き餘水を海に放流してスマラン市の汎濫を防ぐ大阪市淀川に於けると同一設計であるスマラン博覽會の殘留建物を見日本館及臺灣喫茶店に立寄り午後二時歸つた午後日誌旅裝を整へ夕食は牛肉の燻焼で胃を驚かし七時半より市内の夜景を見に出た熱帯地に於ける夕方は相不變馬車と自動車で大雜踏であるアロン、則廣場は各種飲食物の屋臺で一パイである年頃のジ

ヤラの土人女が芭蕉の葉に盛つた米飯に二三種の煮着を入れ蕃椒のキツイ汁をかけ先祖傳來の二本指で交ぜ合せ其儘口の中に入れて居る土人男の一群は鶏の串焼に何かの汁に蕃椒を交たものを付けては焙りつけては焙りしたるものを甘味さうに食べつゝ品定の會議を開きつゝある千種萬様四五丁四方の廣場が全部之である向側には活動寫眞が樂隊入れて盛んに舞立てゝ居る其入場料は馬鹿に高くホツクス一盾半上等一盾半土間五盾毎晩満員である呼物となると前以て切符購入の要あると言ふまゝ土人の縁日と思へば大體繁盛の觀念が得らるゝ然し此れは毎日の景況である少し進みて歐洲ホテル有り其前面廣場は道路に面して居るが處狭きまで机と椅子を並べ有象無象が片性兩性雜然として排列し一盃のウキスキー一本のビールに三十分も一時間も通行を眺めて阿房面下げて居る試みに阿房に仲間入りウキスキーをストローア吸呑みしつゝ醒醒として労働の路上の人を見れば此又反て阿房らしく見ゆる見る方面で違ふものぢや歸路宿に近き支那人宅前面にて盛んに婚禮の實を張つて居る餘興



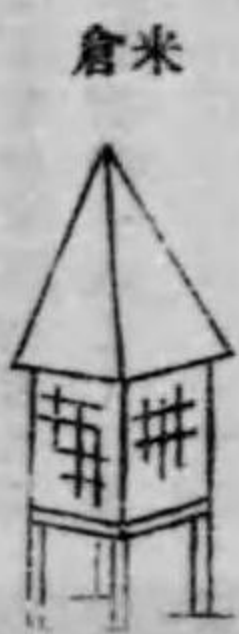
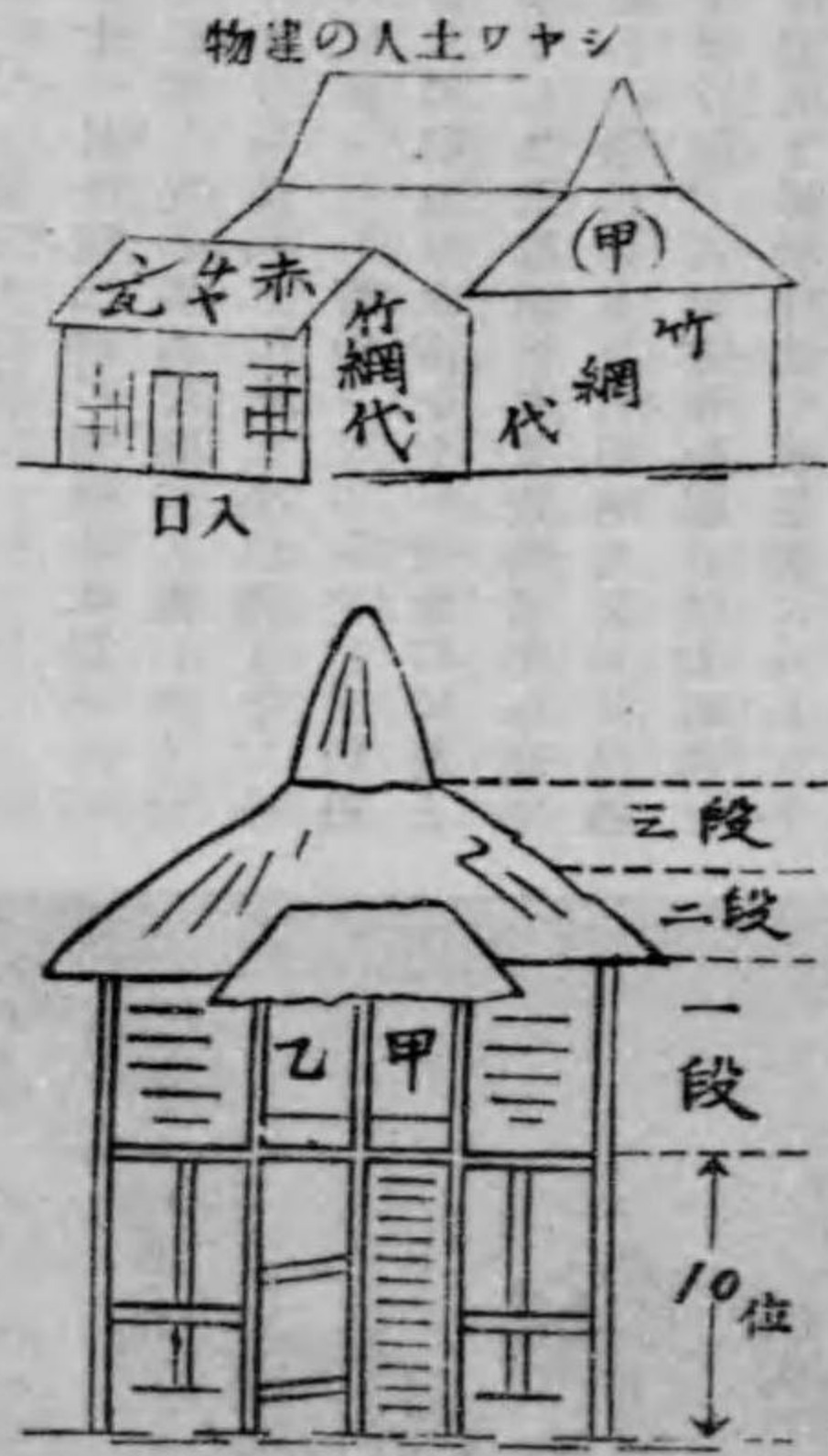
に馬來藝者の手踊あり悲哀な調子を歌ひ單に手足を動かすのみでダンス舞踏の様は激しく身體を動かさぬ反つて側座の音楽が振つて居る其數十組吹く者叩く者あり餘音囂々何んとなく亡國的である十二時頃歸宅す

第三十二信

於香港北島方
二十一日午前七時半スウキノフェル氏と共にスマランを發してケンデーにて廣軌に乗換ヘスラバヤに向ふ氏は年少の技術家にて三年前和蘭本國の工科大学を卒業し直ちに瓜哇に來る年配二十六七英語に熟達なり和蘭にて大學に入る順序は小學六箇年中學五箇年夫より直ちに大學に入る修業年限五箇年計十六箇年本邦では高等小學を卒業するに六箇年中學五箇年高等學校三箇年大學三箇年計十九年を要す和蘭にありても學校卒業者の供給常に需要より多く殖民地行の希望者少なからずと何處でも高等遊民あると見ゆるN.I.S.の會社は必要なる社員他は宿舍を支給せず下級高等官の雇賃は七八十盾より百盾位にして交際費多く食費高く月給三四百盾の社員は餘裕多からずと社員は五箇年勤続者一

瓜哇土人舞踏

箇年本國歸省を許され往復の船賃は會社此を支給し歸省中は俸給三分の二に減ざられ二十箇年勤続者には本俸半額の恩給ありと余輩の乗れる一、二等混合車は最近のホキ一改良にして一方に座席を置き通路を他方に設け幅員二米七六(約九呎)非常に寛く恰も廣軌の車輛の如し而して動搖も亦非常に少し結果良好なりと言へり本邦の如き階道多き所にては使用不可能なりとするも研究を要す可き



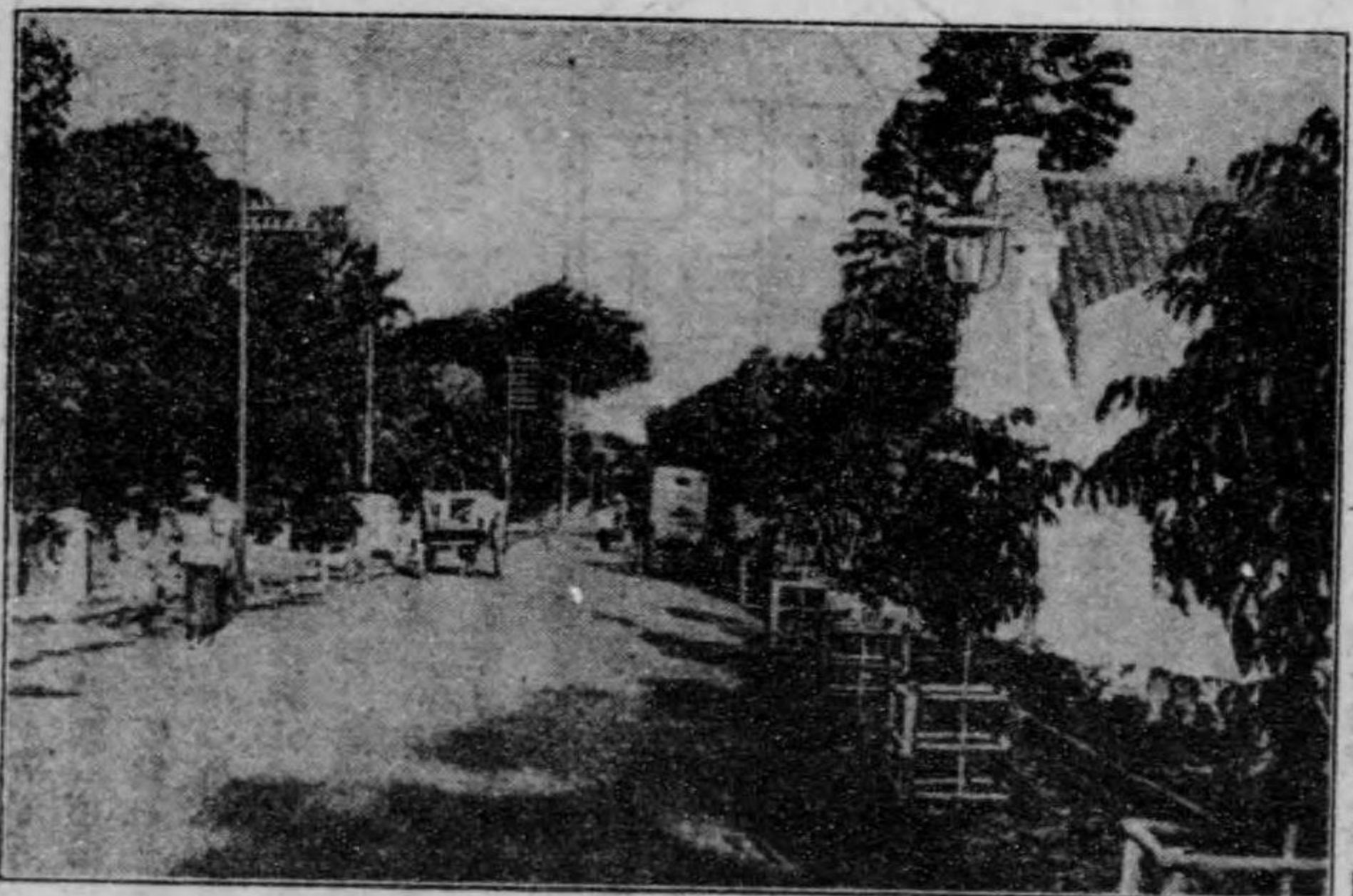
問題とす沿線山地はチーク林非常に多く又盛んに幼樹を植ふつゝあり平地には玉蜀黍の畑非常に多しベンガワン溪流域一帶は土地豐沃なれども灌溉の設備成り所謂看天田にして一期は雨期を利用

して米作を得るも他は三蜀黍園となす近來總督府に於てベンガレ溪をダムにて堰止め流域一面に亘る灌溉工事を設計せしに二千萬乃至二千五百萬盾の大資金を要するを以て未だ着手の運びに至らざるも經濟界の復興を待つて早晚事實となりて顧る可しと沿線土人の家屋は屋敷園りを竹欄にて圍み入口に門を作り恰も圖の如くにして本邦の島居は此より變化せしにあらずやと思はる節あり加之住宅は神社の御宮作りの恰好なり圖は住宅其儘なるが恰も拜殿作りの神社建物に似他のものは乙がなくて其代りに甲か二箇連續して建てらるゝあり此時は必ず一方は屋根を低くす入口は正面に一箇所作り四周の壁には窓を設けず光線は竹網代より自由に差込むものと見ゆ米倉など上古より傳はる寶物入の寶庫其儘なり船中チモール内地を旅行せしものあり上圖は同島建物の圖にして恰好も本邦古神社の建物に似特に入口は初甲より入り三四尺の廊下となり左に折れて乙の裏の階段より上り更に廊下なり再び甲の裏の階段より上り一階段の床二階段の床順次に上るに従ひ家長の住所となり出雲大神の建物の構造と類似せりと云へり馬來半島より南洋諸島にかけ用材こそ異なれ古代本邦神祇的の建造物長び多し屋根はジャワ島のものは多く椰子の一種の枯葉又は赤色の薄瓦を用ふるも馬來半島及チモールのものはアタップ(Atap)と云椰子の種類の枯葉を長さ三四尺の竹に垂下したるものを重ね葺にす日本の藁葺又は茅葺屋根と一見少しも變らぬ都市を離れて質樸なる村落に入れば上古に及つた様な氣がする技師ス君と種々雑談に耽り時の遷るを知らずスマラン、スラバヤの中間にて同技師と秋を別つ深く同社長の厚意併せて同技師の深厚なる

親切を謝す夫よりスラバヤに向つた
午後三時スラバヤに若しホテルシンパンに投じ再び安達石井の兩
君と會し午後七時半よりホテルヘルン
ドウレンに南洋郵船會社の同地重なる
日本人の招待會に船客の一人として案
内せらる

第三十三信

二十一日午後三時に布哇の大坂スラバ
ヤに著た先に電報で願つて置たから三
井より店員迎へに来て呉れ迷子となら
ずにシンパン街のホテルシンパンに投
じた例の通り水浴をやり船中にて運と
なりし池田農務省實業練習生を高橋
商店に訪ね店主及池田兩夫妻より厚遇
を受け飯、古奇物等を贈られ七時過ぎ
歸宅南洋郵船會社の晩餐會にヘルンド
ウレンに行つた主客十六名吾輩相伴の
外は孤軍奮闘漸く南洋發展の基礎を作
れる當市馳名の紳士高談放論中々賑や
かなる宴であつた荷爾宴會の他と少し
異なるは宴會の初めよりシャンパン
を抜くとて宴會中途に中休みして煙草
を用ふることなどは一寸支那式の點心に類似してゐる十一時歸宅
したが市中は左程賑かでない他同様十一時は散歩の終りであらう



夫より先きは寛性の獨占時刻であらう
二十二日官線東部鐵道管理局に行き工務課長に面會十時過ぎより
一時過ぎまで話しこんだ來客もあり辭し
て歸つた午後スラバヤ築港を見に行つ
た夜は三井で鶴の勤焼の御馳走になり
歸路ホテルオースト布哇に行き毛唐の
オーゲストラを聞た女三人男三人ビヤ
ノやら何々やらの合奏であるが善惡共
に分らないは顔ばかり見てゐる毛唐も
澤山あつた二十三日に出帆すべき船が
荷役の都合で一日延び且セレス島マ
カッサ港に著くこととなつた其爲香港
著は二日延び七日到着するだらうとの
話である當日はスラバヤより北海岸を
走るプロボリゴ迄汽車旅行をやつた
昨日工務課長の談話通り此邊の軌條は
重き軌條と交換してゐる引上げ軌條は
直にスマトラ鐵道に送付するのである
近來關領印度政府に於てはスマトラの
開發に全力を盡して居る此等も其一端
である布哇に於てチエリボン附近より
マオス附近に中央橫斷線を設けてパダ
ヒヤよりスラバヤ迄一日で行けるなど、總裁はじめ高級當局者が
嬉しがつて居るが其金があらばスマトラに力を盡した方が策の得

たものである

二十四日朝六時半朝食をすまし自動車にて波止場に行き夫より小
蒸汽にて三時間走りやつと本船北都丸
に乗船した船長初め船員一同基隆來の
顏馴染チャーオーの一言で挨拶済み固苦
しき洋服を捨て廣袖の和服と著換た氣
持は又別物

二十四日午前十一時にスラバヤ港外を
出帆し二十六日朝八時にセレス島マ
カッサ港に著た此處迄の海路は所謂無
風帶至極平穩無事御陰に 旅行日記の
整理の端緒を得た港の入口に獨船三隻
竝んで居る大概五六千噸の船で一隻は
七千噸位の新造船である船員は欲しさ
うに見つめて居る港外で水先案内か乗
り込んだ丁度碇泊地の右に古めかしき
建築の家屋あり間へば三百年前のホル
トガル人の占領時代ゴッ王のために築
造せるものにしてロツターダムと稱す
一六六七年荷爾提督スピールマン氏に
よつて奪取せられたるもの現今は兵營
となり然も砲門を備へ一寸海より見れ
ば高山峻嶺を見ないが海岸に沿ひ綠樹帯をなし椰子模様となり實
に見るからに心持善し船よりホートを卸して上陸し稻垣商行に立



寄り店員の案内にて市内を見物した先づ波止場より兵營前の廣場
に至れば舊城則ち今の兵營は繞らずに壘濠を以てし架するに日本
風の欄干附の橋梁を以てす光景甚だ本
邦の城塞に似たり其前面は廣場にして
練兵場であらう其前大通りはアツサ
ムの竝木道幅狭き迄に綠葉を以て路面
を掩ひ片側で洋人の雜貨屋ホテルバー
などあるが夕方夫婦連で来てイチヤツ
カレたら見て居る兵隊さんかたまるま
い然しホテルとかバーとか言ふと如何
にも都會めくが田舎の古い街道と見れ
ば差支ない夫より竝木の通を過ぎて裏
町の土人町に出たが一種變つた土人風
の住宅がある日本神社風の建物で床が
高さ五六尺板或は竹網代にて四壁を圍
み屋根椰子葉葺き如何にもなつかしく
見ゆる然しハイカラが經濟上か知れど
壁屋根共トタン浪板張りの建物あるに
は少からず興を覺ました支那人市街は
中々繁盛で大商人が多いとのこと一巡
してとある家に入りて晝食をなした
市街は人口三萬洋人千八百日本人百、

稻垣川原等の商店を除けば他は旅館散髪屋娘屋などである當港は
非常に有望の土地である市自身として何等の産物なきも附近一帯

の各地より豊富なる熱帯産物悉く此處に集合し歐米の工業地に送られ濠洲通の眞珠採集船も多く此地に集まる今年の統計によれば次の數字を示して居る

入港船數 四七四 噸數 七五三六二

出港船數 四八五 噸數 七五五五三

今日も三四千噸の汽船五隻棧橋に横着けになつてゐる内一隻は荷開行のものなるが教日前空船で来り今は滿載してドラフト繰迄沈み貨物は全部コブラ則椰子實なり其他棧橋及其附近の倉庫にはコブラ藤其他輸出品雜然として横たはつて居る今重なる輸出品を上げれば

一 歐洲向 コブラ、藤、コパール、内荳蔻、ゴロヒ、貝殼、石花菜、海參、水牛皮

一 日本向 龍甲(二八〇、〇〇〇ギルダ)高瀬貝(ホタテの原料品)(一七五、〇〇〇ギルダ)其他の貝類(一七、五〇〇ギルダ)犀角(一〇、〇〇〇ギルダ)

其他白檀蜜蠟丁子等各地に輸出せらる然れども日本には未だコブラを使用す可き工業發達せざるを以て本邦には殆んどなし今參考としてマスマ全島より輸出せしコブラ及藤の價格品料を示せば次の如し



コブラ (八、〇一九、六五〇キログラム) (一六、〇一八、三六四ギルダ)

山火 噴 口 メ ス ー リ サ ッ ト

マカッサなる言葉は初めて聞たが来て見て有望に驚た港外に三隻の獨船が居る假令自衛のため附近近海より集つて来たにせよ意を南洋に用ふるの深き實に敬服の至りに堪へずマカッサにて晝食にビールを用ひたり見慣ぬ健印のレツテルありキートンとして有名なものが獨逸産にして交戦後數月運輸の途なき、尙、市中に貯賣せらる取引の大なる想見すに足る

本日はクリスマスであるが市中散歩しても何等の裝飾もない

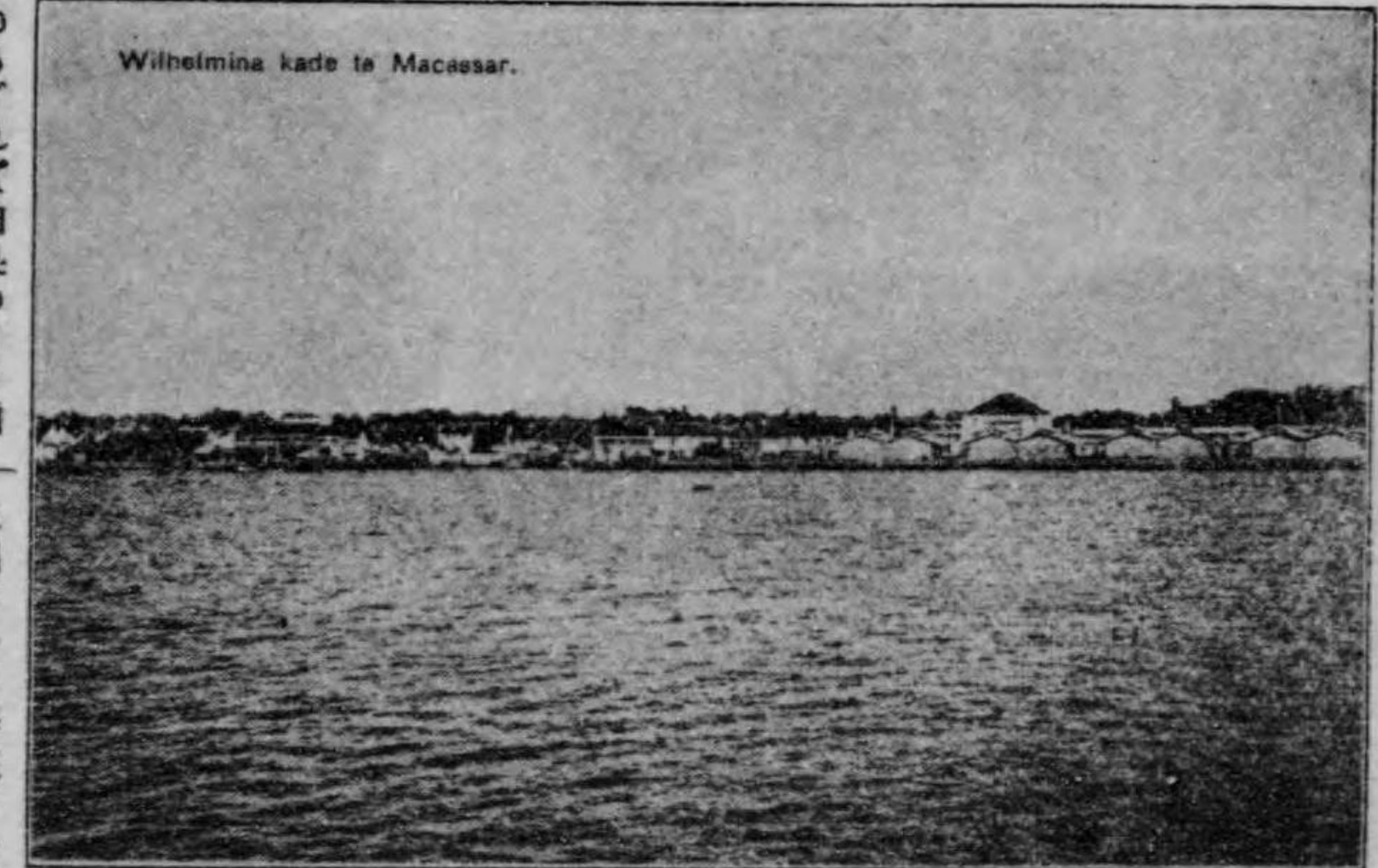
市中に眞珠なども見當らぬ練玉あつた一箇八錢だと云ふ二錢五厘につけたがまけない
セレベスは本邦の南洋發展に於て見のがす事出来ぬ島である

一月十四日チャイナ號船室にて
船内にて瓜哇鐵道年報蘭領印度鐵道會社の兩報告書を見かけて居るが蘭語と來るから珍文漢文少し解からない之れには不一方苦心した初めより斯くあらんかとバタヒヤにて蘭英のボツケツト字書を購入し字引と首引に漸く一部の大要を知る事が出来た何れ出来る報告書なども不充極まるものだらう讀者は少しく苦心丈けを買ひて貰ひたい

於チャイナ號船内

第三十四信

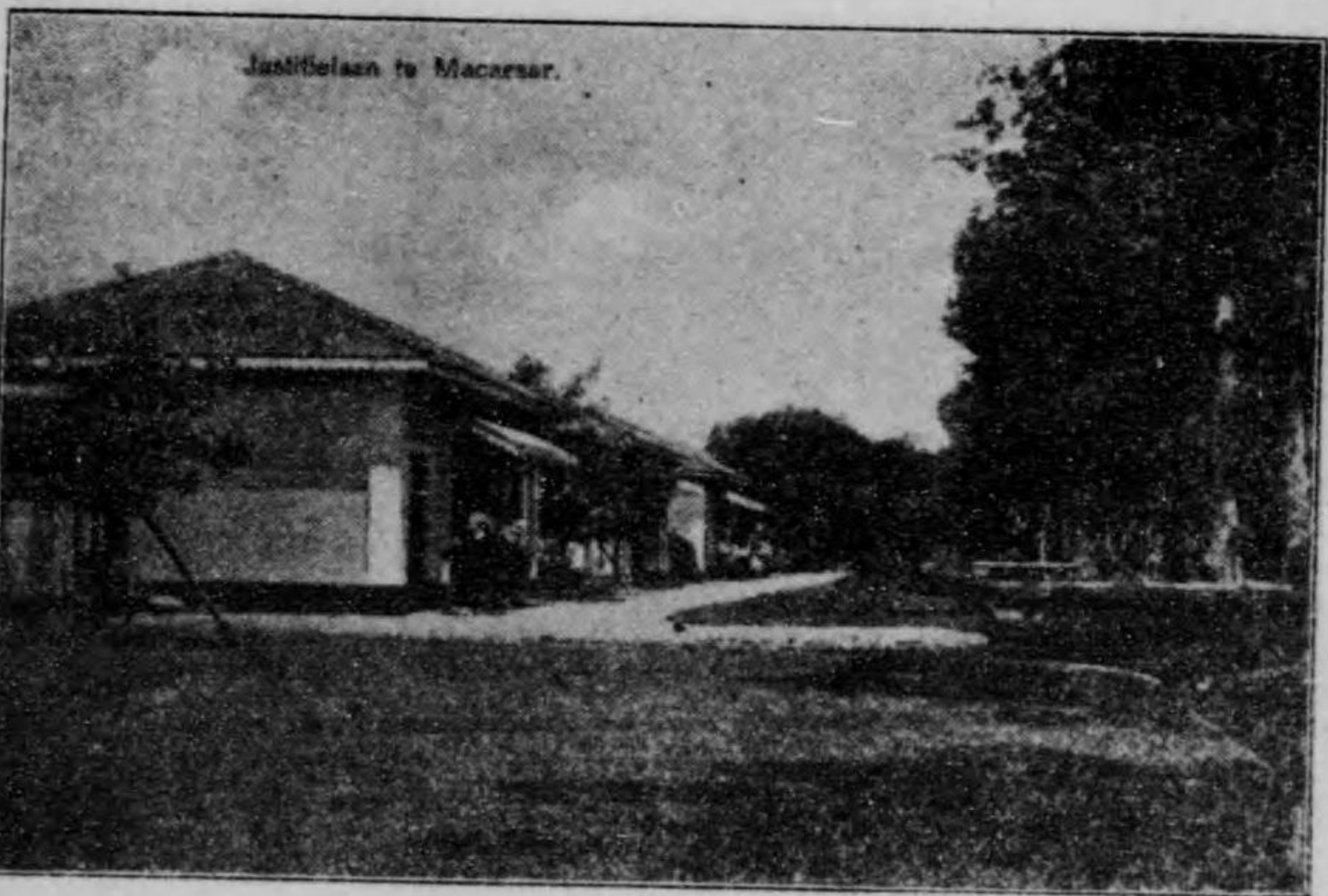
二十八日午前六時半夢想して居つたホルネオ島南岸蘭領の一港バリツハバンに著た此處著一哩位前より海面は氣の勢が油染みて少しく變色してなり船員の話によれば魚類までが充分洗滌するにあらざれば油臭ありと測々到着し船中より見れば海岸延長二哩程は全部工場にて普通の如



港 サ ツ カ マ

く烟突こそ林立せぬが代りに非常に大なるタンクが各所に散見せられ其間に製油工場機械工場其他の各種の工場が處狭き迄に建設せられ道路には會社専用の鐵道が材料を運搬して夫から夫と走つてゐる今北部丸は此石油會社より副産物として製作する蠟燭等の日本支那等に輸出するのを積み取に來たのである會社から太つた積荷係の者が來て居る工場見物出來ると聞たら一言の下に否の返事である夫では表門からは駄目である海岸を變じて裏門からするに如かじと思ふた船員兩名と上陸した會社特設の棧橋あり四五千噸の巨船を横着けにし得べく橋上には鐵道を敷き送油鐵管を設け油は山手のタンクより直ちに船内タンクに注入することが出来又外部より輸送せる原油はポンプにて鐵管により直ちに構内タンクに導くことが出来るこの種の棧橋が四箇他に荷蘭のローヤルパツケツト會社所屬のもの一、税關所屬のもの一都合六箇の棧橋が會社前の沿岸に沿つて築造せらる鐵道は會社専用にして海岸に沿へる道路に敷設せられ工場前を走り夫より會社所屬の住宅地に至る延長約構内三軒半構外四軒而して自轉車の

他、何等の乗物がない。開けば道路を損するとの理由にて許さぬ。うである。棧橋より日本人の居る街迄一里半も熱帯の日中を徒歩で行つた幸にして此地に長く住するも、の原油産地のサンガサンガに十有餘年も居つた人に面會して其一般を知る。こゝが出来た領事の報告書にも此會社の事業は秘密にて外界には判明せずとあり。此會社は淀艦長が見た位で他人はあまり見たことなしと言つて居つた。日本人の居る處は會社の經營して居る住宅地に接して、十年前に建つたに支那人町で印度人の苦力頭が地面を借り下げ貸家を建てたのが大部分あるさうだ。木造にて鐵木にて作りたる板に、屋根を張り、恰度木曾か信州の山奥に行つた様な心地がする重なるものは支那人で千人位日本人七十人位雜貨屋は二軒。其他は娘子軍である。今少く會社のことを見よ。然し固より正確を期し難く、一部は報告文により一部は聞取たるものよりなる。



今より十五年前ホルネオ、ママトラ兩島の石油業統一のため Royal Dutch petroleum Co. が千八百九十年に創立した。重に英人の經營になり、資本金は五千五百五十萬盾にして

て拂込株券は四千萬盾精油所をスマトラ島に三箇所及ホルネオ島のバリックパパンと都合四箇所に設置し、原油を附近の地方より集めて盛に精油に従事し、製品は此等の各港より重に東洋諸港に輸出して販賣した。其後、グッチ石油會社と英國資本家の代表者たる Shell transport & trading Co. と合同して現在の Patasche petroleum Co. となり、資本金を八千萬盾となし、五株に分ち、三株はグッチ石油會社二株はシェル會社の所有とし、歐亞の到着地に於てはアジア石油會社に引渡して適宜販賣せしめ、臺灣に於てはサミニール商會の一手販賣に係る。ライジングケサンの石油は則ち此會社の製品なり。ホルネオ島バリックパパンに於て精油する原油産地は

所 判 裁 サ ッ カ マ

- 一 サンガサンガ (バリックパパンより約八十里)
 - 一 タラカン (同所より約三日路行)
 - 一 サンボジャ (同所より二十五哩)
 - 一 カリチラン (同所より約十五哩)
- の四箇所にして、最多量に産出するはサンガサンガとす。同所は川に沿ひ山を脊にしたる處にして、川に接し、石油あり、其數二百八十本以上とし、一日の産額は盛なる時は三

千噸以上に及ぶと云ふ。六十一號デリックは十年前に掘りたるものなるが、多きときは一日に千二百噸以上を産し、今日尙多量の原油を産す。油井の深さは八百尺乃至千五百尺にして、十年前以前にありては土砂を手掘すれば直に原油を産し、又附近土地一帶は油氣地上に滲出して、白足袋にて徒歩すれば直に油にて黒色に變ずると同所は二十五年前初めて英人にて經營せられたりと言へり。同所は直に川に接し加ふるに、二千噸級の汽船は自由に入出得るを以て、輸送は一部船に據り、一部は同所よりバリックパパンの精油所迄四十七哩間九吋位の鐵管二條を布設し、輸送用に供せり。同所に小川と云ふ日本人技師あり、十一年前入社し、最初は月給八十五盾なりしが、今は四百五十盾の高給を得て、内外人に信用ある紳士なりと、タラカンには目下五六十本の石油井あり、サンボジャには十二本の石油井あり。

カリチランの一井善く一日百噸位噴きしも一週間に閉息し、試掘中のものも目下時局のため休止中。精油工場は原油を燃料として電氣を起し、各工場の原動力とし、精油機械鋸等各種の工場あり、原油、製油貯藏タンクは一箇の容積二千噸以上三千噸にして、其數約四十箇(金平氏の報告に數千とあり、長官の南洋發展に數千とあるは活字の誤りて、其儘使用せしならん)ア、實に盛大を極む。一八〇七年の調には原油産額百一十萬噸とあり、大體の觀念を得べし。歐洲及東洋共製油は勿論、原油も輸送販賣す、製油の残り滓は初め之を海中に放棄せしが、一九一〇年頃より山脊に一大池を掘り貯藏所

となし、蠟、燭等を作り、盛に東洋方面に販賣す。南洋郵船會社重にこれを運搬し、年額四五千噸に達す。其副産物として、ベンジン、モーター油、用油器、機油、ターペンタイン、パラフィン、石蠟等を製す。バリックパパン精油工場は歐人百二十人、内英人七人、獨人六あり、彼等は高級者にして、労働者は支那人を使役し、時局以前盛大なりし時は五千乃至六千に達せし目下は三千人位にして、運搬夫は印度人にて約二百人あり。

支店長	月俸	五千盾
技師	同	千二百盾—千五百盾
下級歐人	同	二百盾
混血歐人	同	百盾
鍛冶職日本人	日給	二盾半
支那人	同	二盾
大工	日本人	同
	支那人	二盾—一盾七五

支那人に對しては募集の際多くは一箇年の年期契約をなし、五十圓(?)位前渡しをなし、食料、家賃、會社持月七盾半位にて、使役契約後十五盾位にて使役するもの、如し然して支那人の賭博心を利用し、賭博チ、ハ、等は殆んど黙認して、金錢を消費せしめ、歸國の念を絶ち、労働の止むなきに至らしむる策をとれり。必要品の消費組合あり、近來共濟組合を設けたりと。歐洲人は五箇年に一箇年歸省するを得、二十箇年に一恩給に達す(十四日朝チャイナ號にて入港して、時間なし、略文略筆後に補充の積り)

終